ISSN 1341-8548

館報 2002 51

ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団 ブリヂストン美術館
石橋財団 石橋美術館

館報 2002 51

ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団 ブリヂストン美術館
石橋財団 石橋美術館

目次　Contents

設立趣旨

ブリヂストン美術館

ブリヂストン美術館は，株式会社ブリヂストンの創業者・石橋正二郎（1889-1976）が多年にわたって蒐集愛蔵した内外の美術品を，社会公共のため，広く一般の鑑賞に供し，文化向上の一端に貢献したいとの趣旨に基づき，1952（昭和27）年1月8日，ブリヂストンビルディング竣工とともに同ビル内に開設されたものである。その後1956（昭和31）年4月に設立された財団法人石橋財団がその経営を継承し，1961（昭和36）年9月には同財団が石橋正二郎から所蔵美術品の寄贈を受けた。なお，2003（平成15）年1月に一階部分の増床工事を行い，ティールームを開設した。

石橋美術館

石橋美術館は，石橋正二郎が1956（昭和31）年4月26日，同社の創立25周年を記念して，社会公共の福祉と文化向上のために，郷土久留米市に寄贈した石橋文化センターの中心施設である。1977（昭和52）年，石橋正二郎の遺族の寄付により増改築が行われ，同年4月以降，久留米市の要請により，石橋財団がその管理運営に当たっている。

石橋美術館別館

石橋美術館別館は，1995（平成7）年1月8日，石橋正二郎によって蒐集された石橋コレクションのうち書画・陶磁器類を収蔵展示する施設として石橋幹一郎により久留米市に建設寄贈され，一年余の養生期間を経て1996（平成8）年10月17日に開館した。なお，石橋財団が管理運営に当たっている。

機構・運営

石橋財団　（2003年3月31日現在）

理事長・評議員	内田　宏						
理事・評議員	中川　洋	石橋　寛	鵜澤昌和	加嶋昭男	富山秀男	喜多村禎勇	中山　暁
監事	亀徳正之	唐澤高美	湯淺達祐				
評議員	石井公一郎	高碕芳郎	橋口　收	高階秀爾	石樽和夫	平野　実	城多秀年
	村上　浩	小林　忠	石橋知子	遠藤長夫			

美術館運営委員会

委員長	石橋　寛						
委員	嘉門安雄	高階秀爾	内田　宏	小林　忠	島田紀夫	富山秀男	喜多村禎勇

寄付助成委員会

委員長	鵜澤昌和					
委員	内田　宏	吉久勝美	加嶋昭男	富山秀男	喜多村禎勇	

財団委員会

委員長	内田　宏						
委員	石橋　寛	鵜澤昌和	亀徳正之	唐澤高美	湯淺達祐	富山秀男	喜多村禎勇
	中山　暁						

常務理事	中山　暁	富山秀男
美術品保存管理課長	石井　亨	

事務局

事務局長	遠藤長夫

ブリヂストン美術館

館長	富山秀男	**副館長**	宮崎克己	**事務部長**	黒田昌弘	**学芸課長**	貝塚　健

石橋美術館／石橋美術館別館

館長	喜多村禎勇	**副館長**	田内正宏	**事務部長**	郷原耕亮	**学芸課長**	植野健造

Brief Histories of the Museums

Bridgestone Museum of Art

On January 8, 1952, ISHIBASHI Shojiro (1889-1976), the founder of the Bridgestone Corporation, wishing to promote cultural development in Japan, opened to the public a museum of art within the newly-completed Bridgestone Building under the name of the "Bridgestone Gallery". The works of art, both Japanese and foreign, which he had collected over the years formed the nucleus of the exhibits. In April 1956, the Ishibashi Foundation was established to take over the management of the Gallery, and in September 1961, ISHIBASHI donated the works in the Gallery to the Foundation. In January 1968, the English name was changed from the "Bridgestone Gallery" to the "Bridgestone Museum of Art". In January 2003, the ground floor was enlarged and a tea room was opened.

Ishibashi Museum of Art

On April 26, 1956, in commemoration of the 25th anniversary of the Bridgestone Corporation, ISHIBASHI Shojiro donated the Ishibashi Cultural Center to his home town of Kurume to render a public service and promote cultural development. The Ishibashi Museum of Art (originally the Ishibashi Art Gallery) is the principal institution in the Center. In 1977, the Museum building was enlarged and renovated, thanks to a contribution from the Ishibashi family, and in April of the same year the city of Kurume entrusted the Ishibashi Foudation with the management of the Museum.

Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery

On January 8, 1995, ISHIBASHI Kan'ichiro, son of ISHIBASHI Shojiro donated to the city of Kurume a new museum especially designated to exhibit Shojiro's collection of Asian Arts, such as brush painting, calligraphy, porcelain works. The museum has been open to the public since October 17, 1996, after careful observation and research for over a year. The museum is being managed by the Ishibashi Foundation, along with the Ishibashi Museum of Art.

Organization and Management

Ishibashi Foundation (As of March 31, 2003)

President of the Board of Directors and Council Member			UCHIDA Hiroshi	
Directors and Council Member				
	NAKAGAWA Yoh	ISHIBASHI Hiroshi	UZAWA Masakazu	KASHIMA Akio
	TOMIYAMA Hideo	KITAMURA Sadao	NAKAYAMA Akira	
Auditors	KITOKU Masayuki	KARASAWA Takami	YUASA Tatsusuke	
Council Members	ISHII Koichiro	TAKASAKI Yoshiro	HASHIGUCHI Osamu	TAKASHINA Shuji
	ISHIKURE Kazuo	HIRANO Minoru	KITA Hidetoshi	MURAKAMI Hiroshi
	KOBAYASHI Tadashi	ISHIBASHI Tomoko	ENDO Takeo	
Executive Committee of the Museums				
Chairman	ISHIBASHI Hiroshi			
Members	KAMON Yasuo	TAKASHINA Shuji	UCHIDA Hiroshi	KOBAYASHI Tadashi
	SHIMADA Norio	TOMIYAMA Hideo	KITAMURA Sadao	
Program Development Grant Committee				
Chairman	UZAWA Masakazu			
Members	UCHIDA Hiroshi	YOSHIHISA Katsumi	KASHIMA Akio	TOMIYAMA Hideo
	KITAMURA Sadao			
Strategic Planning Committee				
Chairman	UCHIDA Hiroshi			
Members	ISHIBASHI Hiroshi	UZAWA Masakazu	KITOKU Masayuki	KARASAWA Takami
	YUASA Tatsusuke	TOMIYAMA Hideo	KITAMURA Sadao	NAKAYAMA Akira
Managing Director	NAKAYAMA Akira			
Art Director	TOMIYAMA Hideo			
Chief Conservator	ISHII Touru			
Administration				
Executive Secretary	ENDO Takeo			
Bridgestone Museum of Art				
Director	TOMIYAMA Hideo	**Deputy Director**	MIYAZAKI Katsumi	
Administrator	KURODA Masahiro	**Chief Curator**	KAIZUKA Tsuyoshi	
Ishibashi Museum of Art / Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery				
Director	KITAMURA Sadao	**Deputy Director**	TAUCHI Masahiro	
Administrator	GOHARA Kosuke	**Chief Curator**	UENO Kenzo	

〈特別展〉

ブリヂストン美術館開館50周年記念　藤島武二展

2002年4月6日(土)－6月2日(日)
会場：第1室, 第2室, 第4室－第10室
主催：石橋財団ブリヂストン美術館 / 石橋財団石橋美術館 / 日本経済新聞社
協賛：株式会社ブリヂストン
出品内容：油彩112点, 水彩7点, パステル6点, クレヨン, グワッシュ, 墨, 木炭, インク, 鉛筆など22点, 装幀・挿絵本6冊, 画帖9冊, 書簡などの資料5点　計167点
入場者総数：48,089人(1日平均 962人)
担当＝貝塚健, 中田裕子

展覧会ポスター

出品目録：

第1章　白馬会と明治浪漫主義

1. 《桜狩(習作)》/ 1893年頃 / 油彩・カンヴァス / 67. 0×42.5cm / 鹿児島市立美術館
2. 《桜の美人》/ 1892-93年頃 / 油彩・カンヴァス / 56.0×38.0cm / 石水博物館
3. 《桜狩(婦人立像)》/ 1892-93年 / インク, 墨・紙 / 10.5×13.6cm / 財団法人大川美術館
4. 《桜狩図》/ 1892-93年 / インク, 墨・紙 / 9.9×13.4cm / 財団法人大川美術館
5. 《春の小川》/ 1896年 / 水彩・紙 / 23.8×31.0cm / 東京芸術大学大学美術館
6. 《逍遥》/ 1897年 / 油彩・カンヴァス / 39.4×50.0cm / 東京芸術大学大学美術館
7. 《池畔納涼》/ 1898年 / 油彩・カンヴァス / 152.0×194.4cm / 東京芸術大学大学美術館
8. 《浜辺》/ 1898年 / 油彩・板 / 24.0×33.0cm / 丸紅株式会社
9. 《浜辺》/ 1898年 / 油彩・板 / 23.5×32.5cm / 三重県立美術館
10. 《潮汲み》/ 1898年頃 / 油彩・板 / 24.3×33.4cm / 鹿児島市立美術館
11. 《造花》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / 136.5×94.0cm / 東京芸術大学大学美術館
12. 《池と堤》/ 鉛筆・紙 / 10.1×15.4cm / 愛知県美術館
13. 《素描》/ 鉛筆・紙 / 10.0×15.4cm / 豊田市美術館
14. 《素描》/ 鉛筆・紙 / 10.0×15.4cm / 豊田市美術館
15. 《自画像》/ 1902年 / インク・紙 / 16.0×14.5cm / 個人蔵
16. 《自画像》/ 1903年頃 / 油彩・カンヴァス / 46.0×33.4cm / 石橋財団石橋美術館
17. 《天平の面影》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 197.5×94.0cm / 石橋財団石橋美術館
18. 《桃花裸婦》/ 1902年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.0×91.0cm / ひろしま美術館
19. 《婦人と朝顔》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 46.0× 45.6cm / 個人蔵
20. 《夢想》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 46.6×32.3cm / 個人蔵

21-1. 《音楽六題(三味線)》/ 1905年 / 水彩・紙 / 7.2×8.2cm / ひろしま美術館
21-2. 《音楽六題(ヴァイオリン)》/ 1905年 / 水彩・紙 / 8.5×8.5cm / ひろしま美術館
21-3. 《音楽六題(鼓)》/ 1905年 / 水彩・紙 / 8.9×8.1cm / ひろしま美術館

21-4. 《音楽六題(笛)》/ 1905年 / 水彩・紙 / 9.3×8.0cm / ひろしま美術館
21-5. 《音楽六題(琵琶)》/ 1905年 / 水彩・紙 / 9.1×8.0cm / ひろしま美術館
21-6. 《音楽六題(ピアノ)》/ 1905年 / 水彩・紙 / 9.3×8.3cm / ひろしま美術館
22. 《ステラ》/ 水彩, 色鉛筆・紙 / 14.3×9.2cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
23. 《獅子の子落し》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 151.9×82.1cm / 社会福祉法人石井記念友愛社

第2章　西洋との出会い：パリからローマへ

24. 《裸体習作》/ 1906年 / 油彩・カンヴァス / 80.5×53.5cm / 鹿児島市立美術館
25. 《裸婦(正面)》/ 1906-07年 / 木炭・紙 / 30.5×23.0cm / 早稲田大学會津八一記念博物館
26. 《裸婦(背面)》/ 1906-07年 / 木炭・紙 / 30.5×23.0cm / 早稲田大学會津八一記念博物館
27. 《裸婦》/ 1906-07年 / 鉛筆・紙 / 31.0×23.8cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
28. 《裸婦》/ 1906-07年 / 鉛筆・紙 / 31.1×23.8cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
29. 《臥裸婦》/ 1906-07年 / 鉛筆・紙 / 23.8×31.1cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
30. 《西洋婦人像》/ 1906-07年 / 油彩・カンヴァス / 58.3×39.1cm / 島根県芸術文化センター建設室
31. 《西洋婦人像》/ 1906-07年 / 油彩・カンヴァス / 38.2×36.1cm / メナード美術館
32. 《巴里寓居の記念》/ 1906-07年 / 油彩・カンヴァス / 89.6×63.1cm / いなり記念館
33. 《ヴェルサイユの庭》/ 1906-07年 / クレヨン, 鉛筆・紙 / 20.1×25.2cm / 財団法人大川美術館
34. 《ヴェルサイユ風景》/ 1906-07年 / 油彩・カンヴァス / 72.9×90.9cm / 石橋財団石橋美術館
35. 《ヴェルサイユ風景》/ 1906-07年 / クレヨン, 鉛筆・紙 / 20.7×24.9cm / 財団法人大川美術館
36. 《幸ある朝》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / 148.5× 93.5cm / 泉屋博古館
37. 《イタリア婦人像》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 64.5×55.2cm / 東京芸術大学大学美術館
38. 《チョチャラ》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×38.0cm / 石橋財団石橋美術館
39. 《黒扇》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 63.7×42.4cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
40. 《イタリア婦人像》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / 49.4×39.4cm / 福岡市美術館
41. 《半裸婦人像》/ 1908-09年 / 油彩・紙 / 30.5×28.5cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
42. 《池畔の女》/ 1908-09年 / 油彩・紙 / 28.5×30.6cm / 石橋財団石橋美術館
43. 《老人像》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 59.0×43.8cm / 佐賀県立美術館
44. 《風吹く日》/ 1908年 / 油彩・板 / 23.6×32.8cm / 個人蔵
45. 《スイス風景》/ 1908年 / 油彩・板 / 23.6×32.8cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
46. 《レマン湖》/ 1908年 / 油彩・板 / 23.6×33.0cm / 三重県立美術館
47. 《ネミ湖》/ 1908年 / 油彩・板 / 26.0×34.8cm / 石橋財団石橋美術館
48. 《ヨット》/ 1908年 / 油彩・板 / 33.0×23.7cm / 東京芸術大学大学美術館
49. 《ルツェルン》/ 1908年 / 油彩・板 / 23.5×32.8cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
50. 《ティヴォリ, ヴィラ・デステの池》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / 46.6×53.7cm / 東京芸術大学大学美術館
51. 《ヴィラ・デステの池》/ 1908-09年 / 油彩・厚紙 / 23.9×32.8cm / 石橋財団石橋美術館
52. 《池》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァスボード / 30.0×25.9cm / 石橋財団石橋美術館
53. 《噴水のある池》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァスボード / 24.0×32.6cm / 石橋財団石橋美術館
54. 《糸杉(ヴィラ・ファルコニエリ)》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 39.5×36.6cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
55. 《糸杉》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァスボード / 32.8×23.9cm / 石橋財団石橋美術館
56. 《イタリア風景(ローマ郊外)》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァスボード / 32.0×22.7cm / 中村研一記念美術館
57. 《ローマの遺跡》/ 1908-09年 / 油彩・板 / 35.1×26.2cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
58. 《ローマの寺院》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 33.1×26.6cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
59. 《ローマの郊外》/ 1908-09年 / 油彩・板 / 23.7×32.7cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
60. 《ポンペイ》/ 1908-09年 / 油彩・板 / 26.1×35.0cm / 石橋財団石橋美術館

61.《ポンペイ遺跡》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 26.0×34.9cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
62.《ポンペイの廃虚》/ 1908-09年 / 油彩・板 / 26.3×34.7cm / 茨城県近代美術館
63.《イタリアの海》/ 1908-09年 / 油彩・板 / 23.7×32.1cm / 石橋財団石橋美術館
64.《ナポリ湾》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァスボード / 26.0×35.0cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
65.《草の香》/ 1908-09年 / 水彩・紙 / 20.5×27.0cm / 個人蔵
66.《カンピドリオのあたり》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 左：188.0×94.4cm; 右：188.0×94.4cm / 大阪市立近代美術館建設準備室

第3章　帰国後の模索：自然主義から表現主義まで

67.《うつつ》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 65.1× 51.7cm / 東京国立近代美術館
68.《うつつ》/ 1913年 / 鉛筆・紙 / 20.5×14.5cm / 個人蔵
69.《匂い》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / 67.8×74.2cm / 東京国立近代美術館
70.《裸婦》/ 1917年頃 / 油彩・カンヴァス / 45.2×37.9cm / 三重県立美術館
71.《マンドリンを弾く女》/ 油彩・カンヴァス / 46.0×38.0cm / 朝日新聞社
72.《空》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / 112.2×121.0cm / 財団法人岩崎美術館
73.《夏雲》/ 1915年 / グワッシュ・紙 / 24.3×33.0cm / 個人蔵
74.《山中湖畔の朝》/ 1916年 / 油彩・カンヴァス / 60.7×80.4cm / 福岡県立美術館
75.《湖畔の裸婦》/ 1916年頃 / 油彩・カンヴァス / 49.0×45.2cm / 財団法人野間文化財団
76.《静》/ 1916年 / 油彩・カンヴァス / 88.2×223.0cm / 東京国立博物館
77.《大川端残雪》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス / 66.0×90.9cm / 三菱地所株式会社
78.《大川端残雪》/ 1917年頃 / 油彩・カンヴァス / 60.4×80.4cm / 個人蔵
79.《アルチショ》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス / 91.0×98.5cm / 東京国立近代美術館
80.《女の顔》/ 1921年 / 油彩・カンヴァス / 53.3×45.2cm / 財団法人ウッドワン美術館（旧住建美術館）
81.《椿を持つ婦人》/ 油彩・カンヴァス / 48.0×22.0cm / 福岡市美術館

第4章　アジアへの眼差し：朝鮮, 台湾, 中国

82.《花籠》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 63.0×41.0cm / 京都国立近代美術館
83.《朝鮮風景》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 79.4×116.6cm / 財団法人岩崎美術館
84.《朝鮮風景》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 42.3×64.6cm / 財団法人岩崎美術館
85.《朝鮮風景》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 63.5×89.6cm / 三重県立美術館
86.《朝鮮婦人》/ 1914年頃 / 油彩, パステル・紙 / 77.9×29.2cm / 石橋財団石橋美術館
87.《朝鮮婦人》/ 1914年頃 / 油彩・紙 / 77.1×29.3cm / 石橋財団石橋美術館
88.《朝鮮服の女》/ 1914年頃 / 鉛筆・紙 / 38.5×24.8cm / 愛知県美術館
89.《朝鮮服の女》/ 1914年頃 / 鉛筆・紙 / 32.5×14.0cm / 愛知県美術館
90.《風景》/ 鉛筆, 墨・紙 / 10.0×15.5cm / 長島美術館
91.《唐様三部作》/ 左：水彩, 油彩・紙 / 77.1×29.6cm; 中央：水彩, 油彩, パステル, 木炭, チョーク・紙 / 75.6×64.2cm; 右：水彩, 油彩・紙 / 77.1×29.3cm / 石橋財団石橋美術館
92.《騎馬婦人像》/ 1918年頃 / 油彩・厚紙 / 65.0×45.5cm / 長島美術館
93.《鷹狩図》/ 水彩, 鉛筆・紙 / 17.0×34.0cm / 財団法人笠間日動美術館
94.《アマゾーヌ》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス / 126.5×93.7cm / 財団法人岩崎美術館
95.《台南聖廟》/ 1933-35年頃 / 油彩・カンヴァス / 37.9×55.7cm / 宮崎県立美術館
96.《台湾孔子廟（台南）》/ 1933-35年頃 / 鉛筆, パステル・紙 / 17.7×24.8cm / 名古屋市美術館
97.《台湾台南聖廟の裏木戸》/ 1933-35年頃 / 油彩・カンヴァス / 53.0×40.8cm / 財団法人北野美術館
98.《台南風景》/ 1933-35年頃 / 油彩・カンヴァス / 40.8×53.3cm / 神奈川県立近代美術館
99.《台湾の女》/ 1933-35年頃 / 油彩・板 / 41.0×31.5cm / メナード美術館

100. 《麻姑献壽》/ 1937年 / 油彩・カンヴァス / 45.6×33.6cm / 個人蔵
101. 《婦人像》/ 1933-35年頃 / 鉛筆・紙 / 13.9×10.4cm / 財団法人大川美術館
102. 《婦人像》/ 1933-35年頃 / 水彩, 鉛筆・紙 / 12.9×9.8cm / 財団法人大川美術館
103. 《中国風景》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 73.0×100.0cm / 鹿児島市立美術館
104. 《蘇州河激戦の跡》/ 1939年 / 油彩・カンヴァス / 94.0×126.7cm / 財団法人笠間日動美術館
105. 《蘇州河激戦の跡》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 41.0×53.0cm / 佐賀県立美術館
106. 《上海黄浦江》/ 1941年 / 油彩・カンヴァス / 64.5×90.3cm / 東京国立博物館
107. 《黄浦江》/ 1938年 / 水彩・紙 / 27.5×36.2cm / 石橋財団石橋美術館

第5章　女性の横顔：西洋と東洋の交わり

108. 《ピサネルロ〈ジネヴラ・デステの肖像〉模写》/ 油彩・カンヴァス / 42.0×32.0cm / 個人蔵
109. 《東洋振り》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス / 63.7×44.0cm / 個人蔵
110. 《女の横顔》/ 1927年 / 油彩・板 / 45.8×37.5cm / ポーラ美術館(ポーラ・コレクション)
111. 《鋏剪眉》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 51.8×39.5cm / 鹿児島市立美術館
112. 《臥裸婦》/ 1928年頃 / 鉛筆・紙 / 24.1×28.4cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
113. 《裸婦》/ 1928年頃 / 鉛筆・紙 / 22.0×27.0cm / 鹿児島市立美術館
114. 《琉球の女》/ 1936年 / パステル・紙 / 38.3×28.0cm / 石橋財団石橋美術館

第6章　風景への挑戦：大洗, 大王岬, 淡路島, 屋島

115. 《菊(湖畔静物)》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / 98.5×91.0cm / 林野庁
116. 《淡路島遠望》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×72.9cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
117. 《淡路島遠望》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 60.8×80.3cm / 個人蔵
118. 《潮岬風景》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 33.8×43.9cm / 鹿児島市立美術館
119. 《潮岬海景》/ 1931年 / 油彩・板 / 15.4×22.6cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
120. 《海景(潮岬)》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 24.5×40.8cm / 個人蔵(佐賀県立美術館寄託)
121. 《浪(大洗)》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 33.3×45.6cm / 石橋財団石橋美術館
122. 《大洗海岸》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 73.0×91.0cm / 大分市美術館
123. 《屋島よりの遠望》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×72.6cm / 石橋財団石橋美術館
124. 《屋島よりの展望》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×72.7cm / 財団法人国立公園協会
125. 《大王岬に打ち寄せる怒濤》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 73.3×100.4cm / 三重県立美術館
126. 《大王岬に打ち寄せる怒濤》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 73.0×91.0cm / ひろしま美術館
127. 《大王岬の日の出》/ 1932年頃 / 油彩・板 / 15.6×22.7cm / ポーラ美術館(ポーラ・コレクション)
128. 《奈良風景》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×45.7cm / 石橋財団石橋美術館
129. 《室戸岬遠望》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / 68.0×52.8cm / 泉屋博古館
130. 《荒れる日》/ 1935年頃 / 油彩・カンヴァス / 36.5×53.4cm / 個人蔵

第7章　集大成へ：「日の出」と「耕到天」

131. 《日の出(伊勢朝熊山よりの眺望)》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / 38.0×45.6cm / 三重県立美術館
132. 《五剣山の日の出》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×72.8cm / 石橋財団石橋美術館
133. 《五剣山の日の出》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 37.8×45.3cm / 香川県文化会館
134. 《山上の日の出(碓氷峠)》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 72.7×100.0cm / 富山県立近代美術館
135. 《旭光(新高山)》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / 38.1×46.0cm / 石橋財団石橋美術館
136. 《日の出》/ 1931年頃 / 油彩・カンヴァス / 72.0×100.3cm / ひろしま美術館
137. 《日の出》/ 油彩・カンヴァス / 33.4×45.5cm / 財団法人野間文化財団
138. 《東海旭光》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×90.9cm / 石橋財団ブリヂストン美術館

139. 《朝の海》/ 1930-32年頃 / パステル・紙 / 27.2×35.7cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
140. 《日の出》/ 1930-32年頃 / パステル・紙 / 27.8×36.2cm / 石橋財団石橋美術館
141. 《神戸港の朝暘》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 48.2×59.2cm / 京都市美術館
142. 《港の朝暘》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 43.5×59.4cm / 東京国立近代美術館
143. 《港の朝暘》/ 1943年 / 油彩・板 / 18.6×24.0cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
144. 《蒙古の日の出》/ 1937年 / 油彩・カンヴァス / 41.1×53.3cm / 石橋財団石橋美術館
145. 《蒙古の日の出》/ 1937年 / 油彩・カンヴァス / 72.5×100.8cm / 鹿児島県歴史資料センター黎明館
146. 《蒙古高原の日の出》/ 1937年 / パステル・紙 / 28.0×35.8cm / 鹿児島市立美術館
147. 《蒙古の日の出》/ 1937年 / パステル・紙 / 27.2×35.0cm / 個人蔵
148. 《耕到天》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 91.0×97.5cm / 財団法人大原美術館
149. 《耕到天》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 38.0×45.7cm / 郡山市立美術館
150. 《耕到天》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 68.5×85.0cm / メナード美術館

第8章　アトリエ：創造の現場

151. 《素描(『明星』の挿絵)》/ 1901年頃 / 鉛筆・紙 / 13.4×9.9 / 豊田市美術館
152. 《素描》/ 1901年頃 / 鉛筆・紙 / 15.7×9.9cm / 豊田市美術館
153. 《縁日で》/ 1901年頃 / 鉛筆・紙 / 15.2×10.0cm / 愛知県美術館
154. 《オリエントの模様》/ 1913年頃 / 墨, 鉛筆・紙 / 6.6×16.0cm / 愛知県美術館
155. 鳳晶子『みだれ髪』(東京新詩社, 1901年8月刊行)/ 装幀, 木版による挿絵5点 / 財団法人日本近代文学館
156. 川上瀧彌, 森廣『はな』(裳華房, 1902年1月刊行)/ 装幀, 木版による挿絵2点 / 石橋財団ブリヂストン美術館
157. 與謝野晶子『小扇』(金尾文淵堂, 1904年1月刊行)/ 装幀, 木版による挿絵4点 / 財団法人日本近代文学館
158. 與謝野鉄幹, 與謝野晶子『毒艸』(本郷書院, 1904年5月刊行)/ 装幀, 木版による挿絵4点 / 財団法人日本近代文学館
159. 上田敏『海潮音』(本郷書院, 1905年10月刊行)/ 装幀 / 財団法人日本近代文学館
160. 上田敏『うづまき』(大倉書店, 1910年5月刊行)/ 装幀 / 財団法人日本近代文学館
161. 與謝野晶子『春泥集』(金尾文淵堂, 1911年11月刊行)/ 装幀 / 財団法人日本近代文学館
162. 『上田敏全集』第三巻(改造社, 1928年6月刊行)/ 装幀 / 財団法人日本近代文学館
163. 『三田文学』第壹号(1910年5月号)表紙 / 財団法人日本近代文学館
164. 『日記帳』(博文館, 1910年版)/ 装幀 / 個人蔵(世田谷美術館寄託)
165. アトリエ玄関の表札個人蔵(世田谷美術館寄託)
166. 書簡1通, 絵はがき3通 / 個人蔵(世田谷美術館寄託)
167. 《画稿集》/ 27.4×19.9×7.2cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
168. 《縮図帖》/ 36.3×33.9×1.3cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
169. 《縮図帖》/ 36.5×33.6×1.3cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
170. 《写生帖》/ 6冊 / 岩絵具, 墨 / 32.3×22.4×1.4cm / 個人蔵

*nos.13, 14, 18, 69, 79, 136, 158, 159, 161, 162は東京会場(ブリヂストン美術館)には不出品。

展示会場風景

関連事業：

記念講演会 → p.39
土曜講座「藤島武二の世界」 → p.38
イヴニング・ギャラリートーク「藤島武二を楽しむ」 → p.39

広報記録：

新聞・雑誌：
Miki Takashima, "Fujishima : A fusion beyond imitation", *The Daily Yomiuri*, April 18, 2002
中村隆夫「美術 藤島武二展 ブリヂストン美術館開館50周年記念」『東京新聞』2002年4月20日
北澤憲昭「美術 構築的タッチで油絵に装飾性 "藤島武二展" 官能性も充分に」『朝日新聞』2002年5月9日夕刊
宝玉正彦「美の美 画家たちの "明治" ③」『日本経済新聞』2002年5月12日
伊藤亜紀子「見聞録 ブリヂストン美術館50周年 石橋正二郎の功績 今も」『神戸新聞』2002年5月28日
村田真「美術 藤島武二展—西洋と日本の融合をめざした洋画家」『Hemingway』2002年4月4日, p.42-45
菅谷敦夫「ブリヂストン美術館開館50周年記念 "藤島武二展" より 和魂洋才の画家」『サライ』2002年9号, p.37-42
児島薫「藤島武二研究の新たな課題 "藤島武二展—ブリヂストン美術館開館50周年記念展" を見て」『美術フォーラム21』第7号, 2002年, p.174-176

テレビ：
「新日曜美術館」NHK教育テレビ, 2002年4月21日放映

〈コーナー展示〉

リオープン記念コレクション展

2003年1月11日(土)－3月23日(日)
会場：エントランスホール, 全展示室, ティールーム
出品内容：全館の展示施設を用いた所蔵作品の展示。絵画134点, 彫刻32点,
版画8点, 陶器21点　計195点
入場者総数：25,640人(1日平均407人)
担当＝貝塚健

展覧会ポスター

出品目録：

[エントランスホール]
1. クリスチャン・ダニエル・ラウホ《勝利の女神》/ 大理石 / H.231.0cm
2. バーバラ・ヘップワース《翼のある人物Ⅰ》/ 1957年 / 真鍮, 鉄線 / H.145.5cm

[階段室]
3. アリスティド・マイヨール《欲望》/ 1905-08年 / ブロンズ(レリーフ) / 119.5×114.4cm

[彫刻ギャラリーⅠ]
4. コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》/ 1907-10年 / 石膏 / H.28.0cm
5. アレキサンダー・アーキペンコ《ゴンドラの船頭》/ 1914年 / ブロンズ / H.83.0cm
6. オシップ・ザツキン《母子》/ 1919年 / 着色されたセメント / H.48.6cm
7. オシップ・ザツキン《三美神》/ 1950年 / ブロンズ / H.76.7cm
8. オシップ・ザツキン《ポモナ(トルソ)》/ 1851年 / 黒檀 / H.131.0cm
9. ヘンリー・ムア《横たわる人体》/ 1976年 / ブロンズ / H.39.8cm
10. マリノ・マリーニ《騎手》/ 1952年 / ブロンズ / H.58.0cm
11. マリノ・マリーニ《騎手のための構想》/ 1955年 / ブロンズ / H.55.8cm

[彫刻ギャラリーⅡ]
12. オーギュスト・ロダン《立てるフォーネス》/ 1884年頃 / 大理石 / H.71.0cm
13. オーギュスト・ロダン《考える人》/ 原型1880年（鋳造1902年頃）/ ブロンズ / H.37.7cm
14. オーギュスト・ロダン《青銅時代》/ 原型1876 - 77年（鋳造1904年）/ ブロンズ / H.63.5cm
15. エミール=アントワーヌ・ブールデル《風の中のベートーヴェン》/ 1904-08年 / ブロンズ / H.124.8cm
16. エミール=アントワーヌ・ブールデル《ペネロープ》/ 1909年 / ブロンズ / H.118.1cm
17. エミール=アントワーヌ・ブールデル《弓をひくヘラクレス》/ 1909年 / ブロンズ / H.78.5cm

［第1室］

18. 《婦人のミイラ肖像》/ 1世紀 / エジプト / 蠟画・板 / 26.2×12.4cm
19. 壁画断片《婦人図》/ 1世紀 / ポンペイ / フレスコ / 9.7×14.3cm
20. 三連祭壇画《デイシス図》/ 17世紀後半（？）/ ポーランド（？）/ 板絵 / 中央：39.7×29.5cm; 左翼：34.6×14.2cm; 右翼：34.5×14.0cm
21. アントニー・ヤンスゾーン・ファン・デル・クロース《レイスウェイク城》/ 油彩・板 / 59.4×89.2cm
22. レンブラント・ファン・レイン《聖書あるいは物語に取材した夜の情景》/1626-28年 / 油彩・銅板 / 22.1×17.1cm
23. グレゴリオ・ラッザリーニ《黄金の子牛の礼拝》/ 1700-07年頃 / 油彩・カンヴァス / 91.2×148.4cm
24. ジャン=バティスト・パテル《水浴》/ 油彩・カンヴァス / 56.7×65.5cm
25. ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル《若い女の頭部》/ 油彩・カンヴァス / 40.8×32.3cm
26. カミーユ・コロー《オルレアン風景》/ 1845-50年 / 油彩・板 / 26.9×37.3cm
27. カミーユ・コロー《森の中の若い女》/ 1865年 / 油彩・板 / 54.7×38.9cm
28. ギュスターヴ・クールベ《雪の中を駆ける鹿》/ 1856-57年頃 / 油彩・カンヴァス / 93.5×148.8cm
29. ギュスターヴ・クールベ《石切り場の雪景色》/ 1870年頃 / 油彩・カンヴァス / 43.0×60.2cm
30. ジョージ・スミス《婦人像》/ 1866年 / 油彩・板 / 56.0×40.1cm

［第2室］

31. ラウル・デュフィ《静物》/ 1915-20年頃 / 油彩・カンヴァス / 38.2×45.9cm
32. ラウル・デュフィ《オーケストラ》/ 1942年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×81.1cm
33. ケース・ヴァン・ドンゲン《シャンゼリゼ大通り》/ 1924-25年 / 油彩・カンヴァス / 68.0×52.2cm
34. アンドレ・ドラン《聖母子》/ 1913年頃 / 油彩・板 / 27.0×21.6cm
35. アンドレ・ドラン《自画像》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 37.2×25.3cm / 個人蔵（寄託作品）
36. ジョルジュ・ブラック《梨と桃》/ 1924年 / 油彩・板 / 27.7×45.3cm
37. モーリス・ユトリロ《サン=ドニ運河》/ 1906-08年 / 油彩・紙 / 53.4×74.5cm
38. マリー・ローランサン《二人の少女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 64.9×54.2cm
39. マリー・ローランサン《女と犬》/ 1823年頃 / 油彩・カンヴァス / 81.1×65.2cm
40. マリー・ローランサン《手鏡を持つ女》/ 1837年頃 / 油彩・カンヴァス / 46.3×38.4cm
41. アメデオ・モディリアーニ《若い農夫》/ 1918年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.4×50.3cm
42. カイム・スーティン《大きな樹のある南仏風景》/ 1924年 / 油彩・紙 / 49.8×60.6cm
43. アントニ・クラーベ《王》/ 油彩・カンヴァス / 116.7×72.8cm
44. ザオ・ウーキー《21. Sep. 50》/ 1950年 / 油彩・カンヴァスボード / 37.8×46.0cm
45. ザオ・ウーキー《7. 6. 85》/ 1985年 / 油彩・カンヴァス / 114.0×195.0cm
46. ピエール・アレシンスキー《田園の一隅》/ 1951年 / 油彩・カンヴァス / 99.5×80.3cm
47. ベルナール・ビュッフェ《アナベル夫人像》/ 1960年 / 油彩・カンヴァス / 130.5×97.5cm
48. 藤田嗣治《巴里風景》/ 1918年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×55.2cm
49. 藤田嗣治《インク壺の静物》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス / 22.0×26.9cm
50. 安井曾太郎《桜》/ 1946年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×55.0cm
51. 安井曾太郎《安倍能成君像》/ 1955年 / 油彩・カンヴァス / 66.9×47.0cm
52. 梅原龍三郎《ノートルダム》/ 1965年 / 油彩・羊皮紙 / 42.6×35.0cm
53. 岡鹿之助《雪の発電所》/ 1956年 / 油彩・カンヴァス / 72.8×90.9cm
54. 岡鹿之助《望楼》/ 1960年 / 油彩・カンヴァス / 37.8×45.4cm
55. 牛島憲之《家》/ 1966年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×65.0cm
56. 猪熊弦一郎《Sky Triangle》/ 1968年 / 油彩・カンヴァス / 127.2×102.0cm

［第3室］

57. 《女の胸像》/ 前24世紀 / シュメール / 閃緑石 / H.55.0cm
58. 《セクメト神像》/ 前14世紀 / エジプト / 黒花崗岩 / H.177.0cm
59. レリーフ断片《アヌビス神礼拝図》/ 前13世紀 / エジプト / 砂岩 / 66.0×58.0cm
60. レリーフ断片《柘榴と葡萄》/ アマルナ時代（前1360年頃）/ エジプト / 石灰石, 着色 / 22.5×36.0cm
61. レリーフ断片《神牛》/ 前1300-1200年 / エジプト / 石 / 29.0×30.2cm
62. 《彩色木棺》/ 前13世紀 / エジプト / 木 / H.110.0×43.0cm
63. レリーフ断片《ホルス神浮彫》/ 前1000-350年 / エジプト / 大理石 / 26.0×28.0cm
64. 《聖猫》/ 前950-660年 / エジプト / ブロンズ / H.48.2cm
65. 建築装飾フリーズ部分《泉水に向う二頭の馬》/ 前550-540年 / エトルリア / 彩色テラコッタ / 48.5×50.7cm
66. 《獅子頭部》/ 前5世紀 / ギリシア / 大理石 / H.42.0cm
67. 《哲人の顔》/ 前4世紀 / ギリシア / 大理石 / H.29.4cm
68. 《ヴィーナス》/ ヘレニズム期（前3-1世紀）/ ギリシア / 大理石 / H.139.0cm
69. 《ヴィーナスの頭部》/ ローマ / 大理石 / H.29.0cm
70. 《アテナ頭部》/グレコ=ローマン様式 / 大理石 / H.37.0cm
71. 《人物像》/ 1-2世紀 / パルミュラ / 石灰石 / H.55.3cm
72. 壁画断片《ディオニュソス図》/ 1世紀 / ヘルクラネウム / フレスコ / 20.5×54.5cm
73. モザイク断片《牧神頭部》/ 1世紀 / ローマ / 47.0×43.5cm
74. コリントス球形アリュバロス《鷲と鶏図》/ 前610-590年頃 / H.10.8cm
75. アッティカ黒像式頸部アンフォラ《ヘラクレスとケルベロス図》/ 前520-510年 / H.35.2cm
76. アッティカ黒像式オイノコエ《ディオニュソスとマイナス図》/ 前500年頃 / H.23.0cm
77. アッティカ黒像式レキュトス《ディオニュソス，サテュロスとマイナス図》/ 前490-480年 / H.15.0cm
78. アッティカ黒像式レキュトス《ディオニュソスとアリアドネ図》/ 前490-480年 / H.19.2cm
79. アッティカ黒像式レキュトス《ディオニュソスとマイナス図》/ 前490-480年 / H.19.2cm
80. アッティカ赤像式ペリケ《男女図》/ 前5世紀第1四半期 / H.33.2cm
81. アッティカ赤像式キュリクス《サテュロス図》/ 前5世紀中頃 / H.7.3cm
82. アッティカ白地レキュトス《墓参図》/ 前425-400年 / H.29.7cm
83. アッティカ赤像式レベス・ガミコス《ニケと女性図》/ 前4世紀第1四半期 / H.16.5cm
84. カンパニア赤像式皿《魚文図》/ 前4世紀第2四半期 / H.6.0cm
85. カンパニア赤像式ヒュドリア《エロス図》/ 前4世紀第3四半期 / H.23.5cm
86. カンパニア赤像式ヒュドリア《ディオスクーロイ図》/ 前350年頃 / H.32.5cm

［第4室］

87. カミーユ・コロー《ヴィル・ダヴレー》/ 1835-40年 / 油彩・カンヴァス / 51.1×46.6cm
88. カミーユ・コロー《オンフルールのトゥータン農場》/ 1845年頃 / 油彩・カンヴァス / 44.4×63.8cm
89. オノレ・ドーミエ《山中のドン・キホーテ》/ 1850年頃 / 油彩・板 / 39.6×31.2cm
90. シャルル=フランソワ・ドービニー《レ・サーブル=ドロンヌ》/ 油彩・板 / 39.1×67.1cm
91. ウジェーヌ・ブーダン《トルーヴィル近郊の浜》/ 1865年頃 / 油彩・板 / 35.7×57.7cm
92. カミーユ・ピサロ《ブージヴァルのセーヌ河》/ 1870年 / 油彩・カンヴァス / 51.4×82.2cm
93. カミーユ・ピサロ《菜園》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / 55.2×45.9cm
94. エドゥワール・マネ《オペラ座の仮装舞踏会》/ 1873年 / 油彩・カンヴァス / 46.7×38.2cm
95. エドゥワール・マネ《自画像》/ 1878-79年 / 油彩・カンヴァス / 95.4×63.4cm
96. エドガー・ドガ《レオポール・ルヴェールの肖像》/ 1874年頃 / 油彩・カンヴァス / 65.0×54.0cm
97. エドガー・ドガ《右足で立ち, 右手を地面にのばしたアラベスク》/ 1882-95年頃 / ブロンズ / H.27.5cm

98. アルフレッド・シスレー《森へ行く女たち》/ 1866年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×92.2cm
99. アルフレッド・シスレー《サン=マメス, 六月の朝》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 54.6×73.4cm
100. ポール・セザンヌ《鉢と牛乳入れ》/ 1873-77年頃 / 油彩・カンヴァス / 20.0×18.1cm
101. クロード・モネ《アルジャントゥイユの洪水》/ 1872-73年 / 油彩・カンヴァス / 54.4×73.3cm
102. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 97.8×70.8cm

[第5室]
103. ポール・セザンヌ《帽子をかぶった自画像》/ 1890-94年頃 / 油彩・カンヴァス / 61.2×50.1cm
104. ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》/ 1904-06年頃 / 油彩・カンヴァス / 66.2×82.1cm
105. クロード・モネ《雨のベリール》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×73.7cm
106. クロード・モネ《睡蓮》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 81.5×100.5cm
107. クロード・モネ《睡蓮の池》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 100.6×73.5cm
108. クロード・モネ《黄昏, ヴェネツィア》/ 1908年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.0×92.5cm
109. ピエール=オーギュスト・ルノワール《カーニュのテラス》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 46.3×55.0cm
110. ポール・ゴーガン《馬の頭部のある静物》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 49.0×38.5cm
111. ポール・ゴーガン《ポン=タヴェン付近の風景》/ 1888年 / 油彩・カンヴァス / 72.9×92.2cm
112. ポール・ゴーガン《乾草》/ 1889年 / 油彩・カンヴァス / 55.4×46.2cm
113. フィンセント・ファン・ゴッホ《モンマルトルの風車》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 48.2×39.5cm

[第6室]
114. オーギュスト・ロダン《カミーユ・クローデル》/ 1889年 / ブロンズ / H.24.5cm
115. アンリ・ルソー《イヴリー河岸》/ 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / 46.1×55.0cm
116. アンリ・ルソー《牧場》/ 1910年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×55.3cm
117. ポール・シニャック《コンカルノー港》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 73.4×53.9cm
118. ピエール・ボナール《ヴェルノン付近の風景》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 63.4×62.4cm
119. アンリ・マティス《画室の裸婦》/ 1899年 / 油彩・厚紙 / 66.2×50.5cm
120. アンリ・マティス《コリウール》/ 1905年 / 油彩・厚紙 / 24.5×32.4cm
121. アンリ・マティス《縞ジャケット》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 123.6×68.4cm
122. アンリ・マティス《横たわる裸婦》/ 1919年 / 油彩・カンヴァスボード/ 32.9×40.8cm
123. アンリ・マティス《両腕をあげたオダリスク》/ 1921年 / 油彩・カンヴァスボード / 45.9×38.2cm
124. パブロ・ピカソ《ブルゴーニュのマール瓶, グラス, 新聞紙》/ 1913年 / 油彩, 砂, 新聞紙・カンヴァス / 46.3×38.4cm
125. ジョルジュ・ブラック《パル(テーブルの上のバス・ビールの瓶とグラス)》/ 1911年 / エッチング, ドライポイント / 45.8×32.9cm
126. ピート・モンドリアン《砂丘》/ 1909年 / 油彩, 鉛筆・厚紙 / 29.6×39.1cm

[第7室]
127. オディロン・ルドン《神秘の語らい》/ 油彩・カンヴァス / 52.1×31.5cm
128. オディロン・ルドン《供物》/ 油彩・厚紙 / 33.2×13.7cm
129. ピエール・ボナール《灯下》/ 1899年 / 油彩・紙 / 42.5×50.4cm
130. ピエール・ボナール《桃》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 36.0×38.1cm
131. フェリックス・ヴァロットン《信頼する人》/ 1895年 / 木版 / 17.9×22.3cm
132. オディロン・ルドン《裸婦》/ パステル, 鉛筆・紙 / 59.8×68.0cm

133. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《『レスタンプ・オリジナル』第1年次のための表紙》/ 1893年 / リトグラフ / 56.3×64.3cm
134. ピエール・ボナール《家族の情景》/ 1893年 / リトグラフ / 31.3×17.8cm
135. モーリス・ドニ《慈愛》/ リトグラフ / 30.1×25.2cm
136. アレクサンドル・シャルパンティエ《ヴァイオリンを弾く少女》/ リトグラフ, 空押し / 26.0×39.6cm
137. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《アンバサドゥールにて》/ 1894年 / リトグラフ / 30.2×24.6cm
138. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《ムーラン・ルージュにて, ラ・グーリュとその姉》/ 1892年 / リトグラフ / 45.8×34.7cm
139. ケル=グザヴィエ・ルーセル《雪の中で》/ リトグラフ / 33.0×19.5cm

［第8室］
140. アンリ・マティス《青い胴着の女》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×33.0cm
141. ジョルジュ・ルオー《郊外のキリスト》/ 1920-24年 / 油彩・紙 / 92.0×73.6cm
142. ジョルジュ・ルオー《ピエロ》/ 1925年 / 油彩・紙 / 75.2×51.2cm
143. パウル・クレー《島》/ 1932年 / 油彩, 砂を混ぜた石膏・板 / 55.2×85.2cm
144. パブロ・ピカソ《道化師》/ 1905年 / ブロンズ / H.40.6cm
145. パブロ・ピカソ《生木と枯木のある風景》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 49.4×65.4cm
146. パブロ・ピカソ《カップとスプーン》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 16.0×27.2cm
147. パブロ・ピカソ《女の顔》/ 1923年 / 油彩, 砂・カンヴァス / 46.1×38.1cm
148. パブロ・ピカソ《腕を組んですわるサルタンバンク》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 130.8×98.0cm
149. ジョルジョ・デ・キリコ《吟遊詩人》/ 油彩・カンヴァス / 62.4×49.8cm
150. ジョアン・ミロ《絵画》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 24.1×33.0cm
151. ジャン・フォートリエ《人質の頭部》/ 1945年 / 油彩・カンヴァスに貼られた紙 / 34.2×26.4cm
152. アルベルト・ジャコメッティ《ディエゴの胸像》/ 1954-55年 / ブロンズ / H.55.0cm
153. アルベルト・ジャコメッティ《アトリエ風景》/ 鉛筆・紙 / 44.8×30.0cm
154. アルベルト・ジャコメッティ《アネット》/ ペンとインク・紙 / 48.5×30.1cm
155. アルベルト・ジャコメッティ《歩く人》; 〈裏面〉《アトリエ風景》/ 黒コンテ・紙 / 51.2×33.4cm

［第9室］
156. 浅井忠《縫物》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 60.7×45.5cm
157. 黒田清輝《ブレハの少女》/ 1891年 / 油彩・カンヴァス / 80.6×54.0cm
158. 藤島武二《天平の面影》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 197.5×94.0cm / 石橋美術館
159. 藤島武二《黒扇》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 63.7×42.4cm
160. 藤島武二《糸杉(ヴィラ・ファルコニエリ)》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 39.5×36.6cm
161. 藤島武二《ローマの遺跡》/ 1908-09年 / 油彩・板 / 35.1×26.2cm
162. 岡田三郎助《臥裸婦》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / 45.2×91.9cm
163. 岡田三郎助《婦人像》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 73.3×61.5cm
164. 山下新太郎《供物》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / 55.2×46.1cm
165. 青木繁《天平時代》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 45.3×75.5cm
166. 青木繁《海景(布良の海)》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.6×73.0cm
167. 中村彝《自画像》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 80.6×61.0cm
168. 梅原龍三郎《林檎園》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 29.4×36.2cm
169. 梅原龍三郎《脱衣婦》/ 1912年 / 油彩・カンヴァス / 60.0×38.6cm
170. 岸田劉生《街道(銀座風景)》/ 1911年頃 / 油彩・カンヴァス / 33.5×45.9cm
171. 岸田劉生《裸婦》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 60.7×45.4cm

172. 岸田劉生《南瓜を持てる女》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 80.0×60.2cm
173. 関根正二《子供》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 60.9×45.7cm

［第10室］
174. 藤島武二《淡路島遠望》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×72.9cm
175. 藤島武二《東海旭光》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×90.9cm
176. 藤田嗣治《猫のいる静物》/ 1939-40年 / 油彩・カンヴァス / 80.6×99.9cm
177. 藤田嗣治《ドルドーニュの家》/ 1940年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×53.3cm
178. 小出楢重《帽子をかぶった自画像》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス / 126.0×91.3cm
179. 小出楢重《横たわる裸身》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / 50.0×72.9cm
180. 安井曾太郎《薔薇》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 63.0×51.9cm
181. 安井曾太郎《F夫人像》/ 1939年 / 油彩・カンヴァス / 88.0×66.0cm / 個人蔵（寄託作品）
182. 国吉康雄《夢》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 51.5×76.7cm
183. 国吉康雄《横たわる女》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 41.3×76.4cm
184. 古賀春江《涯しなき逃避》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / 116.6×91.2cm
185. 古賀春江《感傷の静脈》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 116.9×91.4cm

［ティールーム「ジョルジェット」］
186. 長谷川路可《〈アルドブランディーニ家の婚礼図〉の模写》/ 1955-56年 / フレスコ（カンヴァスに移し替え）/ 85.0×250.5cm
187. 長谷川路可《ポンペイ壁画〈ミルラ図〉の模写》/ 1955-56年 / フレスコ（カンヴァスに移し替え）/ 85.2×65.3cm
188. 長谷川路可《ポンペイ壁画〈シルラ図〉の模写》/ 1955-56年 / フレスコ（カンヴァスに移し替え）/ 98.0×63.4cm
189. 長谷川路可《ポンペイ壁画〈フェドラ図〉の模写》/ 1955-56年 / フレスコ（カンヴァスに移し替え）/ 91.8×55.5cm
190. エトルリア後期黒像式頸部アンフォラ《戦士図》/ 前4世紀初頭 / H.18.2cm
191. アッティカ赤像式オイノコエ《青年図》/ 前4世紀第2四半期 / H.16.8cm
192. アプリア赤像式ペリケ《婦人図》/ 前350年頃 / H.17.7cm
193. アプリア赤像式ペリケ《男女図》/ 前350-340年 / H.28.5cm
194. アプリア赤像式カンタロス《エロス図》/ 前340-330年 / H.14.0cm
195. カンパニア赤像式レキュトス《男女図》/ 前320年頃 / H.22.8cm

＊nos. 132-135は1月11日-2月16日, nos.136-139は2月18日-3月23日, no.158は1月11日-1月26日, no.162は1月28日-3月23日の期間に展示された。

広報記録：

新聞・雑誌：
「伝統の街に誕生したギャラリーカフェ」『winds』2003年2月号
「ブリヂストン美術館リニューアルオープン」『新美術新聞』2003年2月11日

〈特別展〉

石橋美術館リニューアルオープン特別展
コレクター石橋正二郎—青木繁, 坂本繁二郎から西洋美術へ

2002年4月16日(火)－6月2日(日)
会場：石橋美術館, 別館
主催：石橋財団石橋美術館 / 西日本新聞社
協賛：株式会社ブリヂストン
後援：久留米市 / 財団法人久留米文化振興会
出品内容：油彩130点, 水彩2点, 日本画7点, 彫刻8点, その他5点　計152点
入場者総数：38,151人（1日平均 908人）
担当＝植野健造, 平間理香, 森山秀子

コレクター石橋正二郎展会場
（別館展示室B）

出品目録：

第1部　石橋正二郎とコレクションの始まり［別館］

1. 竹内栖鳳《潮汐去来》/ 1927年頃-30年 / 絹本著色 / 37.2×42.2cm
2. 竹内栖鳳《鰹図》/ 1927年頃-30年 / 絹本著色 / 37.0×40.3cm
3. 横山大観《神州第一峰》/ 1930年 / 絹本著色 / 67.8×114.8cm
4. 筆谷等観《山湖雨後》/ 1927年頃-30年 / 紙本墨画 / 41.0×53.8cm
5. 筆谷等観《飛瀑双幅》/ 1930年 / 絹本著色 / 136.6×49.4cm
6. 大智勝観《双鶴》/ 1930年 / 紙本墨画淡彩 / 148.6×59.8cm
7. 近藤浩一路《暁港(島原港)》/ 1930年 / 紙本墨画 / 53.8×64.7cm
8. 岡田三郎助《水浴の前》/ 1916年 / 油彩・カンヴァス / 197.0×76.2cm
9. 和田英作《チューリップ》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 80.3×65.0cm
10. 吉田博《上高地》/ 1927年頃 / 油彩・カンヴァス / 45.3×60.3cm
11. 青木繁《自画像》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 80.5×60.5cm
12. 青木繁《海の幸》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 70.2×182.0cm
13. 青木繁《わだつみのいろこの宮》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 180.0×68.3cm
14. 坂本繁二郎《あらしの海》/ 1917年 / 油彩・板 / 23.2×33.0cm
15. 坂本繁二郎《帽子を持てる女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 80.7×65.0cm
16. 坂本繁二郎《自像》/ 1923-30年 / 油彩・カンヴァス / 52.5×45.0cm
17. 坂本繁二郎《放牧三馬》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 79.6×99.0cm
18. 和田三造《伊豆の富士》/ 1927年頃-30年 / 油彩・紙 / 45.5×53.0cm
19. 児島善三郎《トレド風景》/ 1928年頃 / 油彩・カンヴァス / 50.2×100.0cm
20. 和田英作《コロー〈カステル・ガンドルフォの思い出〉の模写》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 59.2×72.2cm
21. 和田英作《ピエロ・デラ・フランチェスカ〈キリストの洗礼〉の模写》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 100.6×45.3cm
22. 山下新太郎《ベラスケス〈マリアナ女王〉の模写》/ 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / 80.4×65.3cm

23. 高田力蔵《アングル〈泉〉の模写》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 144.8×74.1cm
24. 高田力蔵《ミレー〈落穂拾い〉の模写》/ 1958年 / 油彩・カンヴァス / 80.0×109.0cm
25. 板谷波山《氷華磁葡萄文花瓶》/ 1927年頃-30年 / 磁器 / H. 39.0cm
26. 豊田勝秋《春日》/ 1930年 / 鋳銅 / H. 27.0cm
27. 北蓮蔵《石橋正二郎とその家族》/ 1938-39年頃 / 油彩・カンヴァス / 72.7×99.9cm / 個人蔵
28. 伊原宇三郎《石橋正二郎像》/ 1956年 / 油彩・カンヴァス / 89.5×71.5cm / 株式会社ブリヂストン
29. 宮本三郎《石橋正二郎氏像》/ 1969-70年 / 油彩・カンヴァス / 72.6×60.6cm / ブリヂストン美術館
30. 朝倉文夫《石橋正二郎氏胸像》/ 1955-56年 / ブロンズ / H. 67.0cm / ブリヂストン美術館
31. 豊田勝秋《石橋正二郎胸像》/ 1968年 / 鋳銅 / H. 50.7cm
32. 林二郎製作の書斎家具と正二郎愛用の品 / 個人蔵

第2部　正二郎コレクションの展開とその後, 今日まで [石橋美術館]

正二郎コレクション

1. カミーユ・コロー《イタリアの女》/ 1826-28年 / 油彩・カンヴァス / 33.4×21.3cm / ブリヂストン美術館
2. カミーユ・コロー《ヴィル・ダヴレー》/ 1835-40年 / 油彩・カンヴァス / 51.1×46.6cm / ブリヂストン美術館
3. カミーユ・コロー《オンフルールのトゥータン農場》/ 1948年頃 / 油彩・カンヴァス / 44.4×63.8cm / ブリヂストン美術館
4. ギュスターヴ・モロー《化粧》/ 1885-90年頃 / グワッシュ, 水彩・紙 / 33.0×19.3cm / ブリヂストン美術館
5. カミーユ・ピサロ《菜園》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / 55.2×45.9cm / ブリヂストン美術館
6. エドゥワール・マネ《オペラ座の仮装舞踏会》/ 1873年 / 油彩・カンヴァス / 46.6×38.2cm / ブリヂストン美術館
7. エドゥワール・マネ《自画像》/ 1878-79年 / 油彩・カンヴァス / 95.4×63.4cm / ブリヂストン美術館
8. アルフレッド・シスレー《森へ行く女たち》/ 1866年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×92.2cm / ブリヂストン美術館
9. アルフレッド・シスレー《サン=マメス六月の朝》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 54.6×73.4cm / ブリヂストン美術館
10. ポール・セザンヌ《鉢と牛乳入れ》/ 1873-77年頃 / 油彩・カンヴァス / 20.0×18.1cm / ブリヂストン美術館
11. ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》/ 1904-06年頃 / 油彩・カンヴァス / 66.2×82.1cm / ブリヂストン美術館
12. クロード・モネ《アルジャントゥイユの洪水》/ 1872-72年 / 油彩・カンヴァス / 54.4×73.3cm / ブリヂストン美術館
13. クロード・モネ《睡蓮》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 81.5×100.5cm / ブリヂストン美術館
14. クロード・モネ《睡蓮の池》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 100.6×73.5cm / ブリヂストン美術館
15. クロード・モネ《黄昏, ヴェネツィア》/ 1908年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.0×92.5cm / ブリヂストン美術館
16. ピエール=オーギュスト・ルノワール《カーニュのテラス》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 46.3×55.0cm / ブリヂストン美術館
17. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわる水浴の女》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 55.0×44.2cm / ブリヂストン美術館
18. ピエール=オーギュスト・ルノワール《花のついた帽子の女》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス / 40.6×50.2cm / ブリヂストン美術館
19. アンリ・ルソー《イヴリー河岸》/ 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / 46.1×55.0cm / ブリヂストン美術館
20. アンリ・ルソー《牧場》/ 1910年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×55.3cm / ブリヂストン美術館
21. ポール・ゴーガン《ポン=タヴェン付近の風景》/ 1888年 / 油彩・カンヴァス / 72.9×92.2cm / ブリヂストン美術館
22. ポール・ゴーガン《乾草》/ 1889年 / 油彩・カンヴァス / 55.4×46.2cm / ブリヂストン美術館

23. フィンセント・ファン・ゴッホ《モンマルトルの風車》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 48.2×39.5cm / ブリヂストン美術館
24. ポール・シニャック《ラ・ロシェル》/ 水彩, 鉛筆・紙 / 20.8×27.0cm / ブリヂストン美術館
25. ポール・シニャック《コンカルノー港》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 73.4×53.9cm / ブリヂストン美術館
26. ピエール・ボナール《灯下》/ 1899年 / 油彩・紙 / 42.5×50.4cm / ブリヂストン美術館
27. ピエール・ボナール《ヴェルノン付近の風景》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 63.4×62.4cm / ブリヂストン美術館
28. アンリ・マティス《画室の裸婦》/ 1899年 / 油彩・紙 / 66.2×50.5cm / ブリヂストン美術館
29. アンリ・マティス《ルー川のほとり》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 38.3×47.0cm / ブリヂストン美術館
30. ジョルジュ・ルオー《郊外のキリスト》/ 1920-24年 / 油彩・紙 / 92.0×73.6cm / ブリヂストン美術館
31. ジョルジュ・ルオー《ピエロ》/ 1925年 / 油彩・紙 / 75.2×51.2cm / ブリヂストン美術館
32. ラウル・デュフィ《オーケストラ》/ 1942年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×81.1 cm/ ブリヂストン美術館
33. ケース・ヴァン・ドンゲン《シャンゼリゼ大通り》/ 1924-25年 / 油彩・カンヴァス / 68.0×52.2cm / ブリヂストン美術館
34. パブロ・ピカソ《生木と枯木のある風景》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 49.2×65.4cm / ブリヂストン美術館
35. パブロ・ピカソ《女の顔》/ 1945-46年 / 油彩, 砂・カンヴァス / 46.1×38.1cm / ブリヂストン美術館
36. パブロ・ピカソ《茄子》/ 1946年 / 油彩, グワッシュ・紙 / 51.1×66.2cm / ブリヂストン美術館
37. ジョルジュ・ブラック《梨と桃》/ 1924年 / 油彩・板 / 27.7×45.3cm / ブリヂストン美術館
38. モーリス・ユトリロ《サン=ドニ運河》/ 1906-08年 / 油彩・紙 / 53.4×74.5cm / ブリヂストン美術館
39. マリー・ローランサン《二人の少女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 64.9×54.2cm / ブリヂストン美術館
40. アメデオ・モディリアーニ《若い農夫》/ 1918年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.4×50.3cm / ブリヂストン美術館
41. ジョルジョ・デ・キリコ《吟遊詩人》/ 油彩・カンヴァス / 62.4×49.8cm / ブリヂストン美術館
42. カイム・スーティン《大きな樹のある南仏風景》/ 1924年 / 油彩・紙 / 49.8×60.6cm / ブリヂストン美術館
43. 中丸精十郎《瀑》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス / 107.6×70.2cm
44. 百武兼行《臥裸婦》/ 1881年頃 / 油彩・カンヴァス / 97.3×188.0cm
45. 黒田清輝《針仕事》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス / 81.2×65.0cm
46. 黒田清輝《鉄砲百合》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 60.3×80.0cm
47. 岡田三郎助《薔薇の少女》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / 119.0×78.8cm
48. 満谷国四郎《坐婦》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 64.8×54.8cm
49. 満谷国四郎《ブルターニュ風景》/ 1913年頃 / 油彩・カンヴァス / 46.5×55.4cm
50. 和田英作《読書》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 73.6×54.0cm
51. 小杉未醒(放庵)《山幸彦》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス / 194.6×300.5cm
52. 山下新太郎《ブルターニュの女》/ 1908年 / 油彩・板 / 44.0×32.2cm
53. 山下新太郎《シュザンヌ》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 53.1×42.9cm
54. 山下新太郎《端午》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / 55.3×46.0cm
55. 青木繁《輪転》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 26.8×37.8cm
56. 青木繁《天平時代》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 45.3×75.5cm / ブリヂストン美術館
57. 青木繁《海》/ 1904年 / 油彩・板 / 10.3×14.7cm
58. 青木繁《海景(布良の海)》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.6×73.0cm / ブリヂストン美術館
59. 青木繁《光明皇后》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 37.6×71.0cm
60. 青木繁《大穴牟知命》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 75.5×127.0cm
61. 青木繁《月下滞船図》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / 42.5×60.0cm
62. 坂本繁二郎《魚を持ってきた海女》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 117.0×80.6cm
63. 坂本繁二郎《少女》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 40.8×32.8cm
64. 坂本繁二郎《読書の女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 40.8×31.7cm

65. 坂本繁二郎《パリ郊外》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×65.0cm
66. 青山熊治《男の像》/ 1921年 / 油彩・カンヴァス / 90.6×60.5cm
67. 藤田嗣治《横たわる女と猫》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 65.0×100.0cm
68. 小出楢重《裸婦》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 70.0×46.0cm
69. 遠山五郎《婦人読書図》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 80.9×64.7cm
70. 安井曾太郎《水車小屋》/ 1911年頃 / 油彩・カンヴァス / 38.0×46.5cm
71. 安井曾太郎《水浴裸婦》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 128.0×193.0cm
72. 安井曾太郎《玉蟲先生像》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 47.5×39.0cm
73. 片多徳郎《芙蓉》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×37.8cm
74. 岸田劉生《画家の妻》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×45.7cm
75. 岸田劉生《麗子像》/ 1922年 / テンペラ・カンヴァス / 41.0×31.9cm
76. 長谷川利行《動物園風景》/ 1937年頃 / 油彩・カンヴァス / 45.5×52.7cm
77. 長谷川利行《裸婦》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 45.4×52.7cm
78. 須田国太郎《檮原風景》/ 1955年 / 油彩・カンヴァス / 65.0×80.0cm
79. 児島善三郎《海芋とキリン草》/ 1954年 / 油彩・カンヴァス / 91.0×72.9cm
80. 伊原宇三郎《椅子によれる》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 115.7×89.0cm
81. 古賀春江《素朴な月夜》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 116.5×91.0cm
82. 古賀春江《鳥籠》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 111.2×145.0cm
83. 佐伯祐三《コルドヌリ(靴屋)》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 72.6×60.3cm
84. 佐伯祐三《広告貼り》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 73.4×60.2cm
85. 佐伯祐三《休息(鉄道工夫)》/ 1927年頃 / 油彩・カンヴァス / 59.4×71.3cm
86. 山口長男《累形》/ 1958年 / 油彩・板 / 90.3×90.7cm
87. エドガー・ドガ《右足で立ち, 右手を地面にのばしたアラベスク》/ 1882-95年 / ブロンズ / H. 27.5cm / ブリヂストン美術館
88. オーギュスト・ロダン《カミーユ・クローデル》/ 1889年 / ブロンズ / H. 24.5cm / ブリヂストン美術館
89. パブロ・ピカソ《道化師》/ 1905年 / ブロンズ / H. 40.6cm / ブリヂストン美術館

財団コレクション

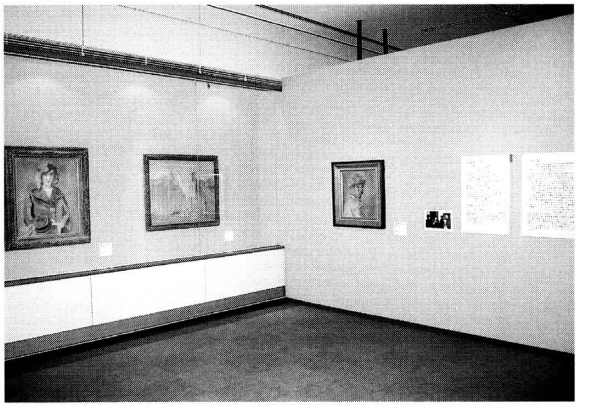
90. ジャン=フランソワ=ドミニク・アングル《若い女の頭部》/ 油彩・カンヴァス / 40.8×32.3cm / ブリヂストン美術館
91. オノレ・ドーミエ《山中のドン・キホーテ》/ 1850年頃 / 油彩・板 / 39.6×31.2cm / ブリヂストン美術館
92. ギュスターヴ・クールベ《雪の中を駆ける鹿》/ 1856-57年頃 / 油彩・カンヴァス / 93.5×148.8cm / ブリヂストン美術館
93. ウジェーヌ・ブーダン《トルーヴィル近郊の浜》/ 1865年頃 / 油彩・板 / 35.7×57.7cm / ブリヂストン美術館
94. エドガー・ドガ《レオポール・ルヴェールの肖像》/ 1874年頃 / 油彩・カンヴァス / 65.0×54.0cm / ブリヂストン美術館
95. クロード・モネ《雨のベリール》/ 1866年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×73.7cm / ブリヂストン美術館
96. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 97.8×70.8cm / ブリヂストン美術館
97. ポール・ゴーガン《馬の頭部のある静物》/ 1886年頃 / 油彩・カンヴァス / 49.0×38.5cm / ブリヂストン美術館
98. ピート・モンドリアン《砂丘》/ 1909年 / 油彩, 鉛筆・紙 / 29.6×39.1cm / ブリヂストン美術館
99. パウル・クレー《島》/ 1932年 / 油彩, 砂を混ぜた石膏・板 / 55.2×85.2cm / ブリヂストン美術館
100. パブロ・ピカソ《ブルゴーニュのマール瓶, グラス, 新聞紙》/ 1913年 / 油彩, 砂, 新聞紙・カンヴァス / 46.0×38.0cm / ブリヂストン美術館

101. パブロ・ピカソ《腕を組んですわるサルタンバンク》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 130.8×98.0cm / ブリヂストン美術館
102. 浅井忠《樹下の女》/ 1901年頃 / 油彩・カンヴァス / 45.8×37.8cm
103. 青木繁《海》1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.5×73.0cm
104. 坂本繁二郎《牛》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 71.0×116.5cm
105. 児島善三郎《立つ》/ 1918年 / 油彩・カンヴァス / 139.0×78.0cm
106. 古賀春江《無題》/ 1921年頃 / 油彩・カンヴァス / 72.5×72.5cm
107. 豊福知徳《半円柱Ⅰ》/ 1964年 / ブロンズ / H. 195.0cm
108. 豊福知徳《透過する立像(白)》/ 1991年 / 木(マホガニー), 彩色 / H. 216.0cm

幹一郎コレクション

109. オディロン・ルドン《神秘の語らい》/ 油彩・カンヴァス / 52.1×31.5cm / ブリヂストン美術館
110. クロード・モネ《アルジャントゥイユ》/ 1874年 / 油彩・カンヴァス / 43.0×70.0cm / ブリヂストン美術館
111. アルベール・マルケ《道行く人, ラ・フレット》/ 1946年 / 油彩・カンヴァス / 54.0×65.1cm / ブリヂストン美術館
112. マリー・ローランサン《女と犬》/ 1923年頃 / 油彩・カンヴァス / 81.1×65.2cm / ブリヂストン美術館
113. ジョアン・ミロ《抽象》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 24.1×33.0cm / ブリヂストン美術館
114. ジャン・フォートリエ《人質の頭部》/ 1945年 / 油彩・カンヴァスに貼られた紙 / 34.2×26.4cm / ブリヂストン美術館
115. ジャン・フォートリエ《旋回する線》/ 1963年 / 油彩・カンヴァスに貼られた紙 / 59.9×73.1cm / ブリヂストン美術館
116. ジャン・デュビュッフェ《スカーフを巻くエディット・ボワソナス》/ 1947年 / 油彩・紙 / 48.6×32.3cm / ブリヂストン美術館
117. ジャン・デュビュッフェ《暴動》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 105.0×80.8cm / ブリヂストン美術館
118. 佐藤敬《作品》/ 1957年 / 油彩・カンヴァス / 89.1×116.0cm
119. コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》/ 1907-10年 / 石膏 / H. 28.0cm / ブリヂストン美術館
120. マリノ・マリーニ《騎手のための構想》/ 1955年 / ブロンズ / H. 55.8cm / ブリヂストン美術館

＊所蔵の標記のない作品は, 石橋美術館蔵。



コレクター石橋正二郎展会場(別館展示室A)

関連事業：

開催記念美術講座 → p.42

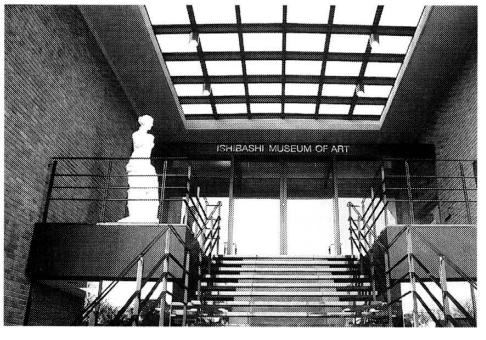
広報記録：

「美とともに コレクター石橋正二郎」（上）（中）（下）『西日本新聞』2002年4月11日, 12日, 13日（県内版）
「展覧会から 正二郎氏収集の名画など展示」『西日本新聞』2002年5月2日夕刊
「コレクター一代 正二郎と名品たち」『西日本新聞』2002年5月14-18, 20-29日（筑後版）
植野健造「『コレクター石橋正二郎』展に寄せて」『西日本新聞』2002年5月23日
「『コレクター石橋正二郎』展を見て」『西日本新聞』2002年5月24日, 28日, 30日（県内版）

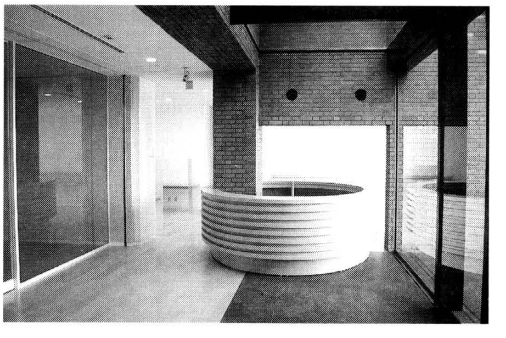
石橋美術館のリニューアルオープン

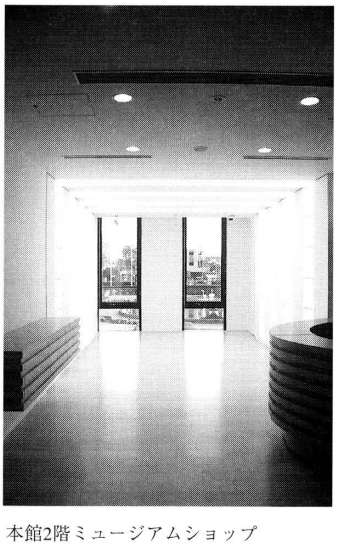
石橋美術館では，2001年11月26日から2002年4月15日まで本館，別館ともに休館して改修工事を行った。その目的や改修内容の概要については，すでに本誌『館報』50号（2001年度，2002年10月発行）に掲載の「石橋美術館の改修工事概要報告」において報告されているので，そちらを参照願いたい。

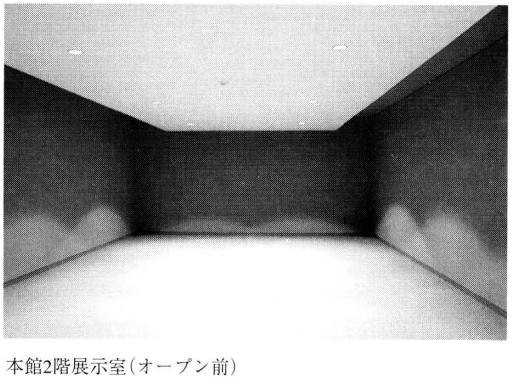
そのリニューアルオープンを記念した特別展が，2002年4月16日（火）から6月2日（日）まで開催された「コレクター石橋正二郎」展であり，開幕前日の4月15日（月）の14：30より，本館2階エントランスロビーにおいて「石橋美術館リニューアルオープンセレモニー」を行った。

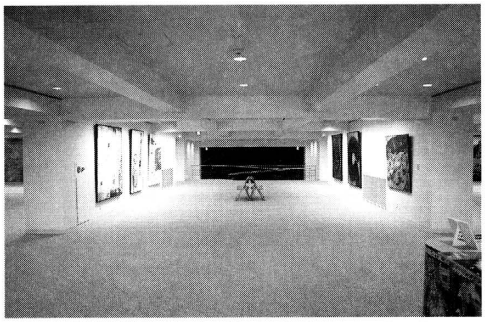


本館正面入口（オープン前）

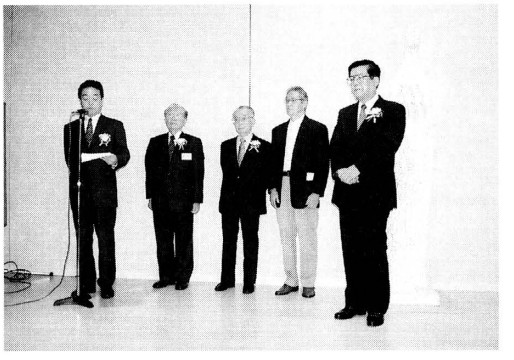

本館2階受付（オープン前）


本館2階ミュージアムショップ
（オープン前）


本館2階展示室（オープン前）



本館1階ギャラリー展示室



リニューアルオープンセレモニー　2002年4月15日
(左より)石橋財団・石橋寛理事, 石橋美術館・喜多村禎勇館長, 石橋財団・内田宏理事長, 彫刻家・豊福知徳氏, 久留米市長・白石勝洋氏

リニューアルオープン関連新聞記事：

「石橋美術館リニューアル 16日に運営を再開」『読売新聞』2002年4月13日(筑後版)
「石橋美術館リニューアル 今日から特別展」『西日本新聞』2002年4月16日
「石橋美術館リニューアル 今日から特別展」『毎日新聞』2002年4月16日(筑後版)
「石橋美術館リニューアル 休憩テラス新設 展示室拡大」『読売新聞』2002年4月16日夕刊
「石橋美術館リニューアル 展示スペース拡大 休憩テラスを新設」『朝日新聞』2002年4月17日(筑後版)
「石橋美術館リニューアル 空調設備一新 車いす用トイレ」『読売新聞』2002年4月17日(筑後版)
「きかせて筑後NOW リニューアルオープンした石橋美術館長 喜多村禎勇さん」『毎日新聞』2002年4月21日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 輝き取り戻した玄関」『読売新聞』2002年5月14日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 楕円形の受付カウンター」『読売新聞』2002年5月15日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 シックな2階の展示室」『読売新聞』2002年5月16日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 新しい風バリアフリー」『読売新聞』2002年5月17日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 窓の眺めも名画のひとつ」『読売新聞』2002年5月18日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 バーチャルへの入り口」『読売新聞』2002年5月20日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 名画の複製 額入りで」『読売新聞』2002年5月21日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 バラ庭園 憩いの時」『読売新聞』2002年5月22日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 温・室度を管理 名画守る」『読売新聞』2002年5月23日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 障害者にもやさしく」『読売新聞』2002年5月27日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 『裸婦像』清新な息吹」『読売新聞』2002年5月28日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 名画鮮やか“最新照明”」『読売新聞』2002年5月29日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 別館も整備 2つの展示室」『読売新聞』2002年5月30日(筑後版)
「リニューアル石橋美術館 花いっぱい 自慢の庭園」『読売新聞』2002年5月31日(筑後版)

ブリヂストン美術館開館50周年記念 藤島武二展


藤島武二展会場

会期：2002年6月11日（火）－8月4日（日）
会場：石橋美術館
主催：石橋財団石橋美術館 / 石橋財団ブリヂストン美術館 / 日本経済新聞社 / 西日本新聞社 / TVQ九州放送
協賛：株式会社ブリヂストン
後援：久留米市 / 財団法人久留米文化振興会
出品内容：油彩108点, 水彩6点, パステル6点, クレヨン, グワッシュ, 墨, 木炭, インク, 鉛筆など21点, 装幀・挿絵本5点, 画帖4件, 書簡などの資料3点　計153点
入場者総数：14,499人（1日平均 302人）
担当＝植野健造

出品目録は「展覧会　ブリヂストン美術館〈特別展〉」の同展の項を参照のこと。
ただし, nos.21, 25, 26, 67, 75, 110, 115, 124, 126, 127, 142, 151, 152, 155, 157, 160, 163は久留米会場（石橋美術館）には不出品。

関連事業：

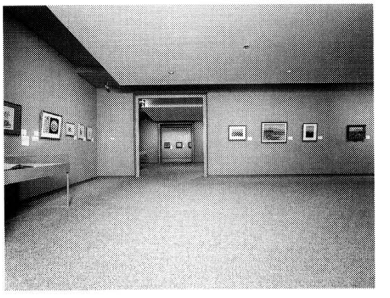
開催記念美術講座 → p.42

広報記録：

「藤島武二の画業展望」『読売新聞』2002年6月23日（筑後版）
「出番 藤島武二展開催記念美術講座」『西日本新聞』2002年6月26日
植野健造「日本洋画の巨匠 藤島武二の回顧展」『日本経済新聞』2002年6月21日
「藤島武二展きょう開幕」『西日本新聞』2002年6月11日（県内版）
「藤島武二展始まる」『西日本新聞』2002年6月11日夕刊
「藤島武二の回顧展開幕」『朝日新聞』2002年6月12日（筑後版）
「私の好きな作品 『藤島武二展』を見て」『西日本新聞』2002年7月14日, 17日, 18日（筑後版）
「展覧会から 代表作『黒扇』など150点 藤島武二展」『西日本新聞』2002年7月18日夕刊
「ギャラリー 油絵職人の自在な作風 藤島武二展」『読売新聞』2002年7月27日夕刊

青木繁・坂本繁二郎生誕120年記念 筑後洋画の系譜

会期：11月16日（土）－2003年3月16日（日）
会場：石橋美術館第1室－3室，第5室－8室
主催：石橋財団石橋美術館 / 西日本新聞社
後援：久留米市 / 財団法人久留米文化振興会
出品内容：油彩81点，水彩21点，素描20点，版画28点，資料31点
　　計181点
入場者総数：11,903人（1日平均 121人）
担当＝植野健造，田内正宏，森山秀子


筑後洋画の系譜展会場

出品目録：

1. 森三美《鶏のいる風景》/ 1910年頃 / 油彩・板 / 27.9×22.4cm / 個人蔵
2. 森三美《農夫》/ 1910年頃 / 油彩・板 / 31.5×22.2cm / 個人蔵
3. 森三美《海岸風景》/ 1910年頃 / 油彩・板 / 22.4×31.5cm / 個人蔵
4. 森三美《筑後風景》/ 1910年頃 / 油彩・板 / 22.2×31.6cm / 個人蔵
5. 森三美《刈入れ》/ 1898年頃 / 水彩，鉛筆・紙 / 34.1×50.5cm / 個人蔵 / 後期
6. 森三美《自画像》/ コンテ・紙 / 43.6×31.0cm / 個人蔵 / 前期
7. 森三美《海岸スケッチ（七ツ釜）》/ 色鉛筆・紙 / 14.6×23.2cm / 個人蔵 / 前期
8. 森三美《海岸スケッチ（立神岩）》/ 色鉛筆・紙 / 14.6×23.3cm / 個人蔵 / 後期
9. 森三美《山中人家スケッチ》/ 色鉛筆・紙 / 23.2×14.6cm / 個人蔵 / 後期
10. 森三美《山中人家スケッチ》/ 色鉛筆・紙 / 23.4×14.7cm / 個人蔵 / 前期
11. 森三美《うたた寝（男の像）》/ 色鉛筆・紙 / 14.6×23.2cm / 個人蔵 / 前期
12. 森三美《赤ん坊》/ 色鉛筆・紙 / 23.4×14.7cm / 個人蔵 / 後期
13. 森三美《外国風景》/ 鉛筆・紙 / 28.5×38.3cm / 個人蔵 / 前期
14. 森三美《河岸放牛図》/ 鉛筆・紙 / 28.6×38.0cm / 個人蔵 / 後期
15. 森三美旧蔵《宇治川橋》/ 石版，多色刷 / 16.2×34.3cm / 個人蔵 / 後期
16. 森三美旧蔵《京都風景（神社）》/ 石版，多色刷 / 21.0×30.3cm / 個人蔵 / 前期
17. 森三美旧蔵《知恩院》/ 石版，多色刷 / 21.2×30.4cm / 個人蔵 / 前期
18. 森三美旧蔵《北野神社》/ 石版，多色刷 / 30.3×21.0cm / 個人蔵/ 前期
19. 森三美旧蔵《京都風景（寺院）》/ 石版，多色刷 / 20.6×29.8cm / 個人蔵 / 後期
20. 森三美旧蔵《本願寺》/ 石版，多色刷 / 24.2×35.2cm / 個人蔵 / 後期
21. 森三美旧蔵《三十三間堂》/ 石版，多色刷 / 18.0×33.0cm / 個人蔵 / 前期
22. 森三美旧蔵《紫晨殿》/ 石版，多色刷 / 21.0×30.2cm / 個人蔵 / 後期
23. 吉田博《上高地》/ 1927年頃 / 油彩・カンヴァス / 45.3×60.3cm
24. 吉田博《ウダイプール宮殿》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 33.0×45.4cm
25. 吉田博《風景（ダージリン）》/ 1931年頃 / 油彩・カンヴァス / 33.0×45.0cm
26. 吉田博《ウェテホルン》/ 1925年 / 木版 / 36.9×25.4cm / 前期
27. 吉田博《レニヤ山》/ 1925年 / 木版 / 36.0×51.0cm / 前期
28. 吉田博《ルガノ風景》/ 1925年 / 木版 / 25.0×37.1cm / 前期
29. 吉田博《マッターホルン 夜》/ 1925年 / 木版 / 51.0×36.0cm / 前期

30. 吉田博《富士拾景 朝日》/ 1926年 / 木版 / 53.5×71.2cm / 後期
31. 吉田博《剣山の朝》/ 1926年 / 木版 / 37.0×25.0cm / 後期
32. 吉田博《温泉岳》/ 1927年 / 木版 / 25.0×37.4cm / 後期
33. 青木繁《自画像》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 80.5×60.5cm
34. 青木繁《輪転》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 26.8×37.8cm
35. 青木繁《海の幸》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 70.2×182.0cm
36. 青木繁《海》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.5×73.0cm
37. 青木繁《光明皇后》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 37.6×71.0cm
38. 青木繁《大穴牟知命》/ 1905年油彩・カンヴァス75.5×127.0cm
39. 青木繁《わだつみのいろこの宮》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 180.0×68.3cm
40. 青木繁《月下滞船図》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / 42.5×60.0cm
41. 青木繁《繊月帰舟》/ 1910年 / 油彩・カンヴァス / 49.8×60.5cm / 個人蔵
42. 青木繁《佐賀風景》/ 1910年 / 油彩・板 / 23.5×31.1cm / 佐賀県立美術館
43. 青木繁《車中風景》/ 1902年 / 鉛筆, 淡彩・紙 / 14.4×19.0cm / 前期
44. 青木繁《汗の妙義山スケッチ行》/ 1902年 / 鉛筆, 淡彩・紙 / 14.5×19.0cm / 個人蔵 / 後期
45. 青木繁《中小坂村》/ 1902年 / 鉛筆, 淡彩・紙 / 14.7×19.1cm / 個人蔵 / 前期
46. 青木繁《スケッチする男》/ 1902年 / 鉛筆・紙 / 15.4×23.9cm / 個人蔵 / 前期
47. 青木繁《山上のスケッチ》/ 1902年 / 鉛筆・紙 / 19.1×14.5cm / 個人蔵 / 後期
48. 青木繁《馬肉屋》/ 1902年 / 鉛筆, 淡彩・紙 / 14.5×19.1cm / 個人蔵 / 後期
49. 青木繁《坂本繁二郎像》/ 1902年 / 鉛筆, 淡彩・紙 / 18.9×11.4cm / 個人蔵 / 前期
50. 青木繁《宇朗像(『せせらぎ集』挿絵)》/ 1904年 / 色鉛筆・紙 / 14.0×12.0cm / 福岡県立美術館 / 後期
51. 青木繁《菊籬》/ 1909年 / 鉛筆, 淡彩・紙 / 19.0×28.7cm / 個人蔵 / 前期
52. 青木繁《風景》/ 1910年 / 鉛筆, 淡彩・紙 / 19.2×28.8cm / 個人蔵 / 後期
53. 坂本繁二郎《夏野》/ 1898年 / 油彩・カンヴァス / 71.0×116.0cm / 個人蔵 / 後期
54. 坂本繁二郎《町裏》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 80.3×60.5cm / 個人蔵
55. 坂本繁二郎《魚を持ってきた海女》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 117.0×80.6cm
56. 坂本繁二郎《水縄山(筑後風景)》/ 1918-69年頃 / 油彩・板 / 11.8×24.0cm / 個人蔵
57. 坂本繁二郎《牛》/ 1919-65年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×80.3cm / 個人蔵
58. 坂本繁二郎《牛》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 71.0×116.5cm
59. 坂本繁二郎《婦人像》/ 1922-68年 / 油彩・カンヴァス / 81.0×64.8cm / 個人蔵
60. 坂本繁二郎《読書の女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 40.8×31.7cm
61. 坂本繁二郎《帽子を持てる女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 80.7×65.0cm
62. 坂本繁二郎《老婆》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 41.0×32.8cm / 個人蔵
63. 坂本繁二郎《自像》/ 1923-30年 / 油彩・カンヴァス / 52.5×45.0cm
64. 坂本繁二郎《母の像》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 52.9×45.8cm / 個人蔵
65. 坂本繁二郎《放牧三馬》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 79.6×99.0cm
66. 坂本繁二郎《塩屋の娘人形》/ 1951年 / 油彩・カンヴァス / 40.7×31.5cm / 個人蔵
67. 坂本繁二郎《能面》/ 1954年 / 油彩・カンヴァス / 38.0×45.5cm / 個人蔵
68. 坂本繁二郎《植木鉢》/ 1959年 / 油彩・カンヴァス / 38.3×45.5cm / 久留米市立篠山小学校(石橋美術館寄託)
69. 坂本繁二郎《幽光》/ 1969年 / 油彩・カンヴァス / 31.7×41.0cm / 個人蔵
70. 坂本繁二郎《水縄山風景》/ 1898年 / 水彩・紙 / 56.5×74.5cm / 個人蔵 / 前期
71. 坂本繁二郎《刈入れ》/ 1898年頃 / 水彩・絹 / 53.1×78.5cm / 個人蔵(北九州市立美術館寄託) / 11/16-12/1, 3/2-3/16の展示
72. 坂本繁二郎《日本風景版画 筑紫之部 榎寺神社》/ 1918年 / 木版 / 17.4×23.5cm / 前期
73. 坂本繁二郎《日本風景版画 筑紫之部 神湊》/ 1918年 / 木版 / 17.0×23.5cm / 前期

74. 坂本繁二郎《日本風景版画 筑紫之部 水縄山》/ 1918年 / 木版 / 17.0×23.5cm / 前期
75. 坂本繁二郎《日本風景版画 筑紫之部 筑後川》/ 1918年 / 木版 / 16.9×23.2cm / 前期
76. 坂本繁二郎《日本風景版画 筑紫之部 火の海》/ 1918年 / 木版 / 17.0×23.4cm / 前期
77. 坂本繁二郎《阿蘇五景 表紙絵》/ 1950年 / 木版 / 12.9×14.8cm / 後期
78. 坂本繁二郎《阿蘇五景 南郷谷》/ 1950年 / 木版 / 25.0×36.0cm / 後期
79. 坂本繁二郎《阿蘇五景 噴火口》/ 1950年 / 木版 / 25.1×36.0cm / 後期
80. 坂本繁二郎《阿蘇五景 波野の月》/ 1950年 / 木版 / 25.2×36.1cm / 後期
81. 坂本繁二郎《阿蘇五景 根子嶽の朝》/ 1950年 / 木版 / 25.2×36.1cm / 後期
82. 坂本繁二郎《阿蘇五景 放牧》/ 1950年 / 木版 / 25.3×36.0cm / 後期
83. 松田諦晶《櫨畑》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 60.8×94.0cm / 個人蔵
84. 松田諦晶《刈跡》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 52.1×71.2cm
85. 松田諦晶《自画像》/ 1929年 / 油彩・板 / 32.5×23.8cm
86. 松田諦晶《篠山城趾の桜》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / 37.2×45.4cm / 個人蔵
87. 松田諦晶《今宿海岸暮色》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 37.8×45.5cm / 福岡県立美術館
88. 松田諦晶《伯耆大山》/ 1943年 / 油彩・カンヴァス / 41.0×53.0cm
89. 松田諦晶《田植どき》/ 1960年 / 油彩・カンヴァス / 130.5×162.7cm / 久留米市(石橋美術館寄託)
90. 古賀春江《無題》/ 1921年頃 / 油彩・カンヴァス / 72.5×72.5cm
91. 古賀春江《二階より》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 61.0×73.0cm / 個人蔵
92. 古賀春江《海女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 116.0×91.0cm
93. 古賀春江《海水浴の女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 89.7×115.1cm
94. 古賀春江《曲泉につく》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 89.0×115.0cm / 個人蔵
95. 古賀春江《誕生》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス / 91.0×116.8cm
96. 古賀春江《素朴な月夜》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 116.5×91.0cm
97. 古賀春江《鳥籠》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 111.2×145.0cm
98. 古賀春江《単純な哀話》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / 116.7×91.4cm
99. 古賀春江《厳しき伝統》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 111.2×144.0cm
100. 古賀春江《海岸風景》/ 1913年頃 / 水彩・紙 / 35.6×51.1cm / 個人蔵 / 後期
101. 古賀春江《鉄橋》/ 1913年頃 / 水彩・紙 / 51.6×63.0cm / 個人蔵 / 後期
102. 古賀春江《柳河風景》/ 1914年 / 水彩・紙 / 63.7×51.0cm / 個人蔵 / 前期
103. 古賀春江《筑後川》/ 1914年頃 / 水彩・紙 / 51.4×61.8cm / 前期
104. 古賀春江《自画像》/ 1915-16年頃 / 水彩・紙 / 34.0×25.0cm / 前期
105. 古賀春江《港》/ 1915年頃 / 水彩・紙 / 22.8×29.8cm / 個人蔵 / 前期
106. 古賀春江《自画像》/ 1916年 / 水彩・紙(葉書) / 14.3×9.0cm / 後期
107. 古賀春江《地蔵尊》/ 1919年 / 水彩・紙 / 51.0×34.5cm / 後期
108. 古賀春江《風景》/ 1919年頃 / 水彩・紙 / 23.8×32.9cm / 久留米市立南薫小学校(石橋美術館寄託) / 前期
109. 古賀春江《静物》/ 1925年頃 / 水彩・紙 / 38.7×51.0cm / 石橋財団石橋美術館 / 前期
110. 古賀春江《美しき博覧会》/ 1926年 / 水彩・紙 / 38.4×56.5cm / 後期
111. 豊田勝秋《春日》/ 1930年 / 鋳銅 / H. 27.0cm
112. 豊田勝秋《鋳銅花さし》/ 1931年 / 鋳銅 / H. 48.0cm
113. 高田力蔵《アテネのエレクテイオン》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 80.4×100.0cm
114. 高田力蔵《アングル〈泉〉の模写》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 144.8×74.1cm
115. 高田力蔵《エトルタの断崖》/ 1939年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×65.2cm
116. 高田力蔵《雨後のサン=マメス》/ 1967年 / 油彩・カンヴァス / 50.0×60.5cm
117. 坂宗一《脱穀》/ 油彩・カンヴァス / 60.5×72.7cm / 個人蔵
118. 坂宗一《久住(晩秋)》/ 油彩・カンヴァス / 67.5×72.5cm /個人蔵

119. 坂宗一《マチャプチャリ》/ 1970年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×53.0cm / 個人蔵
120. 高島野十郎《筑後川遠望》/ 1949年頃 / 油彩・板 / 21.2×33.4cm / 福岡県立美術館
121. 高島野十郎《筑紫観世音寺》/ 1952年 / 油彩・カンヴァス / 45.6×52.9cm
122. 高島野十郎《春の海》/ 1952年 / 油彩・カンヴァス / 53.2×72.5cm / 福岡県立美術館
123. 小松清次《由布湖にかかった橋と由布岳》/ 油彩・カンヴァス / 50.0×60.5cm
124. 小松清次《アトリエ周辺Ⅰ》/ 1946-65年頃 / 油彩・カンヴァス / 60.4×72.5cm / 個人蔵
125. 小松清次《赤い屋根》/ 1988年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×72.5cm / 個人蔵
126. 山村秀一《船溜り》/ 水彩・紙 / 24.5×33.0cm / 個人蔵 / 後期
127. 山村秀一《由布岳》/ 1958年 / 水彩・紙 / 45.5×53.1cm / 個人蔵 / 前期
128. 山村秀一《さば》/ 1965年 / 水彩・紙 / 57.1×77.5cm / 個人蔵 / 後期
129. 山村秀一《あじさい》/ 1973年 / 水彩・紙 / 50.0×57.2cm / 個人蔵 / 後期
130. 山村秀一《黒鯛》/ 1976年 / 水彩・紙 / 56.4×76.2cm / 個人蔵 / 前期
131. 山村秀一《百合花》/ 1979年 / 水彩・紙 / 75.5×55.5cm / 個人蔵 / 前期
132. 田崎廣助《鮎の静物》/ 1954年 / 油彩・カンヴァス / 91.1×65.1cm / 福岡市美術館
133. 田崎廣助《風景》/ 1955-64年頃 / 油彩・カンヴァス / 50.1×61.0cm
134. 井上三綱《収穫》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / 69.0×118.0cm
135. 井上三綱《裸婦群像》/ 1955年 / 石膏, 水彩・紙 / 78.1×40.3cm / 前期
136. 井上三綱《相》/ 1960年 / 水彩, 油彩・紙 / 39.6×18.5cm / 後期
137. 井上三綱《殷殷と鐘がなる》/ 1974年 / 油彩, 墨, コラージュ・紙 / 102.6×245.4cm
138. 伊東静尾《解放》/ 1953年 / 油彩・カンヴァス / 162.5×130.3cm
139. 伊東静尾《土》/ 1961年 / 油彩・板 / 90.5×75.5cm
140. 伊東静尾《土と共々》/ 1967年 / 油彩・カンヴァス / 117.0×90.8cm
141. 鷹尾和敏《阿蘇高岳Ⅰ》/ 1973年 / 油彩・カンヴァス / 112.0×145.5cm / 個人蔵
142. 鷹尾和敏《雨後樹間の道》/ 1981年 / 油彩・カンヴァス / 130.3×162.0cm / 個人蔵
143. 内野秀美《櫨の実のある静物》/ 1950年 / 油彩・カンヴァス / 72.5×90.3cm / 個人蔵
144. 内野秀美《ひとり》/ 1960年 / 油彩・カンヴァス / 90.9×72.7cm / 個人蔵
145. 内野秀美《羨の花》/ 1980年 / 油彩・カンヴァス / 116.8×91.0cm / 個人蔵
146. 古沢岩美《地の塩》/ 1959年 / 油彩・カンヴァス / 100.0×199.2cm
147. 藤田吉香《連雲》/ 1968年 / 油彩・カンヴァス / 91.0×73.0cm / 個人蔵
148. 藤田吉香《花》/ 1974年 / 油彩・カンヴァス / 116.0×91.0cm / 個人蔵
149. 藤田吉香《牡丹》/ 1979年 / 油彩, 金箔・カンヴァス / 116.5×91.0cm / 個人蔵
150. 森三美原画 / 国武喜次郎商店広告画 / 石版, 単色刷 / 38.3×53.0cm / 個人蔵
151. 森三美原画 / 須佐能袁神社図 / 1892年 / 石版, 単色刷 / 30.8×43.5cm / 個人蔵
152. 森三美 / 中村久枝宛書簡(葉書) / 1914年7月30日消印 / 個人蔵
153. 森三美旧蔵 / A.F. グレース著『油彩風景画の指南書』/ 1885年ロンドン刊 / 個人蔵
154. 森三美旧蔵 /『英国絵画』/ 1902年ロンドン刊 / 個人蔵
155. 高島宇朗著『眼花集』/ 1927年福永書店刊 / 久留米市民図書館
156. 高島宇朗著『せせらぎ集』/ 1927年福永書店刊(改訂増補版) / 個人蔵
157. 青木繁 / 青木鶴代, たよ子宛書簡(封書) / 1910年11月22日付 / 17.4×220.9cm
158. 青木まさを(青木繁の母) / 福田豊吉宛書簡(封書) / 1911年12月24日消印 / 18.5×303.4cm
159. 青木繁肖像写真(幸彦を抱いた) / 1905年9月撮影 / 9.0×5.9cm
160. 青木繁肖像写真 / 1907年頃撮影 / 11.0×7.8cm
161. 坂本繁二郎 / 権藤千之助宛書簡(封書) / 1902年11月22日付 / 久留米市教育委員会
162. 坂本繁二郎 / 権藤千之助宛書簡(封書) / 1902年12月18日付 / 16.5×401.3cm / 久留米市教育委員会
163. 坂本繁二郎 / 森三美宛書簡(葉書) / 1902年10月21日付 / 個人蔵

164. 坂本繁二郎 / 森三美宛書簡(葉書) / 1903年9月16日付 / 個人蔵
165. 坂本繁二郎 / 松田諦晶宛書簡(封書) / 1913年10月30日付
166. 坂本繁二郎 / 青木繁歌碑文字図案 / 1947年 / 紙本墨書 / 51.3×66.8cm
167. 松田諦晶スケッチブックno.141 / 1911年 / 14.7×19.0cm
168. 松田諦晶スケッチブックno.25 / 1914年 / 14.6×19.0cm
169. 松田諦晶スケッチブック / 1943-48年 / 11.6×17.5cm
170. 松田諦晶日誌 / 1907年1月30日-1912年12月21日
171. 松田諦晶日誌 / 1913年3月-1914年3月
172. 松田諦晶日誌 / 1920年
173. 松田諦晶日誌 / 1943年
174. 古賀春江スケッチブック8 / 1914年 / 13.8×18.3cm
175. 古賀春江ノート6 / 1930-32年
176. 古賀春江 / 松田諦晶宛書簡(封書) / 1919年6月18日付
177. 古賀春江 / 松田諦晶宛書簡(葉書) / 1919年9月18日付
178. 古賀春江 / 松田諦晶宛書簡(封書) / 1926年4月14日付
179. 古賀春江 / 坂宗一宛書簡(封書) / 1932年5月18日付
180. 高田力蔵 / 松田諦晶宛書簡(封書) / 1935年3月22日付
181. 古沢岩美 / 松田諦晶宛書簡(絵葉書) / 1935年1月21日消印

＊前期展示期間は11月16日－2003年1月19日, 後期展示期間は1月21日－3月16日。
＊所蔵の標記のない作品は, すべて石橋美術館蔵。

関連事業：

開催記念美術講座 → p.42
「特別展示 筑後の美術家たちによる坂本繁二郎似顔絵競作」
当館では, 「筑後洋画の系譜」展会期中に, 坂本繁二郎の似顔絵カット原画10点の寄贈を受けた。その原画を2003年2月16日より3月16日まで第3室に展示した。

広報記録：

「郷土の画業を眺望 青木繁・坂本繁二郎生誕120年記念」『朝日新聞』2002年11月15日(筑後版)
米本浩二「青木, 坂本, 古賀洋画の山脈連綿と」『毎日新聞』2002年12月6日夕刊
「層の厚さ誇る筑後画壇」『西日本新聞』2002年12月28日
「坂本繁二郎を描いた似顔絵 石橋美術館が原画展示」『朝日新聞』2003年2月21日(県内版)
「展覧会から 『筑後洋画の系譜展』」『西日本新聞』2003年2月27日夕刊
「繁二郎の似顔絵多彩に 郷土の画家らが制作」『西日本新聞』2003年3月4日(筑後版)

〈特集展示〉

芳中·其一·孤邨—江戸時代後期の琳派

会期：2002年9月29日（日）－11月10日（日）
会場：別館
主催：石橋財団石橋美術館
後援：久留米市 / 財団法人久留米文化振興会
出品内容：絵画23点
入場者総数：3,974人（1日平均 108人）
担当＝平間理香

芳中·其一·孤邨展会場

出品目録：

1. 池田孤邨《燕子花八橋図屏風》/ 江戸時代 19世紀 / 紙本金地著色, 紙本著色 二曲一双屏風 / 162.9×178.2cm / 個人蔵
2. 池田孤邨《光琳新撰百図》/ 江戸時代 1864年 / 紙本墨版 冊子一冊 / 26.0×20.0cm / 東京芸術大学附属図書館
3. 酒井抱一《光琳百図》/ 江戸時代 1815年, 1826年 / 紙本墨版 冊子四冊 / 27.0×19.0cm / 東京芸術大学附属図書館
4. 中村芳中《光琳画譜》/ 江戸時代 1802年 / 紙本木版彩色 折本二冊 / 31.0×21.0cm / 東京芸術大学附属図書館
5. 中村芳中《月に露草図扇面》/ 江戸時代 19世紀 / 紙本著色 掛幅一幅 / 32.5×66.2cm / 個人蔵
6. 鈴木其一《月に秋草図》/ 江戸時代 19世紀 / 絹本墨画 掛幅一幅 / 96.8×34.8cm / 個人蔵
7. 鈴木其一《芍薬に蝶図》/ 江戸時代 19世紀 / 絹本著色 掛幅一幅 / 92.4×34.2cm / 板橋区立美術館
8. 中村芳中《登城図》/ 江戸時代 19世紀 / 紙本墨画淡彩 掛幅一幅 / 94.4×27.0cm / 個人蔵
9. 中村芳中《ほそ道》/ 江戸時代 19世紀 / 紙本木版多色刷 折本一冊 / 17.7×11.8cm / 天理大学附属天理図書館
10. 池田孤邨《浮世美人図》/ 江戸時代 19世紀 / 絹本著色 掛幅一幅 / 122.1×49.2cm / 板橋区立美術館
11. 鈴木其一《大山祭図》/ 江戸時代 19世紀 / 絹本著色 掛幅一幅 / 112.9×39.4cm / 個人蔵
12. 鈴木其一《牧童図》/ 江戸時代 19世紀 / 絹本墨画 掛幅一幅 / 34.0×64.3cm / 個人蔵
13. 中村芳中《白梅図》/ 江戸時代 19世紀 / 紙本著色 掛幅一幅 / 134.5×66.5cm / 千葉市美術館
14. 鈴木其一《四季花木図屏風》/ 江戸時代 19世紀 / 紙本金地著色 六曲一双屏風 / 132.8×318.8cm / 出光美術館
15. 池田孤邨《青楓紅楓図屏風》/ 江戸時代 19世紀 / 紙本金地著色 六曲一双屏風 / 66.2×143.6cm / 石橋美術館
16. 池田孤邨《柿に占地図》/ 江戸時代 19世紀 / 絹本著色 掛幅一幅 / 48.5×25.0cm / 個人蔵
17. 鈴木其一《蔬菜群虫図》/ 江戸時代 19世紀 / 絹本著色 掛幅一幅 / 135.3×68.9cm / 出光美術館
18. 鈴木其一《椿に楽茶碗図》/ 江戸時代 19世紀 / 絹本著色 画帖一帖のうち / 25.5×29.4cm / 個人蔵
19. 鈴木其一《水辺芦鴨図》/ 江戸時代 19世紀 / 絹本著色 掛幅一幅 / 17.7×15.5cm / 個人蔵
20. 中村芳中《四季草花図扇面貼交屏風》/ 江戸時代 19世紀 / 紙本著色 二曲一双屏風 / 157.2×157.0cm / 石橋美術館
21. 中村芳中《白芥子図扇面》ほか / 江戸時代 19世紀 / 紙本著色 めくり八面 / 31.0×66.3cm / 個人蔵
22. 池田孤邨《墨田川遠望図》/ 江戸時代 1826年 / 絹本淡彩 掛幅一幅 / 55.5×107.6cm / 東京都江戸東京博物館
23. 鈴木其一《富士筑波山図屏風》/ 江戸時代 19世紀 / 紙本金地著色 六曲一双屏風 / 128.3×274.2cm / 石橋美術館

関連事業：

開催記念美術講座 → p.42

広報記録：

「展覧会　芳中・其一・孤邨 江戸時代後期の琳派」『朝日新聞』2002年9月21日
「特集展示の美術講座『琳派』の3人を解説」『西日本新聞』2002年10月8日（筑後版）

〈コーナー展示〉

石橋コレクションの名作—西洋絵画・日本洋画・オリエントのガラス

会期：2002年6月11日（火）－8月4日（日）
会場：別館
出品内容：油彩24点, 彫刻4点, ガラス13点　計41点
入場者総数：14,483人（1日平均 302人）　＊藤島展入場者数
担当＝平間理香, 森山秀子

出品目録：

絵画 [展示室A]

1. カミーユ・コロー《ヴィル・ダヴレー》/ 1835-40年 / 油彩・カンヴァス / 51.1×46.6cm / ブリヂストン美術館
2. カミーユ・ピサロ《菜園》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / 55.2×45.9cm / ブリヂストン美術館
3. エドゥワール・マネ《自画像》/ 1878-79年 / 油彩・カンヴァス / 95.4×63.4cm / ブリヂストン美術館
4. アルフレッド・シスレー《サン=マメス六月の朝》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 54.6×73.4cm / ブリヂストン美術館
5. ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》/ 1904-06年頃 / 油彩・カンヴァス / 66.2×82.1cm / ブリヂストン美術館
6. クロード・モネ《睡蓮》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 81.5×100.5cm / ブリヂストン美術館
7. クロード・モネ《睡蓮の池》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 100.6×73.5cm / ブリヂストン美術館
8. クロード・モネ《黄昏, ヴェネツィア》/ 1908年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.0×92.5cm / ブリヂストン美術館
9. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 97.8×70.8cm / ブリヂストン美術館
10. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわる水浴の女》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 55.0×44.2cm / ブリヂストン美術館
11. ピエール=オーギュスト・ルノワール《花のついた帽子の女》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス / 40.6×50.2cm / ブリヂストン美術館
12. ポール・シニャック《コンカルノー港》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 73.4×53.9cm / ブリヂストン美術館
13. ジョルジュ・ルオー《ピエロ》/ 1925年 / 油彩・紙 / 75.2×51.2cm / ブリヂストン美術館
14. パブロ・ピカソ《生木と枯木のある風景》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 49.2×65.4cm / ブリヂストン美術館
15. パブロ・ピカソ《腕を組んですわるサルタンバンク》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 130.8×98.0cm / ブリヂストン美術館
16. アメデオ・モディリアーニ《若い農夫》/ 1918年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.4×50.3cm / ブリヂストン美術館
17. 岡田三郎助《水浴の前》/ 1916年 / 油彩・カンヴァス / 197.0×76.2cm
18. 青木繁《自画像》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 80.5×60.5cm
19. 青木繁《天平時代》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 45.3×75.5cm / ブリヂストン美術館
20. 青木繁《海景（布良の海）》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.6×73.0cm / ブリヂストン美術館
21. 坂本繁二郎《少女》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 40.8×32.8cm
22. 坂本繁二郎《自像》/ 1923-30年 / 油彩・カンヴァス / 52.5×45.0cm
23. 坂本繁二郎《帽子を持てる女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 80.7×65.0cm
24. 坂本繁二郎《放牧三馬》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 79.6×99.0cm

彫刻 [ロビー]

1. オーギュスト・ロダン《カミーユ・クローデル》/ 1889年 / ブロンズ / H. 24.5㎝ / ブリヂストン美術館
2. コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》/ 1907-10年 / 石膏 / H. 28.0㎝ / ブリヂストン美術館
3. パブロ・ピカソ《道化師》/ 1905年 / ブロンズ / 40.6㎝ / ブリヂストン美術館
4. 豊福知徳《レリーフ 金 Ⅱ》/ 1967年 / ブロンズ / H. 42.5㎝

オリエントのガラス [展示室B]

1. 《五角小瓶》/ シリア・パレスチナ / 3世紀後半-4世紀(ローマ帝国) / H. 8.1cm, W. 2.4cm
2. 《梨形瓶》/ シリア・パレスチナまたはキプロス / 1世紀後半(ローマ帝国) / H. 12.8cm, W. 9.4cm
3. 《球形長頸瓶》/ シリア・パレスチナ / 2世紀中葉-後半(ローマ帝国) / H. 19.9cm, W. 14.7cm
4. 《突起文瓶》/ シリア・パレスチナ / 3世紀(ローマ帝国) / H. 11.2cm, W. 7.3cm
5. 《突起文括碗》/ シリア・パレスチナ / 3世紀中葉-後半(ローマ帝国) / H. 8.6cm, W. 11.7cm
6. 《貼付紐文広口瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀前半(ローマ帝国) / H. 11.3cm, W. 8.7cm
7. 《貼付紐文広口瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀前半(ローマ帝国) / H. 7.8cm, W. 7.3cm
8. 《円筒形把手付瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀初頭-中葉(ローマ帝国) / H. 24.8cm, W. 10.4cm
9. 《脚台把手付瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀(ローマ帝国) / H. 44.3cm, W. 17.7cm
10. 《大皿》/ エジプト / 4世紀(ローマ帝国) / H. 5.8cm, W. 34.8cm
11. 《貼付幾何文長杯》/ イラン(イラン北部) / 2-3世紀(パルティア朝またはサーサーン朝) / H. 22.7cm, W. 9.5cm
12. 《円形切子碗》/ イラク / 6世紀前半(サーサーン朝) / H. 8.8cm, W. 11.8cm
13. 《貼付線文鼓形把手付瓶》/ イラン(イラン北部) / 10世紀末(ガズニ朝) / H .19.2cm, W. 14.1cm

＊所蔵の標記のない作品は, 石橋美術館蔵。

水の表情
ブリヂストン美術館の名作

会期：2002年8月13日（火）－11月7日（木）
会場：石橋美術館
出品内容：水の表情＝油彩15点, 水彩2点　計17点 / ブリヂストン美術館の名作＝油彩22点, 彫刻3点　計25点
入場者総数：6,922人（1日平均 94人）
担当＝森山秀子

出品目録：

水の表情 [第4室]

1. クロード・モネ《雨のベリール》/ 1866年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×73.7cm / ブリヂストン美術館
2. クロード・モネ《アルジャントゥイユの洪水》/ 1872-73年 / 油彩・カンヴァス / 54.4×73.3cm / ブリヂストン美術館
3. クロード・モネ《睡蓮の池》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 100.6×73.5cm / ブリヂストン美術館
4. ポール・シニャック《コンカルノー港》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 73.4×53.9cm / ブリヂストン美術館
5. 中丸精十郎《瀑》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス / 107.6×70.2cm
6. 藤島武二《ネミ湖》/ 1908年 / 油彩・板 / 26.0×34.8cm
7. 藤島武二《糸杉（ヴィラ・ファルコニエリ）》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 39.5×36.6cm / ブリヂストン美術館
8. 藤島武二《噴水のある池》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァスボード / 24.0×32.6cm
9. 藤島武二《浪（大洗）》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 33.3×45.6cm
10. 吉田博《ウダイプール宮殿》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 33.0×45.4cm
11. 吉田博《奔流》/ 1936年 / 油彩・カンヴァス / 96.7×130.7cm
12. 青木繁《海》/ 1904年 / 油彩・板 / 10.3×14.7cm
13. 青木繁《海景（布良の海）》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.6×73.0cm / ブリヂストン美術館
14. 青木繁《月下滞船図》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / 42.5×60.0cm
15. 青木繁《春》/ 1908年 / 水彩・布（襖布）/ 直径44.3cm
16. 青木繁《秋》/ 1908年 / 水彩・布（襖布）/ 直径44.4cm
17. 和田三造《海》/ 油彩・カンヴァス / 106.5×197.5cm

＊ 所蔵の標記のない作品は, 石橋美術館蔵。

ブリヂストン美術館の名作 [第7, 8室]

1. カミーユ・コロー《ヴィル・ダヴレー》/ 1835-40年 / 油彩・カンヴァス / 51.1×46.6cm
2. カミーユ・ピサロ《ブージヴァルのセーヌ河》/ 1870年 / 油彩・カンヴァス / 51.4×82.2cm
3. カミーユ・ピサロ《菜園》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / 55.2×45.9cm
4. エドゥワール・マネ《自画像》/ 1878-79年 / 油彩・カンヴァス / 95.4×63.4cm
5. アルフレッド・シスレー《サン=マメス六月の朝》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 54.6×73.4cm
6. ポール・セザンヌ《帽子をかぶった自画像》/ 1890-1894年頃 / 油彩・カンヴァス / 61.2×50.1cm
7. ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》/ 1904-06年頃 / 油彩・カンヴァス / 66.2×82.1cm
8. クロード・モネ《睡蓮》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 81.5×100.5cm
9. クロード・モネ《黄昏, ヴェネツィア》/ 1908年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.0×92.5cm
10. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 97.8×70.8cm
11. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわる水浴の女》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 55.0×44.2cm
12. ピエール=オーギュスト・ルノワール《花のついた帽子の女》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス / 40.6×50.2cm
13. ポール・ゴーガン《ポン=タヴェン付近の風景》/ 1888年 / 油彩・カンヴァス / 72.9×92.2cm
14. ピエール・ボナール《ヴェルノン付近の風景》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 63.4×62.4cm
15. アンリ・マティス《縞ジャケット》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 123.6×68.4cm
16. アンリ・マティス《両腕をあげたオダリスク》/ 1921年 / 油彩・カンヴァス / 45.9×38.2cm
17. アンリ・マティス《青い胴着の女》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×33.0cm
18. モーリス・ドニ《バッカス祭》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 99.2×139.5cm
19. ジョルジュ・ルオー《ピエロ》/ 1925年 / 油彩・紙 / 75.2×51.2cm
20. パブロ・ピカソ《生木と枯木のある風景》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 49.2×65.4cm
21. パブロ・ピカソ《腕を組んですわるサルタンバンク》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 130.8×98.0cm
22. アメデオ・モディリアーニ《若い農夫》/ 1918年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.4×50.3cm
23. オーギュスト・ロダン《カミーユ・クローデル》/ 1889年 / ブロンズ / H. 24.5cm
24. コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》/ 1907-10年 / 石膏 / H. 28.0cm
25. パブロ・ピカソ《道化師》/ 1905年 / ブロンズ / H. 40.6cm

＊すべてブリヂストン美術館蔵。

〈土曜講座〉

土曜日　　14：00～16：00　　ホール

通算回数	月　日	講座題目	講師
《藤島武二の世界》			
企画＝貝塚健			
1931　2002年	4月13日	藤島武二とオリエンタリズム	山梨絵美子氏（東京文化財研究所主任研究官）
1932	4月20日	風景の渉猟：藤島武二の眼差し	貝塚 健
1933	4月27日	《天平の面影》と明治浪漫主義	橋冨博喜氏（近畿大学九州工学部助教授）
《地中海学会春期連続講演会　地中海都市を読む—歴史と文化》			
企画＝小佐野重利氏（地中海学会，東京大学教授）			
1934	5月 4日	フィレンツェとヴェネツィア	高階秀爾 氏（東京大学名誉教授，大原美術館館長）
1935	5月11日	サラマンカ—知の発信拠点	清水憲男 氏（上智大学教授）
1936	5月18日	アレクサンドリア—最新の成果から	牟田口義郎 氏（財団法人中東調査会常任理事）
1937	5月25日	シチリア都市の光と影	陣内秀信 氏（法政大学教授）
《学芸員の仕事》			
企画＝貝塚健			
1938　2003年	1月18日	まち，ひと，アート—現代美術をとりまく現場	逢坂恵理子 氏（水戸芸術館現代美術センター芸術監督）
1939	1月25日	博物館のつくり方—「琵琶湖」が生み出した博物館	布谷知夫 氏（滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員）
1940	2月 1日	美術館の可能性—コレクションと活動	沼辺信一 氏（川村記念美術館学芸員）
1941	2月 8日	美術館で起きていること—美術と美術館の普及	齋 正弘 氏（宮城県美術館教育普及部上席主任研究員）
《装飾考》			
企画＝坂本恭子（ブリヂストン美術館学芸員［当時］）			
1942	2月22日	「装飾」と「芸術」のあわい—フランス20世紀の黎明	天野知香 氏（お茶の水女子大学助教授）
1943	3月 1日	「装飾」から「文明」を読む美術史—極西のケルト，極東の日本から見る	鶴岡真弓 氏（立命館大学教授）
1944	3月 8日	日本の造形にみる装飾・かざり・つくり	玉蟲敏子 氏（武蔵野美術大学教授）
1945	3月15日	近代建築と装飾	長谷川 堯 氏（武蔵野美術大学教授）

〈日曜レクチャー〉

【午前】日曜日　11：00～11：45
【午後】日曜日　14：00～14：45

月　日	タイトル	講師	場所
2003年　1月26日	【午前】マティスと女性像	和田佐知子（ブリヂストン美術館インターン）	展示室
	【午後】“日本”を描いた洋画	杉野愛（ブリヂストン美術館インターン）	展示室
2月29日	【午前】かたちの継承―アヴァンギャルドの一側面	坂本恭子	展示室
	【午後】画家たちの見た風景	富岡進一（ブリヂストン美術館インターン）	展示室
2月23日	【午前】技法の視点から	山口百合（ブリヂストン美術館インターン）	展示室
	【午後】ひとのかたち	菅野美和（ブリヂストン美術館インターン）	展示室
3月　9日	【午前】自分を描くこと―西洋近代画家の場合	高田瑠美（ブリヂストン美術館インターン）	展示室
	【午後】自分を描くこと―日本人画家の場合	藤井さやか（ブリヂストン美術館インターン）	展示室

〈記念講演会〉

藤島武二展の開会にあわせて，以下の記念講演をホールにて開講した。

2003年　4月 6日（土）「藤島武二展」記念講演　藤島武二と西洋 ―― 高階秀爾 氏（東京大学名誉教授，大原美術館館長）

〈イヴニング・ギャラリートーク〉

藤島武二展の会期中，毎週金曜日の18：00～18：45，展示会場において担当学芸員によるイヴニング・ギャラリートーク「藤島武二を楽しむ」を開講した。

担当＝貝塚健

実施日＝4月12日，4月19日，4月26日，5月3日，5月10日，5月17日，5月24日，5月31日

〈見学解説〉

2002年	4月19日(金)	東京女子大学同窓会横浜支部「美術館探訪の会」	31人
	5月 6日(月)	白鷗高校同窓会	8人
	5月10日(金)	小学校図工科教諭のための「藤島武二展」見学会	18人
	5月10日(金)	北海道教育大学	7人
	5月14日(火)	豊橋市立二川中学校	3年生3人
	5月16日(木)	中央区立中央小学校	4年生13人
	5月17日(金)	豊橋市立羽田中学校	3年生3人
	5月17日(金)	小学校図工科教諭のための「藤島武二展」見学会	11人
	5月19日(日)	東京国際大学	20人
	5月21日(火)	名古屋市立久万中学校	3年生4人
	5月23日(木)	文化学院	7人
	5月29日(水)	武蔵野美術大学芸術文化学科	18人
2003年	1月11日(土)	文教大学	7人
	1月15日(水)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	30人
	1月16日(木)	中央区立阪本小学校	1, 2年生40人
	1月21日(火)	稲城市立第一中学校	1年生6人
	1月22日(水)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	30人
	1月23日(木)	家庭裁判所養成部合同研修生	39人
	1月24日(金)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	18人
	1月28日(火)	新現役ネット「美術館を巡る会」	30人
	1月29日(水)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	30人
	1月31日(金)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	18人
	2月 4日(火)	立川市立第九中学校	1年生7人
	2月 5日(水)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	30人
	2月 7日(金)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	18人
	2月12日(水)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	30人
	2月13日(木)	中央区立月島第一小学校	5年生41人
	2月14日(金)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	18人
	2月19日(水)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	30人
	2月21日(金)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	18人
	2月26日(水)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	30人
	2月28日(金)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	18人
	3月 5日(水)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	30人
	3月 7日(金)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	18人
	3月 8日(土)	武蔵野美術大学	12人
	3月11日(火)	平塚市美術館「湘南美術散歩」	32人
		新現役ネット「美術館を巡る会」	25人
	3月14日(金)	早稲田大学オープンカレッジ「ブリヂストン美術館を読む」	18人

〈ファミリー・プログラム〉

小学生を含む家族を対象にして，事前申し込み制により，参加者の人数や年齢構成にあわせたプログラムを準備して提供している。インターンを交えたチームにより，特別展会期中をのぞいた毎月第一日曜日に，常設展示を用いたプログラムを構成し実施した。定員は，原則として5家族としている。

【午前】10：30～12：30
【午後】14：00～16：00

2003年	2月2日	【午前】「光と色，描き方，タッチ，物語，素材の視点からの鑑賞1」	4組，13人
		【午後】「光と色，描き方，タッチ，物語，素材の視点からの鑑賞1」	5組，16人
	3月2日	【午前】「光と色，描き方，タッチ，物語，素材の視点からの鑑賞2」	5組，18人
		【午後】「光と色，描き方，タッチ，物語，素材の視点からの鑑賞2」	5組，16人

〈インターンシップ〉

2002年4月1日から2003年3月31日まで，以下のようなインターンシップを行った。
2001年から始まったインターンシップは，原則として，国内の大学院に在学し，今後美術館職員として働くことを志望している30歳以下の学生を対象にしてきた。耐震工事により7カ月の休館を予定していた本年度は，教育普及部門において過去2年間にインターンシップを受講した学生より希望者を募って，より実務に深く関わった「シニア・インターンシップ」を実施した。

インターン：

菅野美和	（東京学芸大学大学院　教育学研究科美術教育専攻造形芸術学専修修士課程）
杉野愛	（東京大学大学院　人文社会系研究科美術史学博士課程）
高田瑠美	（学習院大学大学院　人文科学研究科哲学専攻博士前期課程）
富岡進一	（成城大学大学院　文学研究科美学美術史専攻博士課程後期）
藤井さやか	（日本女子大学大学院　人間社会研究科相関文化論専攻修士課程）
山口百合	（女子美術大学大学院　美術研究科修士課程）
和田佐知子	（早稲田大学大学院　文学研究科芸術学（美術史）専攻博士後期課程）

実習活動日：42日間
主な実習内容：美術館における教育普及活動の実務
担当者：貝塚健，坂本恭子

〈美術講座〉

土曜日　　14：00～15：30
とくに記載のないものは講座室にて開催

月　日	講座題目	講師
《「コレクター石橋正二郎」展開催記念美術講座》		
2002年　4月20日	コレクター二代 —青木繁と父・梅野満雄，そして私	梅野 隆 氏（北御牧村立梅野記念絵画館館長）
＊石橋文化会館小ホール		
4月27日	石橋正二郎コレクション形成史 —美術館への夢	宮崎克己
5月11日	石橋正二郎コレクション形成史 —戦前の日本洋画を中心に	植野健造
《「藤島武二展」開催記念美術講座》		
6月29日	藤島武二の生涯と芸術	植野健造
7月13日	藤島武二芸術の成熟と展開—風景画を中心に	貝塚 健
《「芳中·其一·孤邨—江戸時代後期の琳派」展開催記念美術講座》		
10月 5日	琳派と草花	平間理香
10月12日	琳派と浮世絵	小林 忠 氏（学習院大学教授）
11月 2日	抱一後の琳派の行方	安村敏信 氏（板橋区立美術館学芸研究主査）
《「筑後洋画の系譜」展開催記念「筑後洋画を語る」》		
11月30日	筑後洋画の系譜	植野健造
12月 7日	櫨の国の画家たち	吉田 浩 氏（ミリカローデン那珂川館長）
12月14日	松田諦晶と来目会	橋冨博喜 氏（近畿大学九州工学部助教授）
2003年　1月18日	坂本繁二郎と筑後の風土	谷口治達 氏（九州造形短期大学学長・田川市美術館館長）
1月25日	イメージの風土学—筑前と筑後の画家たち	西本匡伸 氏（福岡県立美術館学芸課長）
2月22日	筑後洋画の人脈—古賀春江を中心として	古川智次 氏（福岡大学人文学部教授）
3月 1日	筑後の美術団体	田内正宏
3月 8日	筑後美術散歩 —青木繁・坂本繁二郎ゆかりの地	森山秀子

〈ギャラリートーク〉

毎月第1～第4週の日曜日，本館または別館の展示室で実施した。
時間：14：00～14：20

〈見学解説〉

2002年	4月28日(日)	京都女子大学文学部学生	30人
	5月 2日(木)	県南市議会議員	15人
	5月 8日(水)	甘木市老人福祉センター寿楽荘	約20人
	5月 9日(木)	NHK文化センター	45人
		甘木市老人福祉センター寿楽荘	25人
	5月15日(水)	有明工業高等専門学校	42人
	5月17日(金)	甘木市老人福祉センター寿楽荘	約20人
		NHK松山文化センター	47人
		久留米教育クラブ	
	5月18日(土)	甘木市老人福祉センター寿楽荘	約20人
	5月22日(水)	有明工業高等専門学校	42人
	5月29日(水)	三根東小学校	6年生36人
	5月31日(金)	横浜美術館友の会	
	6月 1日(土)	久留米工業高等専門学校	35人
		日米協会	50人
	6月 2日(日)	福岡大学学生	約10人
	7月14日(日)	八女市海外派遣事業研修	23人
	8月 1日(木)	小郡市・三井郡小学校教育研究会	約20人
	9月 5日(木)	福岡県立学校事務職員筑後地区研修会	約20人
	9月13日(金)	久留米教育クラブ	
	10月 8日(火)	金丸校区公民館女性学級	約10人
	10月17日(木)	郡山市姉妹都市研修	7人
	10月23日(水)	廿日市市文化スポーツ振興事業団一行	
	11月19日(火)	大分市美術館ボランティア養成講座	40人
	11月22日(金)	久留米教育クラブ	11人
	11月23日(土)	八女市教育委員会	29人
	12月 1日(日)	久留米市観光ボランティア研修	17人
2003年	1月 8日(水)	NHK大分文化センター	31人
	1月15日(水)	荘島小学校	43人
	2月13日(木)	福間町歩こう会上西郷支部	67人
	2月16日(日)	田川市美術館協議委員	12人
	3月12日(水)	青葉会	20人

〈学習における美術館の利用など〉

2002年	9月11日(水)	八女市立三河小学校「坂本繁二郎について学習」――36人
	10月10日(木)	宮ノ陣小学校「青木, 坂本についての学習」――6年生34人
	10月11日(金)	上津小学校「青木, 坂本についての学習」――6年生136人
	10月22日(火)	熊本県鹿本郡市小学校図工美術部会――先生44人
	10月24日(木)	福岡教育大学附属久留米中学校「総合的な学習の時間・体験学習」1年生 1人
	11月 6日(水)	南薫小学校「南薫PRし隊2002」――6年生5人
	11月10日(日)	マナビィランド(久留米生涯学習フェスティバル2002) 「美術館探訪」――101人 (午前44人, 午後57人)
	11月19日(火)	宮ノ陣小学校「青木繁, 坂本繁二郎についての学習」――6年生 35人
	11月20日(水)	久留米市立良山中学校「総合的な学習の時間・職場体験学習」――3年生 1人
	11月29日(金)	宮ノ陣小学校「青木繁, 坂本繁二郎についての学習」――6年生 35人
2003年	2月22日(土)	石橋記念くるめっ子館「久留米の先人先達に学ぼう」――小学生 42人
	2月26日(水)	久留米市立西国分小学校3年4組「親子学級活動」――61人 (小学生 36人, 保護者 25人)

〈館外活動〉

2002年	10月25日(金)	久留米ロータリークラブ例会講話 (担当:平間)
	11月 1日(金)	上津小学校公開授業 (担当:植野, 森山)

〈夏休み親子実技講座〉

久留米市近郊在住作家の協力のもと「夏休み, 親子で芸術家 陶芸に挑戦!」と題する実技講座を実施した。

講座内容:

鳥栖市在住, ワークショップの経験をもつ陶芸家・松尾伊知郎氏の助言や協力を得て, 親子で粘土による器やオブジェなどの形成, 絵付けを楽しみ, 1階ギャラリーに焼き上がった作品を展示, 鑑賞した。

開催日時:

2001年	7月27日(土)	土による形成1日目
	7月28日(日)	土による形成2日目
	8月11日(日)	絵付け・釉薬かけ
	8月23日(金)	作品展示作業・鑑賞会

時間はいずれの日も9:30〜11:30, 場所は講座室。

作品は8月23日(金)−8月25日(日)まで1階ギャラリー4室に展示, 最終日に作品を持ち帰ってもらった。

参加料:

1組1,000円

参加者:

原則として小学生とその保護者各1人ずつを1組とし14組参加。そのうち保護者の送迎を条件に, 子どもだけの組が5組あった。

「夏休み, 親子で芸術家 陶芸に挑戦!」
初日, 土による形成

〈博物館実習生の受入れ〉

学芸員資格取得のための博物館実習を次のように受け入れた。
期間：2002年8月20日－8月31日
人数：7校　7名
実習内容：

	午前（10：00～12：00）	午後（13：00～17：00）
8月20日（火）	館長挨拶 （喜多村館長） 組織と運営 （郷原）	館内見学 （郷原）
8月21日（水）	作品の調査と調書の作成 （平間）	作品の調査と調書の作成 （平間）
8月22日（木）	作品の調査と保存 （石井）	作品の調査と保存 （石井）
8月23日（金）	教育普及活動見学実習 （後藤）	作品の管理 （森山）
8月24日（土）	写真撮影 （田内）	写真撮影 （田内）
8月25日（日）	他館見学	他館見学
8月26日（月）	休館日　休み 実習ノートの整理	
8月27日（火）	図書資料の整理実習 （後藤）	図書資料の整理実習 （後藤）
8月28日（水）	図書資料の整理実習 （後藤）	図書資料の整理実習 （後藤）
8月29日（木）	教育普及活動について （植野）	常設展と企画展 （植野）
8月30日（金）	美術講座の開催 （森山）	企画展の開催 （森山）
8月31日（土）	まとめ （植野）	実習ノートの整理，提出 （植野）

入場者数

ブリヂストン美術館

月	開館日数	有料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	21	8,788	453	99	277	9,617	3,657	13,274	632
5	27	15,711	1,517	297	489	18,014	12,408	30,422	1,127
6	2	1,484	500	16	4	2,004	2,389	4,393	2,197
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	19	5,723	446	268※1	287	6,456※3	518※4	6,974	367
2	24	7,622	521	645※1	589	8,732※3	998※4	9,730	405
3	20	7,063	610	230※1	299	7,972※3	964※4	8,936	447
合計	113	46,391	4,047	1,555※2	1,945	52,795※3	20,934※4	73,729	652

※1：2003年1月より中・小生無料
※2：無料の中・小生(1,143)を含む
※3：有料合計に無料の中・小生を含まず
※4：無料合計に無料の中・小生を含む

石橋美術館

月	開館日数	有料					無料			総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計	中・小生	招待他	合計		
4	13	5,080	201	180	648	6,109	0	1,602	1,602	7,711	593
5	27	13,613	643	521	1,291	16,068	0	9,333	9,333	25,401	941
6	20	4,551	198	223	489	5,461	0	2,821	2,821	8,282	414
7	26	3,762	159	148	631	4,700	0	3,337	3,337	8,037	309
8	21	2,177	172	94	242	2,685	206	1,809	2,015	4,700	224
9	25	1,229	99	0	306	1,634	144	62	206	1,840	74
10	27	1,485	69	0	615	2,169	373	266	639	2,808	104
11	22	1,750	74	0	652	2,476	339	703	1,042	3,518	160
12	23	1,211	107	0	124	1,442	122	161	283	1,725	75
1	24	1,198	47	0	92	1,337	117	269	386	1,723	72
2	24	1,684	64	0	212	1,960	321	465	786	2,746	114
3	26	2,049	140	0	568	2,757	276	1,189	1,465	4,222	162
合計	278	39,789	1,973	1,166	5,870	48,798	1,898	22,017	23,915	72,713	262

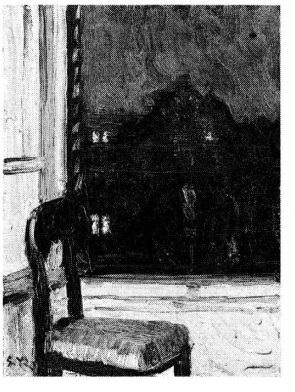
山下新太郎
YAMASHITA Shintaro
1881–1966

パリ祭
1906年
油彩・カンヴァス
19.1×27.0cm
木枠に署名, 年記, 書込：山下新太郎作 / 千九百六年作 山下新太郎 / 佛蘭西國祭日七月十四日（カトロズ、ジュエ）

The Fourteenth of July
1906
Oil on canvas
19.1×27.0cm
Signed, dated, and inscribed on the stretcher.

来歴：渡邊峯子, 東京; 2002年, 石橋財団に寄贈
Prov. : Watanabe Mineko, Tokyo; 2002, donated to the Ishibashi Foundation.

保管：ブリヂストン美術館（日洋500）
Managed by the Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

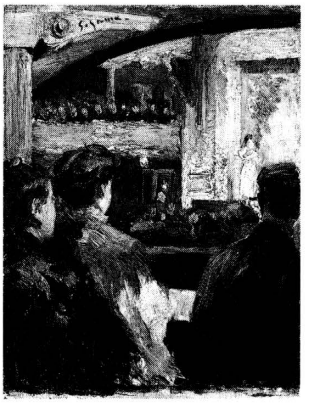


パリのアトリエ
1908年
油彩・板
17.6×13.6cm
裏面に書込, 制作年, 署名, 印章：「讀書」圖畫作ノ為メ / 此の部屋ヲ借ル窓外ニ（ソルボンヌ大学近傍）小公園ノ眺望ヲ有ス / 巴里千九百八年作 / 山下新太郎 朱文方印「山下新太郎之印」; 旧額縁の裏板に書込：千九百八年作 / 「讀書する女」"*Liseuse.*" 千九百九年 / 巴里サロン出品（現在三井高精氏蔵）/ 右製作の為ソルボンヌ大學近傍 / 小公園を窓前に眺め得る部屋を / 見つけて當分下宿す 此圖はその / 部屋 / の夜の / 景也; 米山梅吉氏所蔵 / 「讀書圖」製作當時 / 此室を使□する / ソルボンヌ大学近傍 / 小公園を□前見る

Studio at Paris
1908
Oil on panel
17.6×13.6cm
Inscribed, dated, signed, and stamped with the artist's seal on the reverse; inscribed on the backboard of the old frame.

来歴：渡邊峯子, 東京; 2002年, 石橋財団に寄贈
Prov. : Watanabe Mineko, Tokyo; 2002, donated to the Ishibashi Foundation.

保管：ブリヂストン美術館（日洋501）
Managed by the Bridgestone Museum of Art (Tokyo)



モンパルナスのテアトル・ド・ラ・ゲーテ
1910年
油彩・板
24.3×18.9cm
右上に署名：*S.Yamas.*；裏面に書込，署名，年記：*Au petit Théâtre de la Gaîté Montparnasse / rue de la Gaîté Paris* / ラ・ゲーテ・モンパルナッス小劇場に於て寫す / 千九百八年冬 / 山下生；額縁の裏板に書込：*Paris. / Au Théâtre de la Gaîté / Montparnasse* /（舞臺ニ一女優立ちて唱ふ場面）/ 巴里 / 小劇場ノ一隅 /（主として流行歌を唱ふ）/ 千九百十年頃 / ド、ラ、ゲーテ、モンパルナツス座、/ 後年内部ヲ赤色ニ塗リ改装ス / 千九百三十一年巴里再遊ノ際ニ / 寫生シタルモノハ劇場内部全部赤色ナリ；額縁の裏面の貼紙に書込：ルヰ十六世式 / 木彫純金 / 百五十法

Théâtre de la Gaîté at Montparnasse
1910
Oil on panel
24.3×18.9cm
Signed upper right; inscribed, signed, and dated on the reverse; inscribed on the frame on a piece of paper attached to the reverse of the flame itself.

来歴：渡邊峯子，東京；2002年，石橋財団に寄贈
Prov. : Watanabe Mineko, Tokyo; 2002, donated to the Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh. : 1981, ブリヂストン美術館「生誕100年 山下新太郎展」no.13

文献 Bibl. : 1956『美術家シリーズ(3)山下新太郎』ブリヂストン美術館, p.12, 図版(解説：山下新太郎)

保管：ブリヂストン美術館(日洋502)
Managed by the Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

むらさきはしどい(ライラック)
1943年
油彩・カンヴァス
49.5×39.0cm
額縁の裏板に題名，制作年，署名，印章：むらさきはしどい /（ライラック）/ 昭和十八年春日 / 山下新太郎畫 朱文方印「新太郎」

Lilac
1943
Oil on canvas
49.5×39.0cm
Titled, dated, signed, and stamped with the artist's seal on the backboard of the frame.

来歴：渡邊峯子，東京；2002年，石橋財団に寄贈
Prov. : Watanabe Mineko, Tokyo; 2002, donated to the Ishibashi Foundation.

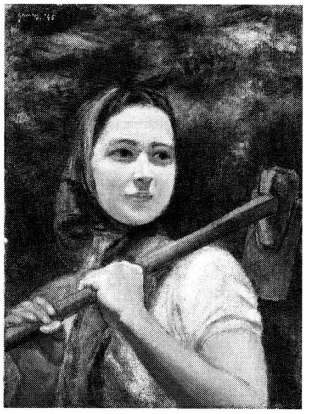
展覧会歴 Exh. : 1943, 東京都美術館「第7回一水会展」；1981, ブリヂストン美術館「生誕100年 山下新太郎展」no.27; 1994,フジカワ画廊, 東京 / フジカワ画廊, 大阪「山下新太郎遺作展」no.15

文献 Bibl. : 1943, 今泉篤男「一水会と新制作派 上 題材と観照」『東京新聞』9月27日；1943「一水会展・新制作派展」『新美術』第28号, 11月号, 図版

保管：ブリヂストン美術館(日洋503)
Managed by the Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

畑へ行く娘
1945年
油彩・カンヴァス
50.5×38.5cm
左上に署名, 年記：*Ymas.'45*；木枠に題名, 年記, 制作地, 署名：畑へ行く娘 / 昭和二十年 / 於寄居 / 山下新太郎畫

A Girl Going to the Farm
1945
Oil on canvas
50.5×38.5cm
Signed and dated upper left; titled, dated, signed, and inscribed on the stretcher.

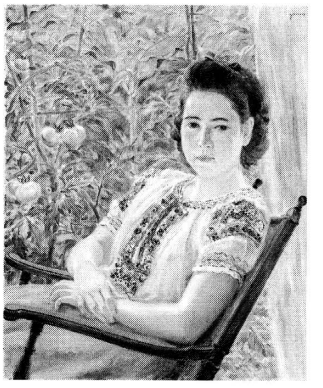


来歴：渡邊峯子, 東京; 2002年, 石橋財団に寄贈
Prov. : Watanabe Mineko, Tokyo; 2002, donated to the Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh. : 1981, ブリヂストン美術館「生誕100年 山下新太郎展」no.28; 1994, フジカワ画廊, 東京 / フジカワ画廊, 大阪「山下新太郎遺作展」no.17

菜園
1946年
油彩・カンヴァス
65.8×54.4cm
右上に署名：*Yamas.*; 木枠に題名, 年記, 署名：菜園 / 昭和二十年猛秋 / 山下新太郎

Vegetable Garden
1946
Oil on canvas
65.8×54.4cm
Signed upper right; titled, dated, and signed on the stretcher.

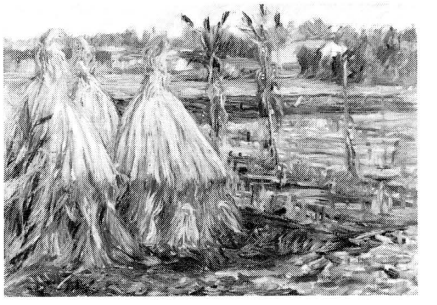


来歴：渡邊峯子, 東京; 2002年, 石橋財団に寄贈
Prov. : Watanabe Mineko, Tokyo; 2002, donated to the Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh. : 1946, 東京都美術館「第8回一水会展」; 1981, ブリヂストン美術館「生誕100年 山下新太郎展」no.32; 1994, フジカワ画廊, 東京 / フジカワ画廊, 大阪「山下新太郎遺作展」no.19

保管：ブリヂストン美術館（日洋505）
Managed by the Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

松田諦晶
MATSUDA, Teisho
1886–1961



刈跡
1914年
油彩・カンヴァス
52.1×71.2cm

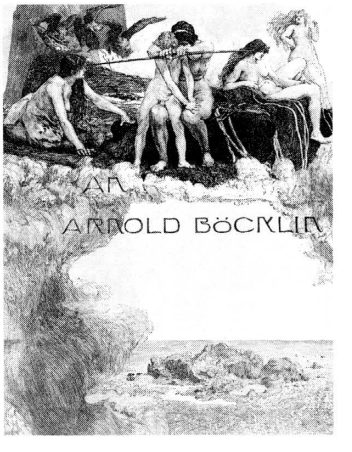
After the Corn Harvest
1914
Oil on canvas
52.1×71.2cm

来歴：有限会社伊藤美術; 2002年, 石橋財団
Prov.: Itoh Bijutsu; 2002, Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh.: 1914, 久留米商業会議所「第1回来目洋画会展覧会」no.53; 1915, 竹之台陳列館, 東京「第13回太平洋画会展覧会」no.87; 1985, 石橋美術館「生誕百年記念 松田諦晶展」no.14; 石橋美術館「青木繁・坂本繁二郎生誕120年記念 筑後洋画の系譜」no.84

保管：石橋美術館（日洋506）
Managed by the Ishibashi Museum of Art (Kurume)

クリンガー, マックス
KLINGER, Max
1857–1920



献辞
連作『ある愛』（作品番号 X）より
初版1887年
エッチング, エングレーヴィング / 紙
42.3×32.7cm（画面）; 68.6×51.7cm（紙）

Dedication
From the cycle *A Love* (Opus X)
First edition published in 1887
Etching and engraving on paper
42.3×32.7cm(image); 68.6×51.7cm(paper)

来歴：ガレリア・グラフィカ; 2002年, 石橋財団に寄贈
Prov.: Galleria Grafica, Tokyo; 2002, donated to the Ishibashi Foundation.

保管：ブリヂストン美術館（外版422）
Managed by the Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

新収図書

ブリヂストン美術館

	購入	寄贈	計
和書	24冊	22冊	46冊
洋書	38冊	10冊	48冊
計	62冊	32冊	94冊

（展覧会図録・逐次刊行物は含まない）

石橋美術館

	購入	寄贈	計
和書	104冊	109冊	213冊
洋書	0冊	3冊	3冊
計	104冊	112冊	216冊

（展覧会図録・逐次刊行物は含まない）

＊石橋財団は谷口鉄雄記念文庫（図書11,525冊，雑誌15タイトル）を北九州市立大学付属図書館に寄贈。2003年3月12日，北九州市立大学において贈呈式が行われた。

報道記録：

「貴重な『四庫全書』含む1万2000冊北九州市立大に寄贈 石橋美術館中国研究・教育を評価」『読売新聞』2003年3月13日
「谷口氏収集の1万1327冊 久留米・石橋美術館北九大図書館に寄付」『毎日新聞』2003年3月13日（北九州版）
「谷口文庫，北九州市立大へ石橋美術館が寄贈 中国の古典など1万2000冊」『西日本新聞』2003年3月13日
「『谷口鉄雄文庫』を寄贈 北九州市大に石橋美術館」『朝日新聞』2003年3月13日（北九州版）

青木 繁《海》
1904年
油彩・カンヴァス(以下画布とする)
36.5×72.8㎝(木枠寸法)
36.0×72.5㎝(画面寸法)
石橋美術館

署名・書き込み等

署名なし。作品裏面向かって右側に黒色鉛筆のような細い字で「断雲掻天 風激上湍」の二行にわたる書き込みあり。書き込みは右辺を天とした格好で,右から左方向に縦書きで書かれている。裏面木枠右上隅に国立近代美術館展覧会 出品票1枚〔展覧会名:近代洋画の歩み(西洋と日本),会期:昭和28年2月1日〜4月19日,題名:海,作者名:青木繁〕と,「川端家」と記入のある赤ラベル1枚が添付されている。木枠接合部には組み合わせる際の目印「×」「○」「*」「|」「||」「|||」の記入がある。中桟部分にも書き込みがあるようにみえるが判読不可能。

処置使用材料等

・画面の汚損除去用液剤:精製水
・画布の破損部部分補修用布:BEVA®371フィルム(注1)を麻布に転写したもの。
・画布への衝撃を緩和し保持するため新たに木枠に張る布:アクリル樹脂プライマーを刷毛塗りした麻布。
・木枠と画布との接触を防ぐための嵩上げ材:米杉材。
・画布の留め鋲:ステンレス製留め鋲。ステンレス製タック。
・部分補彩用絵具:透明水彩絵具。

(注1) 1960年代にG. A. Bergerによって開発された修復用熱可塑性合成接着剤をフィルム状にしたもの。BEVA®371はEVA樹脂を主体とした混合樹脂接着剤。

*修復に使用した材料は,すべてブリヂストン美術館永坂分室で使用しているものを提供を受けて使用。

処置目的及び処置方針

「筑後洋画の系譜」展(平成14年11月16日ー平成15年3月16日まで石橋美術館にて開催)展示に伴う修復処置。本作品は画布側辺部の一部が木枠から脱落しており,画面の平面性を失ってしまって取扱い上危険な状態であった。これらの問題点を改善し,展示に耐え得る状態にすることを処置目的とした。処置方針については石橋財団の意向に従い,作品の現在の印象を変えることなく,保存上必要と考えられる処置を行うこととした。よって,画布の損傷部を補修し,現在の木枠を加工した上で作品保持用の新しい麻布を張り込み,その上にあらためて作品を張り戻す処置を施した。

作品に行った調査

可視光線,斜光線,紫外線下での画面観察と写真記録(35ミリカラープリント,6×7カラーポジ,6×7白黒ネガ)。

作品の状態

本作品は展示のため額から分離され石橋美術館内収蔵庫に保管されていた。

作品は木枠に張った画布(縦糸19×横糸22本 / ㎝の平織りの麻布)に描かれた油彩画(fig.1)で,画面には光沢のあるニスがかかっている。ニスは作品を平置きにして刷毛塗りされたとみえて,左右側辺部に画面側から裏面側へ向かって垂れ落ちた跡が残っている。ニスは若干黄変しているが鑑賞を妨げるほどではなく,保存上の問題は見受けられない。絵具層は全体に薄塗りだが,海や岩の描写部分には作者の筆致をそのままに残した厚い絵具の盛り上がりがある。絵具層が厚い部分では,絵具の乾燥・固化に伴って布が引っ張られ,画面の凹凸や小さな剥落,亀裂が生じている。また,画面中央部(木枠中桟と対応する部分)と右辺部に,木枠との接触による衝撃の繰り返しによって生じた線状の深い亀裂が画面を縦断するように走っており,斜光線下で観

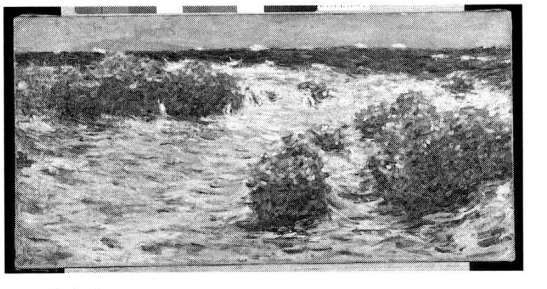


fig.1 修復前

察するとかなり目立つ(fig.2)。しかし，塗布された厚いニスが絵具層固着強化の一助となったとみえて，亀裂箇所に浮き上がりなど処置の緊急を要するような二次的損傷は確認されず，保存状態は比較的良好である。画面向かって左上，岩礁の下に打ち寄せる白い波頭の部分に不自然な黄色い付着物が見られるが，これは画面に接触していた紙の一部がニスと一体となってそのまま残ったものである。画布は布としての強度はまだ十分に保たれており保存上の問題はない。ただし，画布を木枠に留めている鋲はすべて赤茶色く錆びており，特に下側辺部では錆によって布に穴が開き，数箇所で木枠から浮き上がったようになっている(fig.3)。このため，画面四隅には中央へ向かって扇状に広がるように大きく波うちが生じており，周辺部でも鋲が打たれた間隔にあわせて同様の波うちが広がって画面の平面性を損ない，鑑賞上問題となっている。

木枠は太目のしっかりした木材で組まれたもので，虫菌類の寄生の様子はなく，保存状態に問題はない。木枠に楔穴はあるものの楔は付けられていない。四隅とも組合せに変更の跡はなく，現状の組合せ具合にも大きな歪みや弛みは出ていない(fig.4)。画布裏面と木枠との間(特に下辺部)には埃が堆積し，画面を凸状に押し上げている箇所がある。画面向かって右下部分にある絵具層の小さな剥落は，この脹らみの頂点部分が擦れて生じたものである。画布の裏面には，画面に塗布されたニスが絵具層の薄い所や深い亀裂部分から染み出してまだらな染みとなっている。裏面向かって左上部分には，木枠の内側に沿って流れたように湿気で固まった埃の塊が付着している。右側辺上部と下側辺左部には，それぞれ縦1×横0.5㎝，縦1.4×横4.5㎝の画布の破損箇所がある(fig.5)。

処置によって得られた知見

画布側辺(張りしろ)部分に地塗り層は見られない。しかし画面周辺部の絵具層が途切れた所(特に画面向かって右下隅部分)を観察すると，布目が見えるほどに薄く白色が一層塗られているのがわかる。この白色の地塗り層と波の表現に多用されている白色の絵具層とは，可視光線下でも明らかに明度が異なってみえる。紫外線下で観察しても若干異なった蛍光反応が見られることから，地塗り部分の白色と絵具層表層部分の白色とは異質なものではないかと推測する。したがって，地塗りは油絵具とは異なる材料を使って作者自身によって塗布されたものではないかと思うが，その他の青木作品との比較調査を含めこれ以上詳細な情報は顕微鏡下

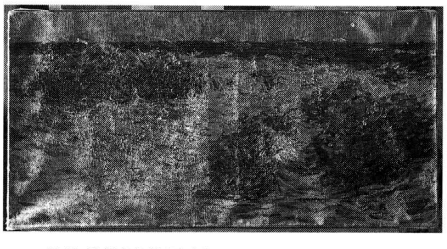


fig.2 修復前(斜光線写真)

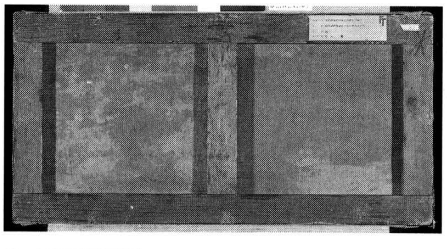


fig.4 修復前裏面

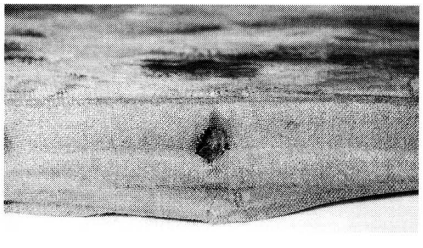


fig.3 布に穴が開き，木枠から浮き上がった状態(下側辺部)

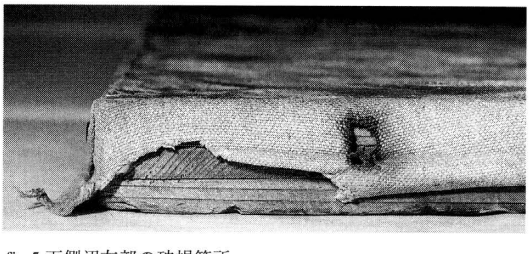


fig.5 下側辺左部の破損箇所

の観察や材料分析に頼る必要があるため，今後の調査を待つしかない。

画布を木枠へ固定するために使われているのは鉄製の鋲。鋲の種類は2種類で長さは約13㎜と17㎜。短いほうは現在市販されている画布固定用の鋲と同形だが，長いほうは頭の部分が大きく画鋲のような形状をしている(fig.6)。画布側辺部の鋲穴は木枠に張られた当時のもののみしかない。したがって，本作品は画布が木枠に張られた後一度も張り替えられていないとみえる。

可視光線下で観察すると空の部分に若干作者の筆致とは異なる箇所が観察できる。同所の絵具層表面の光沢は周りのニスのものとは違って艶のない状態であり，しかもニス層の上に絵具層が重なっているようにみえる。さらに紫外線下で観察すると，前述の箇所は周囲の空の部分が発する蛍光とは異質な暗紫色の染みのような蛍光を発した。今後さらに詳細な調査を行うことによって，これらが明らかに補彩かどうか確認する必要があろう。

修復処置内容

① 処置前の調査及び写真記録。
② 作品表面の埃等の汚損除去。
③ 画布と木枠との分離(fig.7)。
④ 錆に侵された画布鋲穴部分の整理と部分補修。
⑤ 画布裏面の汚損除去。
⑥ 木枠加工(汚損の除去，嵩上げ材の接着，欠損部の補修)。嵩上げ材の木枠への接着には作品保持用布に塗布されたのと同じアクリル樹脂プライマーを使用(fig.8)。
⑦ 作品保持用の麻布を木枠へ張り込み。張り込みにはステンレス製タックを使用。
⑧ 作品の張り戻し。画布固定の際には，元の鋲穴にステンレス製の鋲を使って留め戻した。一箇所布が破れて鋲穴がない部分にはステンレスタックを使用した。鋲と画布との間には厚手の楮紙片を挟みこんだ(fig.9)。
⑨ 画面左上部分の付着物は溶剤を使わずに除去可能な範囲で取り除いた。
⑩ 鑑賞上問題となるような剥落部分のみに，充填等は行わず透明水彩絵具で補彩を施した。
⑪ 処置後の写真撮影(fig.10, 11)。
⑫ 処置報告書の作成。

(絵画保存修復　森 京子)

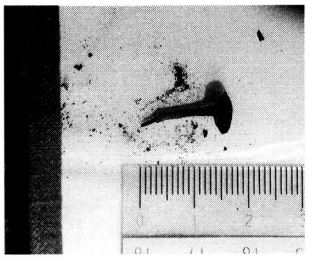


fig.6 画布固定に使われていた鋲
(約17㎜)

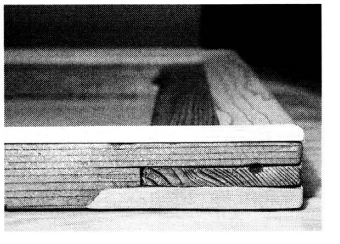


fig.8 木枠加工

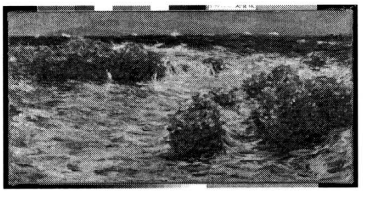


fig.10 修復後

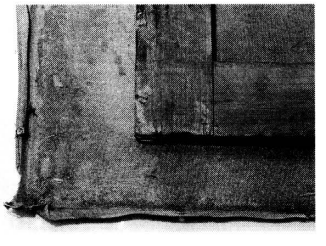


fig.7 画布と木枠を分離したところ

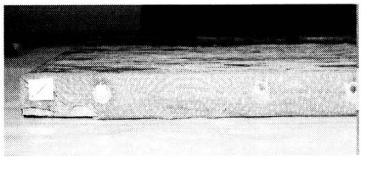


fig.9 作品の張り戻し

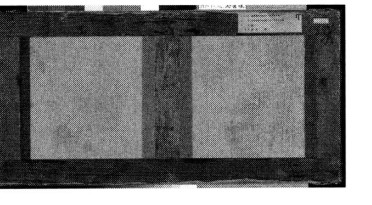


fig.11 修復後裏面

額装について

石井　亨

コンサヴェーションにおいて額装は，絵画作品の装飾ではなくプロテクターとして考える必要がある。従って作品を保護するに充分な強度を持たなければならない。同時にプロテクターとして額装を考えた場合に，グレージングは必須の条件となる。

確かに鑑賞時には直接に作品を見ることのできないグレージングは，邪魔なもの，不要なもの，あってはならないものと考えられるかも知れない。しかし，低反射技術の進歩した今日にあっては，照明を工夫する事で気にならない，或いは気が付かない程度のグレージングは可能である。

この額装におけるグレージングについては賛否両論があり，既にブリヂストン美術館館内でも議論があった。石橋財団として所蔵作品の額装仕様についての基本方針を策定する必要があり，手始めに石橋財団が所蔵する額装されている油彩画に限定した状態調査を行った。調査は額装の状態，グレージングの有無および使用素材，画面の損傷に重点を置いた。

調査対象作品は448点で，結果として288点(64%)の作品に既に何らかのグレージングが施されていることが確認された。しかしながらグレージングされた作品中では低反射の処置のないグレージングが80%を越えた(表1)。日本洋画と外国洋画を比較するとグレージングの比率は外国洋画が若干高いものの大きな差とはなっていない。しかし，グレージングの低反射処置を比較すると，外国洋画が48%とほぼ半数であるのに対し(表2)，日本洋画は3%と非常に低くなる(表3)。これらが「光って見難い」というクレームの原因となっていると考えられた。

また，グレージングの有無と作品の損傷度の関係を調査した結果，グレージングのされていない作品に擦れ跡が多く観察され，グレージングの有無と作品の損傷に因果関係があると判断された。

全調査作品（448点）　　表1

グレージング無し		160		35.7%
グレージング有り		288		64.3%
	通常	235	81.6%	
	低反射	53	18.4%	

外国洋画調査作品（140点）　　表2

グレージング無し		44		31%
グレージング有り		96		69%
	アクリル板	35	37%	通常
	ガラス板	15	15%	52%
	低反射アクリル板	3	3%	
	低反射ポリカーボネイト板	3	3%	低反射
	低反射ガラス板	32	34%	48%
	低反射合せガラス板(ショット)	8	8%	

日本洋画調査作品（318点）　　表3

グレージング無し		116		36%
グレージング有り		192		64%
	アクリル板	90	47%	通常
	ガラス板	96	50%	97%
	低反射アクリル板	2	0%	低反射
	低反射ポリカーボネイト板	0	0%	3%
	低反射ガラス板	3	2%	
	低反射合せガラス板（ショット）	2	1%	

以上の調査結果をもとに，2002年4月30日ブリヂストン美術館，石橋美術館両館の管理職および石橋財団の理事，常務理事を含めた管理職によって「美術品の保存修復計画についての報告と検討会」を開き，石橋財団所有絵画作品の額装仕様についての基本方針を以下の通り策定した。

1. 原 則

石橋財団が所有する絵画作品の額装にはグレージングを行う。

2. 原則設定の理由

人々の社会生活は時代とともに変化し，今や美術館は特別な場ではなく日常の空間となっている。鑑賞を希望する人々に広く開放された場を提供することは，今後ますます美術館に求められるものと考えられる。その一方で社会環境の変化はテロリズムやヴァンダリズムといった健全なる社会生活を脅かす動きをも生み出した。

石橋財団は上述した社会環境の中で，社会公共の福祉と文化の向上発展のために尽す責務を負っている。そのことは，「世の人々の楽しみと幸福の為に」蒐集した国内外の絵画をより多くの人々に見ていただくことをもって文化の進歩の一助としたいという創設者石橋正二郎の意思を継承することにほかならない。

ところが作品の公開と保存は相矛盾する行為であり特に今日の社会状況は両者の差を広げ，従来の展示方法では対応不能と考えざるを得ない。

よって，額装にグレージングを行い作品の展示公開と保存の両立をはかることとする。

3. 補則

1) 当面グレージングには低反射処理をしたガラスを使用するが，鑑賞の妨げとならぬようグレージング材料は入手可能な最高の性能を持つものを常に調査研究する。
2) モザイク画やフレスコ画など，作品の鑑賞に質感が重視されるものは作品の保存状態に応じてグレージングを検討する。
3) グレージングを行うにあたっては，作品の運用計画や優先順位を考慮して，年度毎に計画書を作成し計画的にこれを行う。
4) グレージングを行なった作品の展示には結界を使用しない。

以上の基本方針に則り2002年度より，低反射ガラスを使用した額装の改善作業に着手した。

グレージングにはドイツショット社製の低反射合せガラス「ミロガードプロテクト」を選定した。このガラスは3層の低反射コーティング膜を施したミュージアムガラス2枚を，中央に合成樹脂フィルムを挟み込んで貼り合わせたもので，1780×1220mmの有効面積を持つ。

このガラスを額装のグレージングに使用した場合，主な問題点はこの寸法と重量にある。寸法の問題は一朝一夕には解決ができないが，重量の問題には額フレームを改造強化することによって対応が可能となった。仕様の開発には㈲並木木工所，㈲白根製作所，ショット日本㈱，㈱菱和建材以上4社の協力を受けた。主な作業は並木木工所が行ない，ステンレスフレームの製作を白根製作所に依頼した。ショット日本および菱和建材からは低反射ガラス

の供給を受け，2001年12月から準備を始めた。貸出し予定作品から順次作業を開始し，当面の仕様完成までにはほぼ二十数点の試作改善が必要であった(fig.1)。

また，この改善によってOZクリップと呼ばれている輸送用固定金具の使用が可能となった。これは額裏面に可動式の金具を取り付け，輸送時にはその金具で作品を内箱に固定し，梱包資材が直接額表面に接触しないようにするものである。使用の条件としては金具部分で作品を支える必要があるため，額全体の強度が必要とされる。今回の改善処置では額裏面全体にドロアシを取付けるので，この強度条件はクリアできる(fig.2-4)。しかし，市販されていたOZクリップには額への固定方法に問題があると考えられたので，タキヤ㈱に依頼してOZクリップの改良型を共同開発した。これはNTクリップという名称で販売が開始された。

今後の発展形態としては，このステンレスフレームとグレージングの固定方法を改善する事で，マイクロクライメートボックスへの応用を検討している。

これまでは油彩画の額装について述べてきたが，石橋財団には約1250点の紙を支持体とした版画や素描などの作品がある。これらの作品は大・中・小の三種類のブックマウントにされ保管されており，展示の際には汎用額で額装されている。油彩画の額装仕様を紙作品の汎用額に応用した場合，ステンレスフレームまでを統一することで縁部分は着脱が可能となる。これによって作品に応じて額縁のデザインを変えることも可能となる。

さらには今後このような汎用額の仕様を他館とも統一することが可能になった場合，作品はステンレスフレームに装着した状態で貸借を行ない，縁部分は美術館独自の展示に合せたデザインにする事も可能となろう。

（いしいとおる　石橋財団）

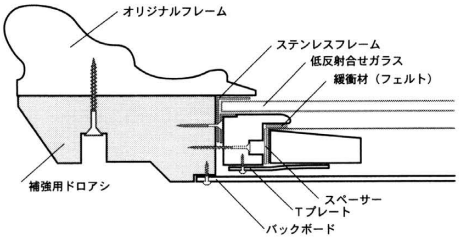


fig.1　改造後の額　断面図

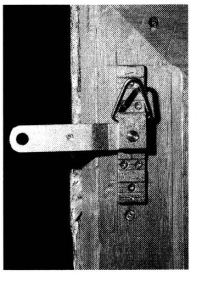


fig.3　輸送用にNTクリップを引き出した状態

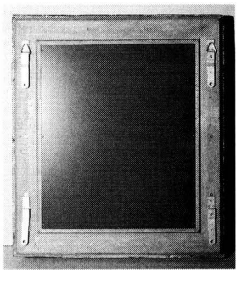


fig.2　NTクリップをつけた額　裏面

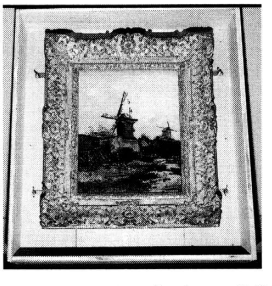


fig.4　NTクリップによって輸送箱に取り付けられた作品

額装改善作品リスト

外洋	5	レンブラント・ファン・レイン	聖書あるいは物語に取材した夜の情景
外洋	6	コロー，カミーユ	イタリアの女
外洋	11	クールベ，ギュスターヴ	石切り場の雪景色
外洋	25	シスレー，アルフレッド	森へ行く女たち
外洋	26	シスレー，アルフレッド	サン=マメス六月の朝
外洋	38	ゴーガン，ポール	乾草
外洋	51	ボナール，ピエール	灯下
外洋	59	マティス，アンリ	両腕をあげたオダリスク
外洋	62	マティス，アンリ	青い胴着の女
外洋	75	デュフィ，ラウル	ドーヴィルの突堤
外洋	77	ユトリロ，モーリス	サン=ドニ運河
外洋	101	ジョージ，トーマス	夜の映像
外洋	114	スーティン，カイム	大きな樹のある南仏風景
外洋	119	ミレー，ジャン=フランソワ	乳しぼりの女
外洋	123	デュフィ，ラウル	オーケストラ
外洋	133	シスレー，アルフレッド	レディーズ・コーヴ，ウェールズ
外洋	160	ピカソ，パブロ	腕を組んですわるサルタンバンク
外洋	168	ゴーガン，ポール	馬の頭部のある静物
外洋	169	ルノワール，ピエール=オーギュスト	すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢
外洋	170	クールベ，ギュスターヴ	雪の中を駆ける鹿
外洋	171	ドーミエ，オノレ	山中のドン・キホーテ
外洋	172	ブーダン，ウジェーヌ	トルーヴィル近郊の浜
外洋	178	ルドン，オディロン	神秘の語らい
外洋	180	モネ，クロード	アルジャントゥイユ
外洋	181	マルケ，アルベール	道行く人，ラ・フレット
外洋	186	ローランサン，マリー	女と犬
外洋	187	ミロ，ジョアン	抽象
外洋	188	フォートリエ，ジャン	人質の頭部
外洋	189	フォートリエ，ジャン	旋回する線
外洋	193	デュビュッフェ，ジャン	暴動
日洋	7	黒田清輝	針仕事
日洋	8	黒田清輝	ブレハの少女
日洋	11	藤島武二	天平の面影
日洋	26	藤島武二	黒扇
日洋	81	石川寅治	風景
日洋	87	青木繁	自画像
日洋	89	青木繁	闇威弥尼
日洋	90	青木繁	輪転
日洋	94	青木繁	海
日洋	95	青木繁	海の幸
日洋	97	青木繁	木立(森の暮色)
日洋	100	青木繁	海景(布良の海)
日洋	102	青木繁	光明皇后

日洋	104	青木繁	わだつみのいろこの宮
日洋	105	青木繁	月下滞船図
日洋	106	青木繁	春
日洋	107	青木繁	秋
日洋	137	小出楢重	帽子をかぶった自画像
日洋	141	中村彝	自画像
日洋	197	青木繁	大穴牟知命
日洋	205	岸田劉生	裸婦
日洋	228	岸田劉生	街道(銀座風景)
日洋	326	川上涼花	麦秋
日洋	328	川上涼花	桐と麦
日洋	399	長谷川路可	ポンペイ壁画《ミルラ》の模写
日洋	400	長谷川路可	ポンペイ壁画《パリフェ》の模写
日洋	401	長谷川路可	ポンペイ壁画《シルラ》の模写
日洋	402	長谷川路可	ポンペイ壁画《フェドラ》の模写
日洋	403	長谷川路可	ポンペイ壁画《男の顔》の模写
日洋	404	長谷川路可	ポンペイ壁画《カナチェ》の模写
日洋	405	長谷川路可	オスチア壁画《女の立像》の模写

作品貸出記録　ブリヂストン美術館

The Mystery of the Young Rembrandt
Staatliche Museen Kassel, Kassel, November 3, 2001－February 3, 2002
Museum het Rembrandthuis, Amsterdam, February 20－May 26

レンブラント・ファン・レイン《聖書あるいは物語に取材した夜の情景》(外洋5)

岩崎美術館常設展示　＊「藤島武二展」の借用作品の代替
岩崎美術館 / 2002年3月25日－8月9日

1) アンリ・マティス《縞ジャケット》(外洋57)
2) アンリ・マティス《両腕をあげたオダリスク》(外洋59)
3) アンリ・マティス《青い胴着の女》(外洋62)
4) モーリス・ドニ《バッカス祭》(外洋65)

大原美術館常設展示　＊「藤島武二展」の借用作品の代替
大原美術館 / 2002年3月28日－8月10日

小出楢重《帽子をかぶった自画像》(日洋137)

「美術館の夢」
兵庫県立美術館 / 2002年4月6日－6月30日

1) ポール・セザンヌ《帽子をかぶった自画像》(外洋31)
2) カミーユ・ピサロ《ブージヴァルのセーヌ河》(外洋19)

「山笑ふ—岳都からの美的好奇心」
松本市美術館 / 2002年4月21日－6月23日

岡鹿之助《雪の発電所》(日洋297)

「旅のシンフォニー—パウル・クレー展」
三重県立美術館 / 2002年6月29日－8月18日

パウル・クレー《島》(外洋202)

「黒田清輝展」
鹿児島市立美術館 / 2002年7月18日－9月1日

黒田清輝《ブレハの少女》(日洋8)

「川上涼花という画家がいた—萬鉄五郎, 岸田劉生, 川上涼花が向きあった自然 / 風景」
萬鉄五郎記念美術館 / 2002年7月25日－9月16日
茅ヶ崎市美術館 / 9月22日－10月27日

1) 川上涼花《麦秋》(日洋326)
2) 川上涼花《麦秋》(日洋327)　＊萬鉄五郎記念美術館
3) 川上涼花《桐と麦》(日洋328) ＊茅ヶ崎市美術館
4) 岸田劉生《裸婦》(日洋205)
5) 岸田劉生《街道(銀座風景)》(日洋228)
6) 中村彝《自画像》(日洋141)

「モネからセザンヌへ—印象派とその時代」
秋田県立近代美術館 / 2002年9月7日－10月6日

1) アンリ・ブテ《舗道にて》(外版306)
2) アンリ・ブテ《パリの街角, 夜》(外版307)
3) アンリ=パトリス・ディヨン《アトリエの情景》(外版308)
4) オーギュスト=ルイ・ルペール《モンターニュ=サント=ジュヌヴィエーヴ通り》(外版310)
5) オーギュスト=ルイ・ルペール《オーステルリッツ橋から望むセーヌ河》(外版311)
6) カミーユ・マルタン《『レスタンプ・オリジナル』第2年次の表紙》(外版164)

「印象派の故郷, ノルマンディー地方の風景」
浜松市美術館 / 2002年10月11日－11月10日
下関市立美術館 / 11月16日－12月25日

1) ジャン=フランソワ・ミレー《乳しぼりの女》(外洋119)
2) ラウル・デュフィ《ドーヴィルの突堤》(外洋123)

「クールベ展　狩人としての画家」
村内美術館 / 2002年11月1日－12月24日

ギュスターヴ・クールベ《雪の中を駆ける鹿》(外洋170)

作品貸出記録　石橋美術館

「黒田清輝展」
鹿児島市立美術館 / 2002年7月18日－9月1日

黒田清輝《針仕事》(日洋7)

「ナイーヴな絵画」展
福岡市美術館 / 2002年9月7日－10月14日

古賀春江《美しき博覧会》(日洋321)

「福岡築城400年記念 黒田家・その歴史と名宝」展
福岡市博物館 / 2002年9月13日－10月27日

《青磁銹斑文瓶(飛青磁)》(陶器233)

「石川寅治展」
高知県立美術館 / 2002年11月10日－12月25日

1) 石川寅治《農事忙》(日洋81)
2) 石川寅治《風景》(日洋412)

「青木繁と近代日本のロマンティシズム」展
東京国立近代美術館 / 2003年3月25日－5月11日

1) 青木繁《自画像》(日洋86)
2) 青木繁《自画像》(日洋87)
3) 青木繁《秋の夜》(日洋88)
4) 青木繁《闇威弥尼》(日洋89)
5) 青木繁《輪転》(日洋90)
6) 青木繁《春》(日洋92)
7) 青木繁《丘に立つ三人》(日洋93)
8) 青木繁《海》(日洋94)
9) 青木繁《海の幸》(日洋95)
10) 青木繁《木立(森の暮色)》(日洋97)
11) 青木繁《女の顔》(日洋98)
12) 青木繁《水浴》(日洋101)
13) 青木繁《光明皇后》(日洋102)
14) 青木繁《わだつみのいろこの宮》(日洋104)
15) 青木繁《月下滞船図》(日洋105)
16) 青木繁《春》(日洋106)

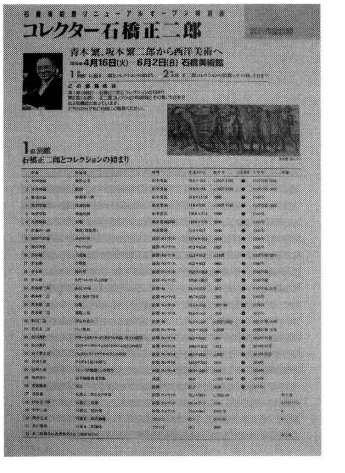
17) 青木繁《秋》(日洋107)
18) 青木繁《大穴牟知命》(日洋197)
19) 青木繁《狂女》(日洋381)
20) 青木繁《晩帰》(日洋497)
21) 青木繁《海》(日洋498)
22) 青木繁《伎楽面》(寄託)
23) 青木繁《伎楽面》(寄託)
24) 青木繁《伎楽面》(寄託)
25) 青木繁《麓より妙義山を望む》(寄託)
26) 青木繁《妙義山金洞第一石門》(寄託)
27) 青木繁《眼(二つ)》(寄託)
28) 青木繁《鶴代, たよ子宛書簡》(図書)

〈展覧会カタログ〉

「藤島武二展—ブリヂストン美術館開館50周年記念」(特別展)
Fujishima Takeji : Bridgestone Museum of Art fiftieth anniversary celebration

本文:
藤島武二展—ブリヂストン美術館開館50周年記念—の開催に当たって / 富山秀男 (p.10-13)
章・作品解説 / 植野健造, 貝塚 健, 中田裕子
1. 白馬会と明治浪漫主義
2. 西洋との出会い:パリからローマへ
3. 帰国後の模索:自然主義から表現主義まで
4. アジアへのまなざし:朝鮮, 台湾, 中国
5. 女性の横顔:西洋と東洋の交わり
6. 風景への挑戦:大洗, 大王岬, 淡路島, 屋島
7. 集大成へ:「日の出」と「耕到天」
8. アトリエ:創造の現場
藤島武二小論 / 植野健造 (p.238-241)
藤島武二の装飾画 / 中田裕子 (p.242-245)
風景画家の誕生と成熟:藤島武二の晩年 / 貝塚 健 (p.246-249)
藤島武二文献目録 (中村節子, 後藤純子編)
藤島武二年譜 (植野健造補)
図版 (カラー798図, モノクロ15図, 参考28図, 作家の肖像1図)
編集:貝塚 健, 中田裕子(石橋財団ブリヂストン美術館), 植野健造(石橋財団石橋美術館)
表紙デザイン:上條喬久
制作:エディタス
発行:石橋財団ブリヂストン美術館, 石橋財団石橋美術館, 日本経済新聞社(2002年)
28×22.5cm　297p

「石橋美術館リニューアルオープン特別展 コレクター石橋正二郎」(特別展)

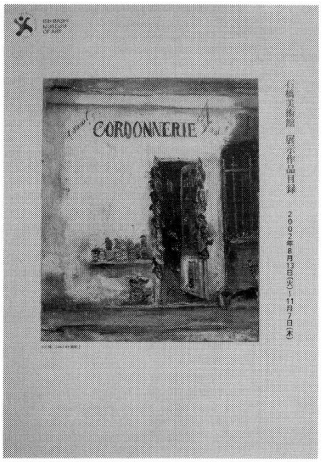


展示作品目録
1部 別館 石橋正二郎とコレクションの始まり
2部 本館 正二郎コレクションの展開とその後, 今日まで
図版(モノクロ1図)
編集・発行:石橋財団石橋美術館
30×21cm　4p
＊カタログについては館報50号(2001年度)に記載。

「石橋コレクションの名作　西洋絵画・日本洋画・オリエントのガラス」(コーナー展示)

展示作品目録
絵画(展示室A)
彫刻(ロビー)
オリエントのガラス(展示室B)
図版(モノクロ3図)
編集・発行：石橋財団石橋美術館
30×21cm　リーフレット

「石橋美術館展示作品目録」(コーナー展示)

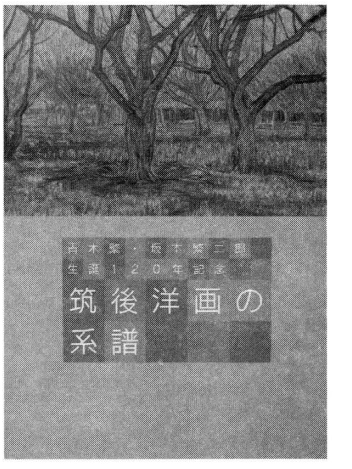


展示作品目録
常設展示　日本近代洋画
コーナー展示　水の表情
コーナー展示　ブリヂストン美術館の名作
図版(モノクロ5図)
編集・発行：石橋財団石橋美術館
30×21cm　4p

「芳中・其一・孤邨—江戸時代後期の琳派」(特集展示)
Hochu, Kiitsu, Koson : Rinpa in the second half of Edo period

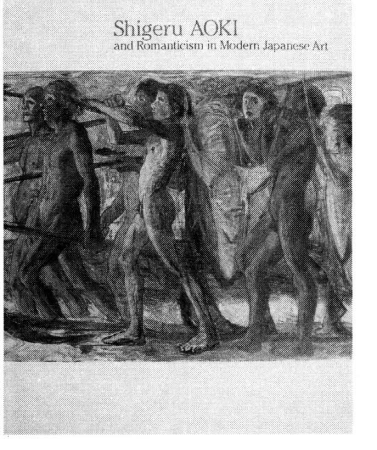
本文：
展覧会ガイド / 平間理香 (p.49-69)
出品作品目録(平間理香編)
主要参考文献(平間理香編)
芳中・其一・孤邨略年譜
図版(カラー23図, モノクロ8図)
編集・執筆：平間理香(石橋美術館学芸課)
発行：石橋財団石橋美術館(2002年9月)
デザイン：エムツー
26×18.5cm　79p

「青木繁·坂本繁二郎生誕120年記念　筑後洋画の系譜」(特別展)
Western-style painters of the Chikugo school : an exhibition commemorating the 120th anniversary of the births of Aoki Shigeru and Sakamoto Hanjiro



本文：
序論　筑後洋画の系譜 / 植野健造 (p.8-15)
筑後における美術団体の系譜 / 田内正宏 (p.16-23)
筑後美術散歩(森山秀子編)
筑後洋画関連年表(森山秀子編)
来目会関連資料
文献目録(後藤純子編)
出品一覧
図版(作品カラー149図, 資料32図)
編集：石橋美術館学芸課(植野健造, 森山秀子)
デザイン：大宝拓雄デザイン事務所
制作：瞬報社写真印刷
発行：石橋財団石橋美術館(2002年11月)
26×19cm　216p

「青木繁と近代日本のロマンティシズム」(特別展)
Shigeru Aoki and Romanticism in modern Japanese art



本文：
近代日本美術における「感情」について / 市川政憲 (p.11-24)
青木繁の芸術—その評価の軌跡 / 植野健造 (p.25-30)
作家解説 (出品作家生没一覧表含む)
青木繁関連年表 (植野健造, 市川政憲, 水谷長志編)
青木繁主要文献目録 (森山秀子編)
出品作品リスト
図版 (作品カラー145図, 本文挿図モノクロ10図)
編集：東京国立近代美術館 (市川政憲, 尾崎正明, 蔵屋美香, 水谷長志, 荒木 和), 石橋美術館 (植野健造, 森山秀子), 日本経済新聞社文化事業部
デザイン：桑畑吉伸
制作：コギト
発行：日本経済新聞社 (2003年)
24.5×20cm　229p

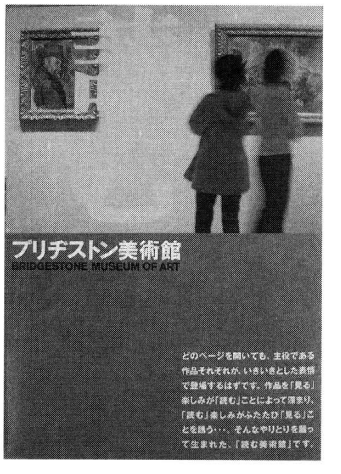
〈常設展示カタログ〉

「2002年度石橋美術館別館常設展示作品目録」

出品目録
1期　近世の美術
2期　所蔵名作選
3期　近代の美術
図版（モノクロ3図）
発行：石橋財団石橋美術館（2002年8月）
21×10cm　8p

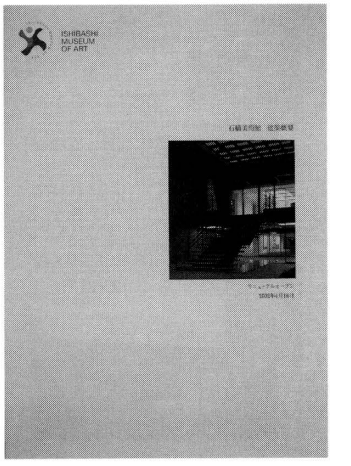
〈その他の刊行物〉

「読むブリヂストン美術館」第2版



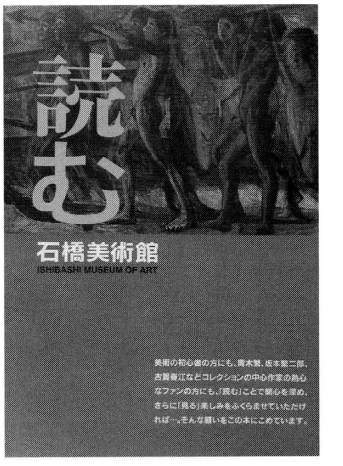
本文：
ブリヂストン美術館への招待 / 宮崎克己 (p.4-7)
古代オリエントとギリシア・ローマ / 中村るい (p.10-22)
19世紀以前の美術 / 矢野陽子 (p.24-32)
近代絵画の出発 / 宮崎克己 (p.34-78)
20世紀美術の広がり / 坂本恭子 (p.80-83, 103-105, 120-129),
福満葉子 (p.84-99, 106-115, 119),
塚田美香子 (p.100-102, 116-119)
近現代の彫刻 / 福満葉子 (p.132-141), 坂本恭子 (p.142-149)
「版画」という表現 / 福満葉子 (p.152-161)
日本の近代洋画 / 貝塚 健 (p.164-206)
〈コラム〉X線でみた《吟遊詩人》, ブリヂストン美術館の地震対策 /
田中千秋 (p.130, 150)
画家と挿絵本 / 中村節子 (p.162)
作家解説 / 坂本恭子, 塚田美香子, 中田裕子, 矢野陽子 (p.208-228)
図版（カラー192図, 参考97図）
編集：石橋財団ブリヂストン美術館
デザイン：浅井 潔
制作：アイメックス・ファインアート
発行：石橋財団ブリヂストン美術館（2003年2月）
25×17.5cm　228p　ISBN4-901528-01-7

「石橋美術館　建築概要」



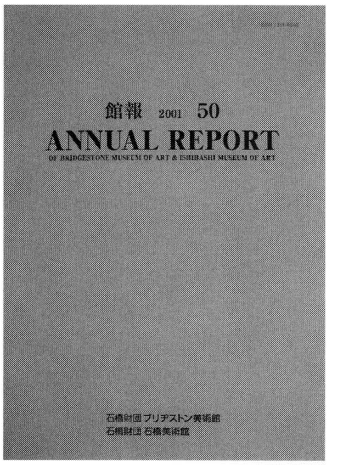
石橋美術館改修工事概要
2階
1階ギャラリー
別館
建築概要
発行：石橋財団石橋美術館（2002年3月）
30×21cm　8p

「読む石橋美術館」



石橋美術館と石橋コレクション / 植野健造 (p.4-8)
1. 明治の洋画 / 植野健造 (p.10-15, 22-23)
　　森山秀子 (p.16-21)
2. 藤島武二 / 植野健造 (p.26-37)
3. 青木繁 / 植野健造 (p.40-51, 53-55)
4. 大正から昭和初期の洋画 / 森山秀子 (p.58-78)
5. 坂本繁二郎 / 植野健造 (p.80-93)
6. 古賀春江 / 森山秀子 (p.96-105)
7. 昭和の洋画 / 植野健造 (p.108-114, 118-122)
　　森山秀子 (p.115-117)
8. 東洋の美術 / 平間理香 (p.124-142)
〈コラム〉明治期の留学 / 植野健造 (p.24)
　　藤島武二《唐様三部作》の修復 / 森山秀子 (p.38)
　　青木繁と詩人たちとの交流 / 後藤純子 (p.52)
　　けしけし山の青木繁歌碑 / 植野健造 (p.56)
　　坂本繁二郎の旧アトリエ / 植野健造 (p.94)
　　古賀春江と商業美術 / 森山秀子 (p.106)
作家解説 / 植野健造, 森山秀子, 平間理香 (p.143-155)
展覧会の記録
図版（カラー139図, 参考39図）
編集：石橋美術館学芸課（植野健造, 森山秀子）
デザイン：大宝拓雄デザイン事務所
制作：瞬報社写真印刷
発行：石橋財団石橋美術館（2002年4月）
24.5×17.5cm　162p　ISBN4-901834-00-2

「館報」50号（2001年）
Annual report of Bridgestone Museum of Art & Ishibashi Museum of Art



内容：
設立趣旨, 機構・運営
展覧会（特別展示, 特集展示, コーナー展示）
教育普及（講座, 解説, ファミリープログラム, インターンシップ, 実習生受入など）
入場者数（2001年度）
新収蔵作品（104作品, 4資料）
新収図書
修復記録
　エジプト《彩色木棺》/ 小林嘉樹（p.67-68）
　ヘンリー・ムア《横たわる人体のための習作》/ 坂本雅美（p.69-71）
　雪舟《四季山水図》/ 水谷好夫（p.72-76）
　宗達派《保元平治物語絵》6面(扇面）/ 冨永憲太郎（p.77-81）
作品貸出記録
刊行物一覧
改修工事
　石橋美術館 / 田内正宏（p.91-93）
　ブリヂストン美術館 / 貝塚 健（p.94）
美術館案内
石橋財団職員
編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館, 石橋財団石橋美術館（2002年10月）
制作：瞬報社写真印刷
26×18cm　97p　ISSN1341-8548

改修工事(ブリヂストン美術館)

ブリヂストン美術館は, 2002年6月3日から翌2003年1月10日まで, 休館して改修工事を行った。その目的, 経緯, 改善された点についてその概要を以下にまとめる。

1. 工事の概要

1995年1月に発生した阪神淡路大震災は, 被災地域の美術館にも大きな影響をもたらし, 国内外の関係者の注目を集めた。当館の学芸スタッフも被災地への救援活動, 被害調査活動に参加し, その間に得られた知見をもとにして, 95年2月から展示作品, 収蔵作品に関する地震対策を開始し, 98年度をもって一応の完成をみている(詳細は, 『館報47号』1998年度版, p.102-113 を参照)。

しかし, 1952年に竣工, 59年に増築したのち, 構造体を補強するための工事がなされていないブリヂストンビルの強度について, 阪神淡路大震災後に清水建設が行った耐震診断結果は, 過去最大級の震動に対する危険性を示唆するものであった。当館は来館者・職員と収蔵展示作品の安全を重視し, 診断結果が出された直後から, ビル所有者である株式会社永坂産業に対し耐震工事を実施するよう申し入れを行ってきた。当館とともに同ビルを使用する株式会社ブリヂストンなど, 関係諸機関との間で調整を進めた永坂産業は, 2001年6月, 耐震工事を翌年度に実施する意向を固めた。当館は2002年1月から6月までに開館50周年記念展覧会を開催することから, 当館部分の工期を同年7月からにしたいという希望を伝え, 調整の結果, 6月上旬から休館する日程の中で実施されることとなった。その工事の基本的な内容は, ビルの耐震構造計算に基づいてビル全体の震動に対する強度を高めるために, 地下2階から9階までの各階の必要箇所に, 複数種類の工法を施すものであった。

この間, 休館してほぼすべての収蔵作品を館外に退避させる必要が生じるために, あわせて, 従来より懸案とされていた美術館施設の拡充を図ることを当館はもくろんだ。作品収蔵施設の改良, 展示設備の改善, 来館者サービス施設の拡充がその主眼である。特に2階収蔵庫は, 空調システムや作品収納システムを含む根本的な改修を行うことを計画した。

また, 期を同じくして2002年5月, ビル1階を使用していた三井住友銀行八重洲通支店が, 同年8月末日に閉店することが明らかになった。その空いたスペースのうち, 227.2㎡を当館が借用・使用することになり, ただちに検討した結果, そのスペースを利用して, ティールームおよびその付帯設備の新設, ロッカーおよびトイレの拡張, ホール控え室の新設, 作品搬出入口および荷解倉庫の新設を行うこととした。

これらの改修工事は, 1999年のリニューアル工事と同じく, 高市都市設計デザイン(代表=高市忠夫氏)に設計デザインと施工監理を, 清水建設に施工を依頼することとした。2002年2月14日に予算委員会で休館日程が承認された後, 3月5日, 全体日程を設定。4月から5月にかけて, 清水建設がアンモニア測定検査を実施。6月3日から休館に入った後, 作品を退避。6月24日から収蔵庫のアスベスト除去作業を実施。7月2日に最終的な図面を完成。10月31日, 2階展示室の工事完了。11月4日, 2階収蔵庫の工事完了。11月5日, 3階事務所の工事完了。12月9日より, 退避していた作品の搬入を開始。12月17日施主検査が完了。12月27日, 1階の工事が完了し, 清水建設より引き渡し。翌03年1月11日, リオープンした。

2. 耐震工事

2.1. 工事工法の調査確認

2.1.1. 耐震工事の目的および目標

ビルの耐震性能を向上させる工事であり, 強過ぎる部分の強度を抑え, 弱い部分を補強し建物全体のバランスを取りつつ全体の強度を上げ, 震度7の揺れに対してもビルの倒壊を防ぐ。

2.1.2. 工事工法

a) 構造材としての躯体壁をスリットにより柱部分から切り離す。
b) 柱にカーボン繊維を巻きエポキシ樹脂で固着させ, 柱の圧屈強度を向上させる。
c) 柱と梁で構成される空間に鋼鉄製ブレースを入れ, 耐震強度を向上させる。
d) 梁にカーボン繊維を巻き剪断強度を向上させる。
e) 鉄筋コンクリート壁をあらたに打設し躯体壁を増設する。

2.2. 耐震工事の美術館活動への影響

2.2.1. 工事によって発生する問題

騒音, 粉塵, アルカリ成分の発生, 空調の停止が想定された。

2.2.2. 問題点への対応

a) 展示作品および収蔵作品の退避

寄託作品, 重要作品, 状態が不安定な作品および紙を支持体とする環境変化に敏感な作品は, 永坂分室収蔵庫に移動保管。その他の作品は三井トランクルームに移動保管することとした。

b) 竣工時期およびリオープン時期の調整

耐震工事はビル全体に及ぶので, 美術館スペースの工事終了後も工事による騒音や有害物質が発生する。よって休館を年内いっぱいとし, 騒音対策を行ない, 工事に使用されるモルタルによって発生するアルカリ成分濃度が東京文化財研究所の推奨する30ppb以下になるまで美術品を搬入しない。

c) 使用モルタルによるアルカリ成分への対策

清水建設の新開発技術による焼成砂を使用したコンクリートおよびプレミックスセメントを使用し, アルカリ成分の発生を低減させた。コンクリート打設面には金属フィルムを接着し, バッファーとする。ケミカルフィルターを使用した空調を行ない, アルカリ成分を除去する。

2.3. アルカリ成分の調査測定方法の改善

以前より石井が検討課題としていた打設コンクリートと測定地点との距離によるアルカリ成分濃度の偏移について清水建設技術研究所に共同調査研究を依頼した。調査の結果, 展示室中央部が19ppb以下の濃度であっても, 打設部直近では68.7ppbとかなりの高濃度であることが確認された。これは絵画等の平面作品を壁面に展示する上では容認できない濃度であり, 展示中は作品によって壁面が弱くシールドされるのでより高濃度となると考えられる。よって環境調査はコンクリート打設壁面直近のエアーによってアンモニア濃度を測定し, 30ppb以下の環境になるまでケミカルフィルターを使用した空調を行なった。2002年12月3日の調査で, アンモニア濃度が展示室中央部7.4ppb, 壁面24.6ppbという結果を得て, 美術品の搬入作業が可能と判断した。

3. 収蔵庫の改修

3.1. アスベストの除去

断熱材として天井, 梁, 壁にアスベストが貼ってあった。1999年の改修工事でもこのアスベストの除去は検討されたが, 除去せずに固着させる方法がとられた。今回の耐震工事による休館に伴い, 厳密な環境管理の下, この有害物質を除去した。

3.2. 絵画ラックの容積増加

アスベストを除去することで天井および梁が露出し, 絵画ラックを梁にアンカーボルトによって直接設置することが可能となった。これまでの柱による支持方法に比べラック高が増加し, 収容能力が50%増加することが確認された。しかしながら, 既存のラックは1999年のリニューアル時に新設されたものであり, 資源保護の見地からも全てを新調することには抵抗があり, ラック製作業者と直接に交渉を行い, できる限り現状のラック部品を再利用することとした。同時に絵画ラックの方向を変更したことによって, 収蔵庫扉も広く取れるようになり, 搬出入作業の効率化をもたらした。

3.3. 収蔵庫内作業スペースの確保

絵画ラックを天井梁の間に設置することで, これまでの奥行方向に対して直行していたラック面を90度転向させた。これに伴い庫内面積の約1/3を作業スペースとして使用することが可能となった。

3.4. 照明設備の改善による照度増加

これまで, 美術品は暗所で保管することが望ましいという理由で, 収蔵庫の照明器具は減らす傾向にあった。しかしながら収蔵作品調査などの庫内作業を行う際には, 事故防止の観点からも展示室以上の充分な照度が必要である。照明器具を増設し作業スペース机上面で1000lxの照度を確保した。

3.5. 空調設備の改善

収蔵庫内に照明器具を増設したこともあって, 照明器具からの発熱により作業中の庫内では空調環境の悪化が想定された。作業中の吸気用に3300㎥ / h, 通常の換気用に1000㎥ / hの換気ファン2機を新設して対応した。また, これまで収蔵庫には外壁との間にドライエリアが設けられていたが, この内壁を調湿ボードに変更した。またドライエリア内に展示室からのリターンエアを巡回させ, 入れ子構造による庫内空調環境の安定化を図った。また, 収蔵庫扉の交換に伴い, 木製の内扉を新設し二重扉とした。

4. 展示設備の改善

4.1. ライティングレールの増設

2階の第1室, 2室, および3室にライティングレールを増設した。これにより, 企画展示室である1, 2室において, 展示室中央部分に床置き展示ケースを置いた場合の照明が容易になり, 展示プランの選択肢が広がった。また, 3室の増設箇所では, 同時に消火栓の手直しもなされ, これまで展示できなかった壁面の使用が可能になった。そのため, あらたに専用展示ケースを設置し, 1999年以降永坂分室に展示していた《彩色木棺》を移して常設展示の一部とした。

4.2. ピクチャーレールの増設

第2室の中央に垂下する梁の根本にピクチャーレールを増設した。このことにより, 梁下にあわせて仮設壁を設置した場合, ワイヤーを用いて作品を展示することが可能になったため, 重量の大きな作品の展示もできるようになった。

4.3. 彫刻用スポットライトの増設

彫刻ギャラリーⅠ, 同Ⅱ, 第4室, 6室, 8室の常設展示の彫刻作品を照明する, 調光可能なスポットライトを合計22灯新設した。これにより, これまで照明が不十分で細部までは難しかった彫刻作品の鑑賞が容易になった。

5. バックヤードの新設

5.1. 美術品専用の搬出入経路の確保

美術館の出入口は八重洲通に面した正面玄関のみであり, 美術品の搬出入に使用する独立した出入口の確保は懸案事項であったが, 建物の性格上なかなか実現できなかった。しかし, 1階の増床に伴い, 裏通りに面した出入口を美術館施設として利用することが可能となった。それによって, これまで八重洲通から歩道を越えて, 歩行者や自転車の通行と交錯していた搬出入経路が改善された。

5.2. 展示用具およびクレートの保管場所の確保

専用搬出入口には荷解きスペースと, それに続く倉庫スペースが付設された。美術館では展示ケースや看板などの展示用具や, 作品の移動時に使用されるクレートの保管場所が必要である。さらにクレートの保管には, できる限り展示室と同等の温湿度環境が必要である。独立した空調設備を設置し, 必要時の24時間空調を確保した。

5.3. 外乱による空調環境の悪化防止

美術館裏側に開口部が新設された事に伴う空調環境の悪化が懸念された。バックヤード天井および外壁には発泡ウレタンによる断熱を施し, 鉄扉内にも断熱材を入れ外乱を防止した。

5.4. ホイストの新設

1階に美術品専用の搬出入口を新設したが, 展示室までの搬出入経路は人員用エレベーターと階段のみであり, 大型作品の移動には適していなかった。美術品専用エレベーターの新設を検討したが, スペースが取れなかったために断念せざるを得ず, コンパクトな昇降設備としてホイストを導入する事とした。しかしながら昇降設備の新設には2階床に穴を開ける必要があり, ビルの耐震性能が低下する懸念があった。そのため耐震工事を担当する清水建設と入念に検討し, 2階1室倉庫の床を抜き1階ティールーム通路と連結させることとした。通路には地下への階段スペースが一部突出していたので, この階段を改修する必要があった。また, 1室倉庫天井には空調設備の一部があり, 作業空間を確保するためにこの設備の「盛り替え」を行った。同時に倉庫扉を展示壁面を確保すると同時に大開口部を持つものに変更した。

6. ティールーム「ジョルジェット」の新設

6.1. ティールーム設置の目的

かねてより当館では不定期に来館者アンケートを行ってきた(現在は, ISO9001に基づく「顧客満足度調査」により定期的に実施)。それらの要望調査のなかでつねに上位に上がるものが, カフェテリア等飲食施設の設置であった。作品観賞後に, その余韻が大きなうちに心身を休めながら, 鑑賞したばかりの作品を思い起こしたり, あるいは次の活動へ向けたリフレッシュをしたい, といった要望が少なくなかった。限られた美術館施設の面積では, 作品展示とそれを支える最小限の施設を優先せざるをえず, その必要性を認めながらも飲食施設の設置に当館は踏み切れないでいた。今回の増床の機会を得て, 当館は来館者の大きな要望の一つに応えるべく飲食施設の設置を決定した。

6.2. ティールームの概要

当館周辺には飲食店が多いことから, 既存店とのコンセプト, メニュー, 価格帯の差別化を重点にし

つつ，美術館内施設にふさわしい存在感を個性的に打ち出すことを模索した。同時に，2階の展示室の温湿度等の作品展示環境，食物の臭気などの来館者鑑賞環境に影響を与えないよう検討した。その結果，作品保全などには十分に留意しながらも，展示室との違和感のない室内空間，かつ，大きなウィンドーを通じて屋外とつながる開放感を重視し，紅茶および，火を用いない軽食が中心メニューのティールームとすることにした。さらに美術館施設の一部である性格を明瞭にするため，壁面とウィンドー内に所蔵作品を展示することとした。

店名は，館員全員の協議により，当館コレクションを代表するルノワール作品のモデルの名からとった。運営形態は様々な可能性を検討したが，館員（正職員と契約職員）による運営とし，効率や採算性を考えながらも，職員の一体感をベースにおいた手作り経営の良さ，サービスのきめ細やかさを追求することにした。

6.3. 作品展示空間としてのティールーム

ティールームの新設が決定した時点から美術品の展示が計画された。ティールームは外光が入る明るい室内として設計されており，また飲食物や調理時に発生する蒸気など，美術品展示環境としては望ましくないものである。いきおい展示作品には影響を受けにくい作品を選定する必要があり，長谷川路可のストラッポされたフレスコ画のシリーズを第一候補とした。美術品の展示壁面には凹みを作り，作品はこの凹みの中に展示し作品の額も含めて低反射ペアガラス（厚さ6mm）によるグレージングを施した。

7. その他の来館者アメニティーの改善

7.1. トイレの改修

1階増床部分を活用して，女子用トイレを6個から12個に，男子用を6個から8個に増設し，また身障者トイレもあわせて拡張した。新たに2階トイレも含めて自動洗面台を導入し，来館者に喜ばれる，より簡便な設備になった。

7.2. ロッカーの増設

同様に1階増床部分を使って，ロッカーを従来の25個から48個に増設した。大きさの異なる3種類のロッカーを用意し，これによって大規模特別展以外は既設ロッカーのみでほぼ対応できるようになった。

7.3. ホール控え室の新設

1階ホール操作室の隣に，ホールで行われる講演・シンポジウム等の講師控え室を新設した。従来は3階の館長室がその役割を果たしていたため，展示室を通って3階まであがらなければならなかった講師への接遇が大きく向上した。あわせてこの控え室には，簡易ベッドと水回りを取り付け，来館者の急な体調不良時に，一時的な休憩室として使用できるように配慮した。

7.4. その他の改善

その他に，2階彫刻ギャラリーⅠ（エレベーターホール）とエントランスホール吹き抜けとを画するガラス面へ飛散防止フィルムを貼付した。また，視認性向上のための館内サインの再設置（拡大したサインの導入）などを実施した。

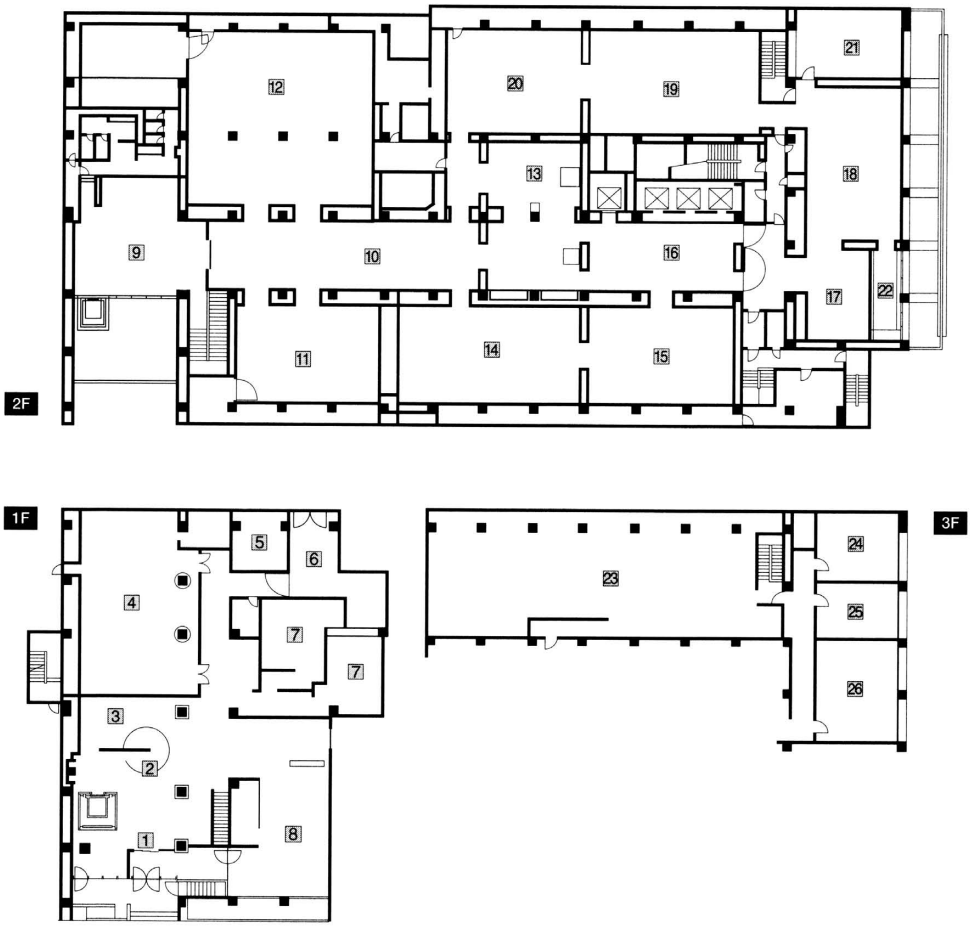
8. まとめと資料

繰り返しになるが，このたびの改修工事は，ビル全体の耐震性向上のための工事に伴って，来館者サービスの向上，展示収蔵施設の機能向上をめざしたものであった。限られた期間の，限定的な工事ではあったが，これまでの当館の，来館者への「もてなし」をより充実させることにつながったのではないかと確信している。開館51年を迎えたばかりの2003年1月11日，所蔵作品ばかりの展示（一部寄託作品を含む）でリオープンを迎えた（その展示の概要は，p.12-17を参照）。これを機に，当館は開館時間と料金体系を改訂し（p.110を参照），ハードのみならずソフトの「もてなし」の充実も図っている。

最後に，以下に施設概要図と，面積が変わった主要な施設のみ付記しておく。

	旧	新
ショップ	30m²	50m²
1階トイレ	37m²	57m²
ホール控え室	—	18m²
荷解き倉庫	—	45m²
ティールーム	—	66m²
総面積	2,924m²	3,151m²

（石井亨，貝塚健，黒田昌弘）



1 エントランス・ホール
2 受付
3 ミュージアム・ショップ
4 ホール
5 ホール控え室
6 バックヤード
7 トイレ
8 ティールーム
9 彫刻ギャラリーI
10 彫刻ギャラリーII
11 第1室
12 第2室
13 第3室
14 第4室
15 第5室
16 第6室
17 第7室
18 第8室
19 第9室
20 第10室
21 石橋正二郎記念室
22 情報コーナー
23 事務室, 図書室
24 館長室
25 会議室
26 会議室

ISO9001：2000　品質マネジメントシステム認証取得（ブリヂストン美術館）

1. 認証取得の発端

ブリヂストン美術館は私立の美術館としては国内でも早い，戦後まもない時期に設立され，運営全般にわたって他の美術館に少なからぬ影響を与えてきた。しかしバブルの崩壊後，美術館界の状況は一変し，国立では独立行政法人化など組織運営の変革をドラスティックに行い見直しを図る動きがあり，私立の美術館でも安定した運営を続けることの困難から閉館を予定，または閉館したところが相次いでいる。

この環境変化の中で健全に運営を図るためには，経営管理の概念を導入して，高品質の製品（展覧会）を提供しながら，同時に組織の効率化と合理化を推進することが必須であり，ムリ，ムダ，ムラを全プロセスから払拭する必要に迫られている。綿々と実行してきた旧来の美術館運営の諸策に対して，客観的な視点から見直しと改善が迫られる状況に至っており，ブリヂストン美術館も例外ではない。

ブリヂストン美術館は2002年1月に開館50周年を迎え，この機に組織の運営方法をレビューして，将来に向かってより強固な体質を再構築するという方針を打ち出した。方針の実行と目標の実現にあたって，経営管理の手法を組織運営に導入することに異論はなかった。丁度，品質管理の国際規格「ISO9001：2000 品質マネジメントシステム」が2000年12月に従来の製造業中心からサービス業へも適用範囲を拡大し，マネジメントに力点が置かれた規格改訂が実施された。この規格はサービス業において既に実績を重ねていたので，この考え方を美術館に取り込み，運営方法の改善を実行することが最善の策と判断された。

2. ISO9001：2000品質マネジメントシステムの導入

品質マネジメントシステムの構築を図るため，約半年間の調査・研究期間を経て2002年4月にキックオフ会議を開催した。この会議でマネジメントシステムの導入を正式に確認し，認証取得の目標時期を一年後の2003年4月とした。

美術館では国内初（調査の範囲で世界初）のISO認証取得への取り組みであり，前例となる既認証組織が見当たらないため，外部機関であるKPMG（日本国際規格コンサルティング）に教育訓練とコンサルティングを依頼した。

3. 品質方針と適用範囲

美術館が担う社会的役割の全てを網羅的に対象とするには広範かつ項目が膨大なため，将来的にはISO適用拡大を視野に入れながらも対象範囲を絞り込むことにした。第一段階として，システム構築の対象をISOが指向する「顧客（来館者）重視」の原則に直結する「作品の展示＝展覧会の開催」の関連業務とした。

展覧会の開催に関してISOが設定を求める組織の品質方針を下記とした。

「充実した展示で文化に貢献」
「お客様へのおもてなしの徹底」

品質方針を受けて，学芸課と事務部は定量的に成果が評価できる形の品質目標を設定し，具体的な活動を開始した。活動と検証を繰り返しながら，明確に規定されてない事項については規定および業務手順書を新規に作成した。

ISOが規定する規格の用語はその成立した背景から製造業従事者には理解が容易である。しかし美術館に適用するにあたって馴染みにくい部分があったので，特殊な用語は以下のように定義した。

製品：展覧会の開催そのもの。及び顧客の期待感と顧客が受ける文化的インパクト
設計開発：展覧会の企画および立案

4. 規定・業務手順書の整備

手順やルールが不足していたり，はっきりしない部分を明らかにする必要があった。そこで展覧会の開催に関わる業務をリストアップして個別に業務分析を行い，新たに13種の規定と44種の業務手順書（別表1，2参照）を作成し，付随して32種の帳票を整備した。業務手順書は各担当者が自己の業務を文書化して作成した。

これらの文書を管理された状態に保つために，「文書管理規定」及び「記録管理規定」を制定した。規定や業務手順書を整備することによって情報の共有化と共に，属人的な部分での標準化が進み，ばらつきがなくなり，現状を把握しやすくなり，無駄が見えやすくなることが期待された。

5. ISO9001：2000の原則と美術館の取り組み

・顧客重視

ISOは製品に対する現在および将来の顧客ニーズを理解し，顧客要求事項を満たし，顧客の期待を超える努力を求めている。個人の能力・認識向上の仕組み，顧客とのコミュニケーションが重要なので，業務を整理して仕組みを標準化した。

顧客ニーズを検証するために，設計開発のプロセスを「展覧会企画管理規定」に定め，製品実現と運用にあたっては「展覧会実施規定」を制定した。併行して定期的な顧客満足度調査を制度化した。

・リーダーシップ

美術館組織内の目的・方向・レベルを一致させ，内部環境作りを図る。このために館長は組織の「経営者」の立場で強力なリーダーシップを発揮する。

定期的に成果を評価し品質方針の適合性を見直すために，館長をリーダーとするマネジメントレビューを制度化した。

・人々の参画

組織の全ての階層の人々が参画することが目標達成に不可欠である。意思の疎通と情報の共有化を図るため，関連会議を定例化した。

提供するサービスの品質は人によるところが大きいため，スキルや能力に加え，意識が問題となってくる。個人の能力を積極的に顕在化させ，力量の向上を図るため，適切な教育訓練を実施して補う。このために「教育・訓練実施規定」を制定した。

6. 認証取得までの主な経過

ISO9001：2000認証取得までの主な経過を記しておく。

2001年 8月－12月　：ISO調査研究
2002年 4月30日　　：ISOキックオフ会議開催
2002年 5月－12月　：職員の教育訓練および文書化作業
2002年11月－12月　：内部監査員資格取得(3名)
2003年 1月31日　　：予備審査終了
2003年 3月 3日　　：文書審査終了
2003年 4月 2日　　：登録審査終了
2003年 4月17日　　：認証取得（2003年 4月 2日付）

7. おわりに

今回の取り組みは，組織運営の効率化と合理化を図り，環境の変化に対して対応力を強化するため「ISOの考え方を利用する」というスタンスで捉え実施してきた。

今後ISO9001：2000の実績を重ねて行けば，一般的には以下の様なメリットが期待できる。

・美術館の信用力が高まる
・職員のモラール高揚，意識の改革が図れる
・顧客満足を実現
・業務が標準化される（ばらつきや無駄の排除）
・人材の育成が容易

日本の美術館に初めて導入された「品質マネジメントシステム」が実効を生むかどうかは，継続的改善，即ちPDCA（Plan Do Check Act）のサイクルが常に回転しているかどうかにかかっている。美術館では提供する前に評価をくだして，顧客を満足させる製品（展覧会）だけを提供することは難しい。同じ製品に対する顧客の要求は必ずしも同一ではなく，明確に規定された要求事項を見つけることは難しいが，プロセスの善し悪しや問題がどこにあるかを検証して，問題があれば改善して行く姿勢が最終的に顧客満足につながる。PDCAを回転させる原動力は，全職員の意識の持ち方にほかならない。

（黒田昌弘）

表1：ブリヂストン美術館　規定一覧

文書番号	文書名
BMA QK-001	マネジメントレビュー規定
BMA QK-002	品質方針管理規定
BMA QK-003	文書管理規定
BMA QK-004	記録管理規定
BMA QK-005	展覧会企画管理規定
BMA QK-006	教育・訓練実施規定
BMA QK-007	顧客満足度調査・分析規定
BMA QK-008	内部監査実施規定
BMA QK-009	プロセス監視・分析規定
BMA QK-012	展覧会実施規定
BMA QK-014	購買業務管理規定
BMA QK-015	是正処置・予防処置規定
BMA QK-017	不適合製品管理規定

表2：ブリヂストン美術館　業務手順書一覧

業務手順書（中分類 No.）		対象項目（小分類）
業務手順書(01)		総目次
		一般
		業務手順書の起案～発行
品質方針(05)		品質方針展開フロー
展覧会開催関連	作品出品交渉(11)	出品交渉
	文献・資料 収集/ 整理/ 貸出(12)	文献資料入手
		図書整理手順
		逐次刊行物整理手順
		図書閲覧貸出手順
	作品管理(13)	出品作品管理（海外編）
		出品作品管理（国内編）
		出品作品保険付保
		環境管理
		温湿度計の運用管理
	写真管理(14)	出品作品写真管理
		企画展フィルム管理
	広報(15)	企画展周知宣伝計画
		汎用ツールの制作（プレスリリース）
		汎用ツールの制作（ポスター・チラシ）
		企画展広報活動
	作品輸送(16)	借用作品輸送計画（海外）
		借用作品輸送計画（国内）
	作品展示(17)	展示作業
		会場設営
	カタログ制作(18)	カタログの刊行
	教育普及(19)	教育普及活動
運営一般	会場監視(41)	監視員配置・会場巡回
	刊行物管理(42)	商品・販売企画
		発注・仕入管理
		棚卸手順
		売上集計・代金管理
	売札(43)	入場券在庫管理・棚卸手順
		入場料集計
	危機管理(44)	不審者の来館・侵入への対応
		不審情報・危害予告・脅迫への対応
		緊急時の処置・避難誘導
		急患者の応急処置
	SECURITY(45)	パニックオープン開錠 / 閉錠
		SECOMセット / 解除
文書・記録管理(61)		品質文書・品質記録　登録・保管
		発信・着信文書管理
		展覧会記録文書の管理
教育・訓練(81)		教育・訓練実施業務
		資格認定業務

青木繁の晩年九州時代の資料紹介

(1) 石橋美術館購入の資料　植野健造
(2) 青木繁の新聞挿絵について　後藤純子
(3) 松田諦晶資料に見る青木繁の足跡　森山秀子

はじめに

石橋美術館では，平成14(2002)年から翌15年にかけて，洋画家・青木繁(1882-1911)に焦点をあてた二つの展覧会を開催した。すなわち，平成14年11月16日から平成15年3月16日まで開催した「青木繁・坂本繁二郎生誕120年記念 筑後洋画の系譜」展と，平成15年5月20日から7月6日まで開催した「青木繁と近代日本のロマンティシズム」展である。後者の展覧会は，東京国立近代美術館との共同企画によるものであり，東京会場では，久留米会場に先だち3月25日から5月11日まで開催された。おりしも平成14年は青木繁の生誕120年にあたり，この「夭折の天才画家」の生涯と芸術の内実を再検証し，その芸術を近代日本美術史の中であらためて位置づけるよい機会となった。

青木繁の生涯と芸術についてはこれまでに多くの研究，著作があり，資料についても主要なものはすでに何らかのかたちで一般に紹介されていると考えてよいだろう[1)]。しかし，研究者や一般の美術愛好家に幅広く関心を集める青木繁研究においては，新出資料や新事実の発見が今日なお報告されることも珍しいことではない。石橋美術館でも今回のこの二つの展覧会の準備段階でいくつかの新知見をもたらす資料と出会うことができた。本稿では，それらの資料の紹介をおこない，そこから導かれる青木繁の生涯や芸術についての新知見や問題を提示してみたい。(植野)

(1) 石橋美術館購入の資料

石橋美術館では，平成14(2002)年3月に青木繁に関する資料4点を購入した。それらは，1「青木繁書簡 (明治43年11月22日付 青木鶴代，たよ子宛)」，2「青木まさを書簡(明治44年12月24日消印 福田豊吉宛)」，3「青木繁写真(幸彦を抱いた)(明治38年9月撮影)」，4「青木繁写真(明治40年撮影)」，である。これらの資料は，平成14年1月に福岡市の古書店に売りに出されたもので，それらを石橋美術館が購入したものである[2)]。以下にこれらの資料について簡単な解題を加えたい。

1. 青木繁書簡 (fig.1)

明治43年11月22日付　青木鶴代, たよ子宛
紙本墨書, 巻子装
書簡部分：縦 17.4×長さ 220.9cm
封筒部分：縦 17.4×長さ 14.8cm
（紙継5紙：長さ 1紙18.5cm　2紙60.3cm
3紙60.3cm　4紙60.3cm　5紙21.5cm）

（解題）

鶴代（ツルヨ）は青木繁の姉, たよ子（タヨ）は妹。本書簡は, 青木繁が死去する前年, 入院中であった福岡東中洲の松浦病院から姉妹に宛てた遺書とも言うべきものである。この書簡の文面は, 青木没後の大正2（1913）年に刊行された『青木繁画集』（政教社）に収められた梅野満雄「噫青木繁君」の中で紹介されて以来, 青木を語る際には必ず引かれる有名な文章である。しかし書簡の実物そのものはこれまで一度も世に登場したことはないとみられ, きわめて貴重なものである[3)]。ちなみに, 久留米市の兜山（けしけし山）頂上の青木繁歌碑は, この遺言に応えるべく坂本繁二郎らが昭和23（1948）年に建立したものである。

fig.1 青木繁書簡
明治43年11月22日付　青木鶴代, たよ子宛

（文面）
先度ハ御手紙難有存候。小生ハ其後海辺の方へ転地療養候処，左肺疾患に加へて右方肋膜炎を併発し，呼吸頗困難に陥ゐり歩行も数歩にして息切れ，病勢大に進み，致方なく当病院へ入院の身と相成申候。
爾来病褥の上へかつぎ上けられたる儘，前後左右の身動もならず，一両日は付添人も有之候へども其後ハ不来，食膳痰壺持つにも息切れ便通にも必死の苦痛，とても斯くては永かるまじくと心念候処，医師の介抱と友人の篤志とは漸く此難症を和らげ候ものか，さしもに衰弱せし喀血後の弊躯も稍元気出で，食慾付き，肋膜炎も全快，喀血も吐血も全くとまり，前後の身動きも稍自由を得，昨今は牛乳も食膳も一人にて飲み食らひ，飯も三杯を平らげ候。又方々よりの見舞物もドシドシ食べて了ひ候。医師も大に安心候様子，或は此分なれば再び浮世の風に当る事もやと力なき万一の希望も出で候心を哀れと思召被下度候。
去り乍ら左肺を全く犯し今又右肺を漸犯候事にて，此悪疾の到底不治の相場ときまり候もの，稍気分よしとて宛になるものにあらず。過日来の如くんば到底筆とりて一字も書く事ならず，此寒さにむかひて何時又悪るくなるかも知れず，小生も今度はとても生きて此病院の門を出る事とは期し居らず，深かく覚悟致居候に付，今の中に皆様へ是迄不孝不悌の罪を謝し併せて小生死後のなきがらの始末ニ付一言御願申上置候。
小生も是迄如何に志望の為めとは言ひ乍ら皆皆へ心配をかけ苦労をかけて未だ志成らず業現はれずして茲に定命尽くる事，如何ばかりか口惜しく残念には候なれど，諦めれば是も前世よりの因縁にても有之べく，小生が苦しみ抜きたる二十数年の生涯も技能も光輝なく水の泡と消え候も，是不幸なる小生が宿世の為劫にてや候べき。されば是等の事に就て最早言ふべき事も候はず，唯残るは死骸にて，是は御身達にて引取くれずば致方なく，小生は死に逝く身故跡の事は知らず候故よろしく頼み上候。火葬料位は必らず枕の下に入れて置候ニ付，夫にて当地にて焼き残りたる骨灰は序の節高良山の奥のケシケシ山の松樹の根に埋めて被下度，小生は彼の山のさみしき頂より思出多き筑紫平野を眺めて，此世の怨恨と憤懣と呪詛とを捨てて静かに永遠の平安なる眠りに就く可く候。是のみは因縁ありて生れたるそなた達の不遇とあきらめ此不運なりし繁が一生に対する同情として，是非是非取計らひ被下候様幾重にも御願申上候。
過日義雄が思懸けなく大学前の旅館に見舞に来てくれ大に生長して又他人の中にある故にや，何事も遠慮勝ちに応接したる体度，彼は一通りの思慮もありどうやら間違なく行きさうに存ぜられ，斯く病疾の身となれば一層感情に脆く相成り涙のみ先立ち大に泣かされ候。又丁度喀血の最中にて感情亢奮の結果，胸をチクチク刺して鮮血を喀く事痰壺に三杯，義雄も定めて驚ろきて帰へり候事と存候。
一時は喀血四千グラムに上ぼり，痩身貧血既に危篤に陥ゐり候て小生も全く死の近づくを待ち候処，其後の経過はよろしき方前述の如くに候。母様には其中によろしく申して被下度願上候。又御見舞に御出の事は全然やめにして被下度，一時危篤なりし故電報も差立候ものの今考へれば，御見舞も看護も受くる程の男にあらず。不幸なものは何処が何処迄も不幸にて，是が奇しき繁が運命の跋なるべく候。却て御見舞に預かり感情興奮候時は，又又喀血して大事に至るやも知れず，たよ殿の志ばかりにて満足して目を閉づ可く候。不一。
十一月二十二日
病褥にて　繁
つる代殿
たよ子殿
侍史

（封筒）
福岡県八女郡岡山村室岡吉田方
青木鶴代殿
青木たよ子殿
乞親披

福岡市東中洲
松浦病院より

2. 青木まさを書簡 (fig.2)

明治44年12月24日消印　福田豊吉宛
紙本墨書, 巻子装
書簡部分：縦 18.5×長さ 303.4cm
封筒部分：縦 18.5×長さ 16.0cm
（紙継6紙：長さ 1紙34.5cm　2紙60.3cm　3紙60.5cm　4紙60.5cm　5紙60.6cm　6紙27.0cm）

（解題）

まさを（マサヨ）は青木繁の母親, 福田豊吉は青木の恋人であった福田たねの父親。青木は明治44（1911）年3月に松浦病院で死去したが, その年の暮れに八女郡岡山村のまさをから栃木県芳賀郡水橋村の福田豊吉に宛てた書簡。この書簡から, 母親まさをが青木が福田たねとの間に一子（福田蘭童）をもうけていたことを青木の死後も知らなかったことがわかり, 青木生前の様子や青木家の家柄などについても詳しく記されている。本書簡は, 昭和3（1928）年10月発行の『みづゑ』第284号所収の西田武雄「天才繁の母の手紙」において紹介されたものであるが, これも実物は一度も世に出たことはないと思われる貴重な資料である。

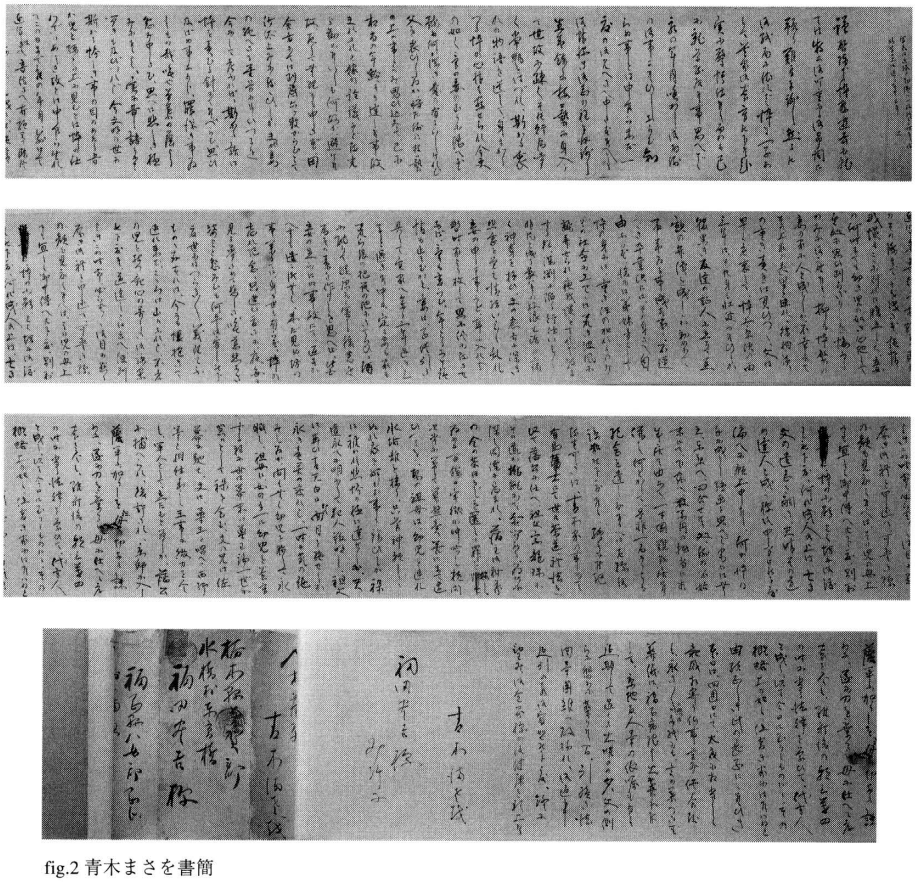


fig.2 青木まさを書簡
明治44年12月24日消印　福田豊吉宛

（文面）
謹啓陳者忰繁逝去に就ては特に御叮重なる御吊詞に預り難有奉謝候然るに御紙面に依れば忰に一子ありて貴家御養育被下候よし実に驚愕仕候而かも已に就学致居候事思へば永の年月嘸かし御面倒の御事に候ひしならむ知らぬ事とは申乍ら未だ一度の御見へさへ申さず候へども御情深き御志の程奉深謝候，生家余りに技芸に見入りて世故に疎くその行為多く常軌をはづれ，斯かる哀れの物語を遺して，身まかりつる忰の心情も察せられ今更の如く気の毒に至りに堪へず，予而何か深き憂の有るらしけれど父を喪ひし為か将た例の技芸の上の事とのみ思ひ込みて，已に相当の年齢にも達し候事故夫れなれと嫁の詮議など致し充分勧め候ひしも何故か避け候故，左して無理にも申さず，田舎者にては到底六ヶ敷からむとて沙汰止みに致候ひしか夫れか妾の絶へざる苦労に候ひつるを今にして考ふれば，斯かる話は忰を責むる針にて候ひつらむ思ひ及ばぬ事ながら，罪深き事為しもの哉嘸や草葉の蔭より怨み申さむ，思へば悲しき極みに候よ実に昔し語りには聞きも及びつれど，今文明の世に斯かる惨しき事の目のあたり吾が児と孫との上に見むとは忰の仕わざのあしき故とは申乍ら生れてこの日まで永の年月，別けて近年は音信さへ打絶えて臨終のその際まで，そを洩さず，強情我慢もこゝに到れば腹立しく，妾の何時までも幼き児の如き心地して其処に思ひ到らざりしを悔ふるのみに御座候，抑も忰繁の妾の家に人と成りしか，不幸にてその上家の長男と生れ，後相続の重き責をは負ひつゝ，父は早く老衰して，忰上京頃の両三年は，その身も壮健に候ひしが腹黒き友達の証人に立ちて巨額の弁償を成ししか初めにて爾来ゐる事，成事，不運つゝき卒業頃には，その身さへ自由ならず，後には弟妹多くして忰の身には，重き任の加れるのみその社会に立てゝは荒き波風に翻弄せられ痩我慢をすれば為る程，深淵に陥り行往いよいよ非凡と成り数年の放浪生活に痛く神身を損ひ，夫の喪去に深き悲哀を覚え情緒いよいよ乱れ妾の申す事など，耳に入れず暫時家より放して思ふ儘に致させなど，気も変らむ，年とりなば強情も止まむかと，妾は，子供引き具して実家へ参り二年過ぎ三年を過ぎ候中に定る妻も家も荒ら浪の把菰の地にさすらひ，酒に耽りて健康を害し後患を為すの責を作りしと思へば，皆妾の足らはぬ事故にて，返すかへすも遺る瀬無く，未だ見ぬ坊の事承りては，身も世も有らず，忰の忘れ紀念，只遭ひ度さに，夜毎に見る夢さめて悲しき，嘸慈悲なき婆よと怨みむも，何卒御宥し被下度世にはつらきつらき義理てふものの存すれば，今にも抱きて連れ来む，こゝろは山々なれど，不孝の児を持つ親心の苦しさは御諒察被下度候，道遠しとは云へ，便利よきこの時節，必らず必らず御目に懸り厚き御礼を申述べ，可愛き孫の顔も見度く候へは，その児の母上にも宜しく御申伝へ被下度，別封忰の小影，よく坊に御渡し被下度，何れ成人の上は，亡き父の遺志を嗣き，天晴その道の達人と成る様御申聞け被下度偏へに願上申候，何か忰の身に成りし絵画と思へど宅には無之，東京へ，問合せ候処，例の不始末にて，下宿へ，数百円の抵当に相成候由にて，一寸困難致居候併し何とかして，是非一面なりとも紀念を遺し度候へば左様御諒恕被下度候，終りに付記致す可きは，青木家の事にて有馬藩士にて世に茶道，礼法を以て藩公に仕へ，祖父宗龍殊にその道の堪能にて令聞あり，為めに深く同僚に忌まれ，藩主御秘蔵の金の茶ほうじを匿して罪を嫁し為めに百余日牢獄に呻吟し拷問，次第につのりて算盤責苦にまで遭ひつるを繁の祖母は，幼児を連れ水垢離を採り，只管神願してぬれ衣を解かん事を請ひしが禄は褫かれ悲惨の極に達せしか，天道永へに明にして犯人判明し，祖父は再ひ晴天白日却て面目を施せしか永き責苦の疲れと，一時に気の弛みし為か，間も無く幼児を胎して永眠し，祖母は，女の手一に幼児を養育する程に世は幕末の尊王論一世に囂々として禄を食む，夫の兄は佐幕に馳せ，夫は，尊王を唱へて西郷等と相往来し王事に微力を尽し，軍人として，立たむと為しか，藩公に捕へられ，後許され，京師に入り薩軍に加りしを祖母の切なる諌めに，遂に刀を棄てゝ，祖母に仕へて孝養を尽し，維新後の朝三暮四の時に当り法律を学びて，代言人を成し，以て今日に至りしものにて，その概略上の如く，位高き家には候はねど由緒正しき氏の長子にて候ひき本日は，四週日にて，太夜に相当し親戚相寄り仏事営み供養致し，永き永き手紙にて，言の葉つきず葬儀は，福岡病院より火葬に付して京地友人等の依嘱も有之延期して過ぐる火曜日の夕，父の側らに懇ろに葬り候間，引続き法回等困難に取紛れ，御返事延引の段御宥恕被下度，終に望み，御全家様の御健康を祈上候
青木まさを
福田豊吉様
み許に

（封筒）
栃木県芳賀町水橋村東高橋
福田豊吉　様

福岡県八女郡岡山村室岡
青木まさを
(明治44年12月24日消印)

3. 青木繁写真(幸彦を抱いた) (fig.3)

明治38年9月撮影
写真:縦 9.0×横 5.9cm　台紙:縦 12.5×横 8.4cm
台紙裏面にインクによる書き込み:青木繁　幸彦
明治三十八年八月二十九日　生後二十一日目

4. 青木繁写真 (fig.4)

明治40年頃撮影
写真:縦 11.0×横 7.8cm　台紙:縦 16.0×横 11.0cm
台紙印刷:久留米市日吉町弐丁目　江上写真館
M. Egami
台紙裏面に墨による書き込み:梅野蔵　故青木繁君

(解題)

3, 4ともに青木繁の画集, 文集等に掲載される写真のオリジナルプリントとしてきわめて貴重である。3の台紙裏面のインクによる書き込みの筆跡は, 青木のものではない。

以上がその概要である。これら4点の資料のうち, 1と4は福岡県久留米市の青木家に, 2と3は栃木県芳賀郡水橋村の福田家に当初はあったはずであるが, その後の来歴の詳細については不明である。1と2は現在巻子形式に装丁されている。このように装丁された時期について, これらの資料の購入先である古書店社長の宮徹男氏のご教示によれば, 1は昭和戦前期の装丁ではないかとのことであり, 2については平成11年に古書店が入手されて以後に施されたものであるとのことである。また, これら4点は, 先述「筑後洋画の系譜」展に出品展示され, 1「青木繁書簡(明治43年11月22日付 青木鶴代, たよ子宛)」は「青木繁と近代日本のロマンティシズム」展にも出品展示された。いずれも, 青木の生涯を語るうえでの第一次資料としての価値はきわめて高いものと言えるだろう。

註:

1) たとえば, 青木繁研究の基本文献として, 青木の文章をまとめた青木繁『仮象の創造』(中央公論美術出版, 昭和41年1月)があったが, 最近, この内容に新出資料と青木の友人らの追悼文を増補した, 『仮象の創造—青木繁全文集 増補版』(中央公論美術出版, 平成15年6月)が刊行された。
2) これら4点の資料の紹介と売り立てのことは, 『西日本文献目録 福岡葦書房古書目』第40号(平成14年1月)に掲載された。
3) 管見では, この書簡が展覧会において公開された例を知らない。また, 刊行物においても, 河北倫明『青木繁—悲劇の生涯と芸術』(角川書店〈角川新書〉, 昭和39年10月)の中で写真掲載されているのが唯一の例ではないだろうか。

fig.3 青木繁写真(幸彦を抱いた)
明治38年9月撮影

fig.4 青木繁写真
明治40年頃撮影

(2) 青木繁の新聞挿絵について

1. 調査の発端

青木繁に関連する二つの展覧会の事前調査のため，石橋美術館では所蔵している地元新聞のマイクロフィルムや開館当初から実施している新聞スクラップ帳の中から青木繁に関する新聞記事の調査をはじめていた。ちょうどその頃，北原白秋研究家・調海明氏（福岡県大川市出身・東京都在住）により，明治40（1907）年青木繁が地方紙『九州日報』に「美術閑話」というタイトルで7回にわたって芸術論などを語っている記事が発見され，調氏は『白秋の証言 資料集12』でこれを発表し，青木繁の晩年を知る新資料として注目された[1)]。

さらに調氏は『白秋の証言 資料集13』に「青木繁の新資料2」として『九州日報』に掲載された2編の記事の全文を掲載[2)]，さらに同資料集の中で，明治44（1911）年3月，佐賀師範学校を会場として開催された九州図画展覧会に青木繁が準備段階で関わった可能性を示唆し，これら一連の新資料から，従来語られてきた破滅的な青木繁の晩年のイメージに対し疑問を投じられた。

石橋美術館では青木繁が父の危篤の報を受けて九州へ帰省してから亡くなるまでの期間，地元の新聞にまだ発見されていない青木繁の生前の記事がないか，また調氏の指摘にあるように青木繁が「九州図画展覧会」に関係していたことを示す記事がないか調べることにした。

2. 調査範囲と結果

石橋美術館では過去における地元の美術情報調査のため，明治から開館前までの『西日本新聞』（前身の『福岡日日新聞』も所蔵）のマイクロフィルムを計画的に購入している。今回明治40（1907）年～44（1911）年の『九州日報』のマイクロフィルムを購入し，同年間の『福岡日日新聞』とあわせて調査の結果，青木繁の挿絵6点を発見した。

また佐賀県立図書館にて明治44年の『佐賀新聞』のマイクロフィルムを閲覧の結果，「九州図画展覧会」に関係する記事の中で，青木繁に関係する下記の記事を発見した。

「九州図画展覧会　既報の如く九州図画展覧会は来二十七八九の三日間午前九時より午後五時迄当師範学校内に於て開催せらるる筈なるが，出品図画は在東京太平洋画会白馬会の水彩画協会等の油絵十五点水彩画四十三点共逸品多く，他に東京美術学校卒業者の製作品及現生徒の作品十九点あり。尚本県中学校図画教師の出品油絵六点水彩画一点日本画十点県外中等学校生徒作品三百余点県内同上五百余点にして悉く到着目下陳列に着手中なるが，小城中学出青木氏の作品は天下既に定評あれば陳列中の異彩なるべく市内有志よりの出品にかかる古画（三十点）も又貴重の品なりと云ふ。因に二十九日午前九時よりは東京美術学校長代理として出張の同校教授大澤工学士，中学校講堂に於いて一場の講演を為す由にて氏は美術装飾建築等に長じ本年巴里に於て開設されたる図画教育会に文部省より派遣されたる事あり。図画工芸教育に関係あるものは聴講差支へなしと」/『佐賀新聞』明治44年3月27日

文中に「小城中学出青木氏の作品は天下既に定評あれば陳列中の異彩なるべく」とあり，青木繁は小城中学出身ではないが，本記述は小城中学校（現佐賀県立小城高等学校）所蔵の青木繁《朝日》（明治43年作）が九州図画展覧会に出品されたものと思われる。なお，この記事には句読点がないが読みづらいのでそれを補った。

3. 青木繁の新聞挿絵

新発見の挿絵は次の6点である。

〈挿絵1〉(fig.5)
右手に酒瓶をもつ男の立像，画面外に「青木繁画」，∞のサインあり /『九州日報』明治41年1月7日5面

〈挿絵2〉(fig.6)
花と杯，タイトルなし，線で囲みカタカナでシゲルのサインあり /『九州日報』明治41年5月17日1面
＊青木繁作か検討を要する

〈挿絵3〉(fig.7)
花とかたつむり，タイトルなし，線で囲みカタカナでシゲルのサインあり /『九州日報』明治41年5月29日1面　＊青木繁作か検討を要する

〈挿絵4〉(fig.8)
柿の木々が手前に描かれ奥に数軒の農家と森林，「西肥の秋色（其一）」，画面に「柿の村」の文字

と∞のサインあり /『福岡日日新聞』明治42年10月28日5面

〈挿絵5〉(fig.9)
山間の風景, 画面外に「西肥の秋色(其二)」, 画面に「天山路」の文字と∞のサインあり /『福岡日日新聞』明治42年11月2日5面

〈挿絵6〉(fig.10)
家屋と傘をさした人物の後ろ姿, 画面外に「西肥の秋色(其三)」, 画面に「温泉村」の文字と∞のサインあり /『福岡日日新聞』明治42年11月6日5面[3)]

fig.5 〈挿絵1〉『九州日報』
明治41年1月7日5面

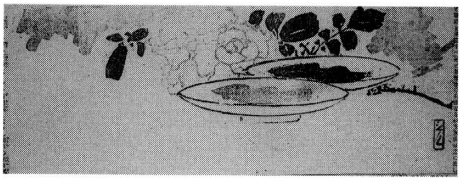


fig.6 〈挿絵2〉『九州日報』明治41年5月17日1面

fig.7 〈挿絵3〉『九州日報』
明治41年5月29日1面

fig.8 〈挿絵4〉『福岡日日新聞』
明治42年10月28日5面

fig.9 〈挿絵5〉『福岡日日新聞』
明治42年11月2日5面

fig.10 〈挿絵6〉『福岡日日新聞』
明治42年11月6日5面

以上の調査結果は「青木繁と近代日本のロマンティシズム」展図録の年譜, 文献目録に反映された。

4. 挿絵のサインについて

青木繁は雑誌や詩集などに挿絵を描いているが, その中のいくつかに∞のサインが見える。今回の調査の際, そのサインが青木繁の挿絵の発見に役立った。

青木繁の∞のサインについては, 『青木繁画集』(政教社, 1913年4月)の絵画目次の後に附記として次のように書かれている。

二.款記について。
(省略)其外単にS-Aと署し, また羅馬数字の８字を横にしたるが如き符標を用いたるもあり, 『春鳥集口絵』はその例なり。こは坂本氏の言に依れば, 二圏(「圏」は「まる」の意：後藤補)を繋ぎたるものにして, 当時青木, 坂本, 森田の三氏連盟の符標として, 森田氏は三圏, 坂本氏は四圏を用うべき定めなりしが, この発案も余り実行せられずして止みたるなり。(省略)

ところで岩野美衛(泡鳴)の詩集『夕潮』(日高有隣堂, 1904年11月)と中村吉蔵著『旧約物語』(金尾文淵堂, 1907年1月)は青木繁の挿絵を含んでいることがよく知られているが, その中の次の2つの図版(fig.11, 12)はこれまで紹介されていない。これもサインから青木繁によるものとわかる。

今後も青木繁が〈挿絵2, 3〉(fig.6, 7)にある「シゲル」というサインを他に使用している例がないか調査を進め, この挿絵が青木繁によるものかどうか明確にしたい。

註：
1) 「美術閑話」は『仮象の創造—青木繁全文集 増補版』(中央公論美術出版, 平成15年6月) に収録された。
2) 「洋画大家来る(青木繁の帰省)」/『九州日報』明治40年10月4日4面
「青木画伯の談片」/『九州日報』明治40年10月6日4面, これも『仮象の創造—青木繁全文集 増補版』に収録。
3) 挿絵6については, 平成15(2003)年4月15日から5月5日, 福岡県八女郡黒木町「学びの館」で開催された久留米出身の青木繁, 坂本繁二郎, 高島野十郎の未公開作品展示において, おなじ構図の青木繁のスケッチが展示されており, 下記新聞記事に図版が掲載されている。
『西日本新聞』2003年4月13日
『朝日新聞』2003年4月17日
『毎日新聞』2003年4月18日筑後版
『読売新聞』2003年5月4日筑後版

(3) 松田諦晶資料に見る青木繁の足跡

久留米生まれの洋画家, 松田諦晶(本名は実, 1886-1961)は, 同郷の青木繁(1882-1911), 坂本繁二郎(1882-1969)より4歳年下, 古賀春江(1895-1933)より9歳年上で, 年代的にはこの3人の画家にはさまれた形である。彼は, 草創期の二科会に入選を果たした経歴を持つが, 二科賞を受賞した後輩の古賀にバトンを渡すかのように, 中央画壇から身を引いてしまう。そのせいか, 上記3人の画家に比べると, その名は広く知られてはいないが, 青木と古賀は早世, 坂本は近郊の八女に転居したのに対し, 彼は生涯郷里にとどまり, 後進の指導にも熱心だったため, 久

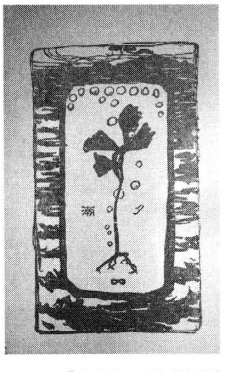


fig.11 『夕潮』扉絵(海藻)
野田宇太郎文学資料館蔵

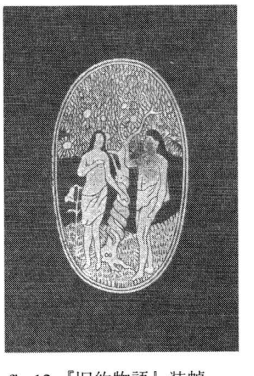


fig.12 『旧約物語』装幀

留米の洋画界ではむしろ3人よりも直接影響力をもった画家であったと言えよう。

松田は，制作の上でも3人の画家から触発されることが多かった。だからこそ，彼の作品が心ない者の手で，ある時は青木の作品に，あるいは坂本の作品に，また古賀の作品に擬せられることもあったのである。

松田が残した作品アルバム，日誌，スケッチブック，彼あての書簡などの資料類を石橋美術館は所有している[1)]。その資料類から，松田と上記3人の画家との関わりをたどることは可能である。なかでも，坂本と古賀に関しては，松田が受けとった書簡類が残っているし，彼の日誌にはこのふたりの名前がたびたび記されている。松田は，21歳の頃から，坂本に作品の批評を請うこともあった。古賀からは「ミーしゃん」と言って慕われ，ひんぱんに行き来し，一緒に写生に出かけることもあったほどである。このふたりの画家との関わりに比べれば，青木繁との関わりはそれほど深いようには見えない。と言うのも，松田が青木と接することのできた期間は，青木が久留米に帰省してから亡くなるまでの約5年間に限られ，しかもその間，青木は久留米に定住するわけでなく九州各地を放浪することが多かったからである。しかし，松田が残した資料は，没後なお青木が松田に対して大きな影響力を持ちつづけたことを物語っている。

松田資料のなかの青木関連資料をまずは下に列記し，その後，詳細に触れながら若干の考察を加えていくこととする。

1. 松田資料のなかの青木関連資料

〈資料1〉明治40年1月30日～大正元年12月21日の日誌。この日誌は，当初のものではなく，松田自身によってのちに整理されたもののようである。

〈資料2〉明治44年5月～12月のスケッチブック

〈資料3〉明治45年・大正元年7月31日～大正2年4月5日のスケッチブック

〈資料4〉大正2年3月～大正3年3月の日誌。この日誌は，松田自身の書簡の写しからなる。

〈資料5〉昭和6年の日誌

〈資料6〉昭和23年の日誌

〈資料7〉昭和34年8月1日～昭和35年，36年の日誌。この日誌の表紙には「老いゆく日」と記されている。

〈資料8〉明治42年6月～10月のスケッチブック

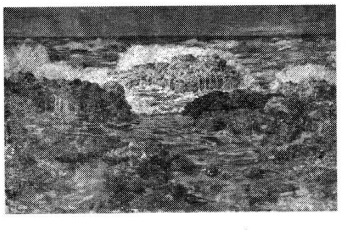


fig.13 松田諦晶《壱岐の赤瀬》
1910年 油彩・カンヴァス

2. 青木の死まで

青木生前の両者の関わりについては，現時点では，松田の日誌（資料1）に2カ所確認できるのみである。明治42（1909）年8月17日の「絣事務所出勤中正午青木繁氏より電話あり。金の相談なり」という記述と，明治43（1910）年2月23日の「事務所の帰途午后二時半，両替町本荘古書店にて，青木繁氏の油絵を見る」という記述である。この時期，松田は，久留米絣同業組合に書記として勤めていた。「事務所」とあるのは，この絣同業組合の事務所のことである。残念なことに，松田のスケッチブックには後者の記述と対応するスケッチが残されておらず，松田が見た青木の油絵を特定することはむずかしい。もし推測を許されるならば，この年，松田は海を描く機会があったことから，松田が見た青木の絵とは海を描いた絵でなかったか，という推測もできよう。松田は，4月は唐津へ，8月は壱岐に出かけており，たとえば，壱岐での制作になる《壱岐の赤瀬》(fig.13)には，青木の海の絵からの影響が明確に見てとれるからである。

さて，次に出てくる記述はと言うと，明治44(1911)年3月25日，青木繁逝去に関する記述（資料1）である。「午前七時 青木繁氏逝く（於福岡九大附属病院）」という記述の後に，「おこたらぬ 永いたつきに痩せし頬 水鏡する春の雪どけ」という歌が記されている

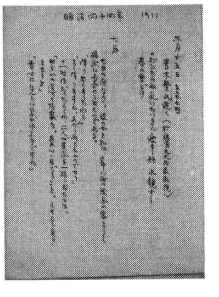


fig.14 明治44年3月25日の松田の記述
〈資料1〉明治40年1月30日～大正元年12月21日の日誌

(fig.14)。簡単な記述であるが，青木の死が松田に衝撃を与えた様子が伝わってくるようだ。歌については，のちにまた触れることとする。

青木生前の両者の関わりは，青木の死後もつづくことになる。そもそも，青木との関わりは，松田ひとりの問題でなく，青木を知る者にとって，青木がいかに大きな存在であったかを物語るひとつの例にすぎないとも言える。

3. 青木没後(大正まで)

青木が亡くなった年の10月，松田は，青木の作品を見せてもらう機会があった。「中学生武田(安)君の案内にて三潴郡三又村鐘ヶ江中村綱二氏を訪ね，故青木繁氏遺作『晩帰』を見る」と彼の日誌(資料1)にある。「晩帰」とは，長く清力酒造にあり，現在は(財)ウッドワン美術館所蔵となっている《漁夫晩帰》(fig.15)のことである。松田のスケッチブック(資料2)にその時描かれたと思われるラフスケッチが残されている(fig.16)。さらに，その同じスケッチブックには，大変興味深いデッサンが2点含まれる(fig.17, 18)。2点とも，9月頃に描かれたと思われる。いずれも目と口を大きく開け，体をくねらせる女性の群像で，たとえば，『方寸』5巻3号(明治44年7月)に掲載された青木のデッサン(fig.19, 20, 21)を連想させ，青木からの影響を強く感じさせる。松田が青木のどの作品から触発されたのか特定はできないが，この『方寸』5巻3号は，青木繁を特集したものであり，松田がこの号を見逃したはずはないだろう。さらに，ここでも推測が許されるなら，松田は青木の女性群像を何らかの方法で目にする機会があり[2)]，そこから創作欲をそそられ，さらに《漁夫晩帰》も見たいと思ったのではないか，という推測も成り立つかもしれない。

次に，明治45(1912)年3月16日の記述に「文展の南氏の絵を美術新報で見ました。平和で気持ちよさ相て成効[成功]の作だと思はれます。然しこれは南氏の様な境遇であり性格の人としての事で，若し

fig.15 青木繁《漁夫晩帰》1908年
油彩・カンヴァス (財) ウッドワン美術館蔵

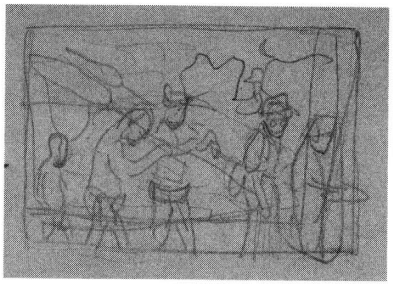


fig.16 松田による《漁夫晩帰》のスケッチ
〈資料2〉明治44年5月～12月のスケッチブック

fig.17 松田のデッサン
〈資料2〉明治44年5月～12月のスケッチブック

fig.18 松田のデッサン
〈資料2〉明治44年5月～12月
のスケッチブック

青木さんの様な境遇の人で青木さんの様な性質の人が，これと同様の絵を描いたとしたら，私はおかしな事だと思ひます。(以下略)」とある(資料1)。この記述は，兄にあてた書簡の写しかと思われる。松田は，スケッチブックや日誌の中に書簡の写しを残している場合が多い。それはともかく，この記述で触れられている「文展の南氏の絵」とは，南薫造の第5回文展出品作《瓦焼き》のことを指している。さらに「青木さん」とは青木繁のことであろう。南薫造の作品についての感想を述べる際に，青木繁のことを引き合いに出すあたり，青木のことが松田の中で意識されていたことの証ととらえることができよう。

次に明治45年7月初旬のメモと思われるものが，スケッチブックに残されている(資料3)。「青木繁氏 おこたらぬ 永いたつきに痩せし頬 水かかみする春の雪どけ」というメモである(fig.22)。「おこたらぬ」で始まる歌は，「水鏡」か「水かかみ」かの違いはあるものの，先に松田の日誌に記されていた歌と同じである。さらに松田は，46年も後になって，この歌を「青木繁と筑後の画壇」という文章で紹介している[3]。「当時地方新聞には東中洲松浦病院に於てと報道し辞世の歌として掲載されてゐた『放浪の長いたつきに痩せし頬水鏡する春の雪消け』の記憶が今も甦つて来る」という紹介文である。日誌やスケッチブックに記されていた歌とは少し違うけれども，これも同じ歌だと思われる。放浪の果て病を得てやせ衰えたわが身を嘆くさまが歌われている。以上のように，この歌は，松田の記述のなかで語句が少しずつ異なり，掲載紙を確認できていない現時点では[4]，正確なところを記すことはできないが，今まで紹介されたことのない歌として，また松田が言っているようにあるいは当時の新聞が報じていたように青木辞世の歌として注目される。

大正2(1913)年6月11日付佐野年一あて書簡(資料4)のなかで，佐野と古賀春江の絵を見ての感想を述べるところがあるが，そこでも松田は坂本繁二郎や青木繁のことを引き合いに出さずにはおれなかった[5]。世間受けのよい看板絵を描くことが幸福であ

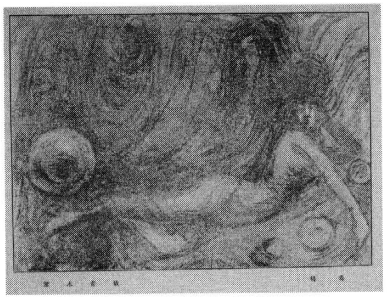


fig.19 青木のデッサン
『方寸』5巻3号(明治44年7月)に掲載

fig.20 青木のデッサン
『方寸』5巻3号(明治44年7月)に掲載

fig.21 青木のデッサン
『方寸』5巻3号(明治44年7月)に掲載

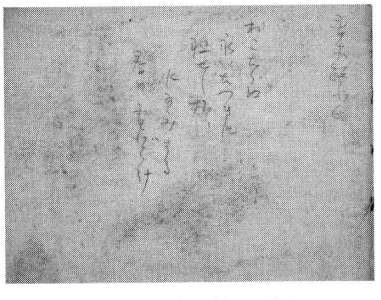


fig.22 明治45年7月初旬の松田によるメモ
〈資料3〉明治45年・大正元年7月31日～
大正2年4月5日のスケッチブック

るか不幸であるか，という自問自答のなかで坂本や青木の名前が出てくるのである。古賀はこの書簡のなかでは当事者と言ってよく，坂本は，当時松田と行き来があったのでここで出てきても不思議ではないが，青木はすでに亡くなっているにもかかわらず，まだ松田にとって意識すべき存在であったことがわかるのである。

4. 青木没後（昭和）

その後の青木との関係を示す記述を松田の資料のなかに探っていくと，青木のことを知る松田のもとには，青木が残した作品についての相談が持ちかけられることもあったようだ。昭和6（1931）年6月25日，高島宇朗が松田のところにやって来て，所有する青木の作品を売りたいから世話をしてくれと頼んだ[6]，という記述が，松田の日誌のなかにある（資料5）。「板よりもスケッチブックの小品がよい実に面白い」とある。

昭和23（1948）年4月25日，坂本繁二郎らの尽力で，久留米の兜山（通称けしけし山）に青木繁歌碑が建てられ，その除幕式が執り行われた。松田も式に参列したが，彼の日誌（資料6）には，「故青木繁歌碑除幕式参列」と記されるのみである。

昭和34（1959）年12月1日，松田は，自分のスケッチブックに青木が描いた自画像を手放すことにした（資料7）。その青木の自画像があったと思われるスケッチブック（資料8）には，確かに1枚だけ切り取った跡がある(fig.23)。残された下のページには，上から強く押すことによってできた線の跡が残っており，その図柄から，松田が手放した青木の自画像は晴明会館所蔵の《平島氏像》(fig.24)であることが確認できる。この《平島氏像》は，以前は青木晩年の自画像とされ，現在明治43（1910）年の作とされているものである。ところが，もとの松田のスケッチブックは，明治42年の6月から10月まで使用されていたものであり[7]，制作年については，再考が必要かもしれない。モデルとされる平島信は，当時小城中学校の図画教員をしていた人で，青木は彼のもとに寄宿していたと伝えられる。松田が青木の自画像だと言っていたのは，彼の思いこみであった可能性もあるだろう。ここでは，モデルの問題や制作年の問題は，これ以上深く考察しないことにして，スケッチブックそのものに目を向けたい。

下のページに，これほど強く線の跡が残るのは，まさしく青木の筆であることを示している。強い筆圧は，青木のデッサンの特徴と言ってよい。同じスケッチブックの次のページに強い筆圧で描かれたデッサンがあるが(fig.25)，これも青木の手になる可能性が高い。

それにしても，松田のスケッチブックに何故青木がデッサンを描いたのか，あるいは青木のスケッチブックを松田が譲り受けたものなのか，謎が多い。松田が日誌に記していない青木との関わりもあったかもしれない。この時期明治42年の松田の記述に，「絣事務所出勤中正午青木繁氏より電話あり。

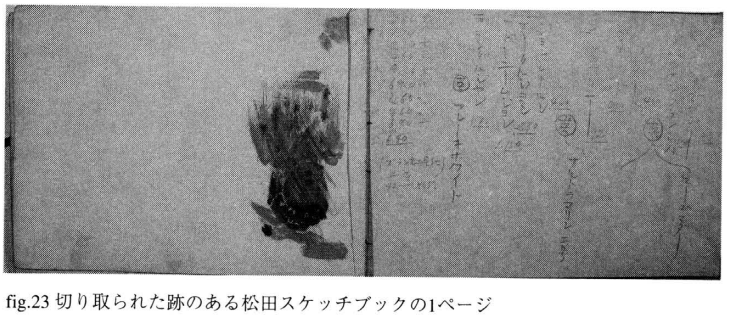


fig.23 切り取られた跡のある松田スケッチブックの1ページ
〈資料8〉明治42年6月～10月のスケッチブック

金の相談なり」とあったが，青木のデッサンとこの「金の相談」とは対応するものなのか，これも想像の域を出ない。

松田と青木の関わりを示す資料はけっして多くはない。しかし、ふたりの関わりが結局は松田の死の直前までつづくことを伝えるには充分とも言える(スケッチブックに描かれた青木の自画像を手放した翌々年に松田は亡くなる)。松田が残した資料のなかに青木の足跡をたどる作業を通し、松田のなかではもちろんのこと、久留米における青木の存在の大きさに改めて直面した感がある。

註：

1) 松田資料の全容については，昭和60(1985)年に石橋美術館で開催された「生誕百年記念 松田諦晶展」カタログ巻末の「松田諦晶資料」を参照。
2) 必ずしも図版を通してとは限らないだろう。たとえば，この明治44年には，福岡市においてアカシア会洋画展覧会が開かれ（7月18日～25日)，青木の作品も参考品として出品されたようであるので，実際に作品を目にした可能性も考えられよう。
3) 『櫨』no.5（青木繁特集)，昭和33(1958)年11月
4) 石橋美術館が所蔵する松田の資料のなかには，この文章の原稿とそのための草稿と思われるものがあって，その草稿に，「郷土新聞切抜の断片(福日か九州日報？)で博多東中洲松浦病院とあり報道は大略読売と同文で，相違する処はただ『放浪のながいたつきに痩せし頬水鏡する春の雪消』の辞世の歌が掲載してあつた様に記憶が甦つて来る」というくだりがある。松田の言う「地方新聞」は，彼自身のメモにもあるように『福岡日日新聞』か『九州日報』の可能性が高いと予想し，両紙に該当記事を探してみたが，残念ながら見つけることはできなかった。
5) 佐野年一は，古賀春江とともに松田に絵を習ったこともあり，当時東京で古賀と下宿を同じくしていた。
6) 高島宇朗は，詩人で青木の友人，青木の作品を多数所有していた。
7) このスケッチブックの表紙に「明治四十二年 自六月 至十月」と彼自身が記している。

（うえのけんぞう，ごとうじゅんこ，もりやまひでこ
石橋美術館）

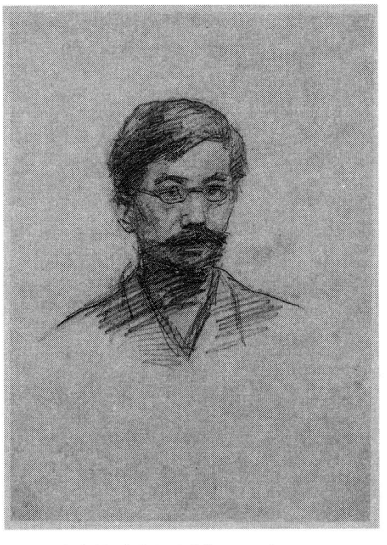


fig.24 青木繁《平島氏像》 1910年
鉛筆・紙
晴明会館(晴明教)蔵

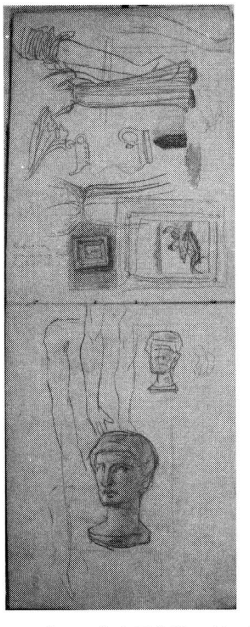


fig.25 青木のデッサンである可能性の高い松田スケッチブックの1ページ
〈資料8〉明治42年6月～10月のスケッチブック

美術館案内　Guide to the Museums

ブリヂストン美術館

所在地　東京都中央区京橋1-10-1（〒104-0031）
TEL（03）3563-0241
URL　http://www.bridgestone-museum.gr.jp
開館時間　午前10時－午後8時（火－金）
午前10時－午後6時（土・日）
休館　毎月曜日　年末年始
入場料　個人：
一般 700円　シニア（65歳以上）600円
大・高生 500円　中学生以下 無料
団体（15名以上）：
一般 600円　シニア（65歳以上）500円
大・高生 400円　中学生以下 無料
なお，特別展の場合は変更することがある。

Bridgestone Museum of Art

Address　10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo
104-0031, Japan
Phone: ＋81 (3) 3563-0241
URL　http://www.bridgestone-museum.gr.jp
Hours　10:00 to 20:00 (Tuesday-Friday)
10:00 to 18:00 (Saturday, Sunday)
Closed on Mondays, New year holidays
Admission Individual:
Adults ¥700; Seniors 65 or older ¥600;
Students ¥500; Children under 15 free
Group (15 or more):
Adults ¥600; Seniors 65 or older ¥500;
Students ¥400; Children under 15 free
Different fees will be charged during special exhibitions.

石橋美術館・石橋美術館別館

所在地　福岡県久留米市野中町1015（〒839-0862）
TEL（0942）39-1131
URL　http://www.ishibashi-museum.gr.jp
開館時間　4月－9月　午前9時30分－午後5時30分
10月－3月　午前9時30分－午後5時
休館　毎月曜日　年末年始
入場料　個人：
一般 500円　大・高生 300円
中学生以下 無料
団体（20名以上）：
一般 400円　大・高生 200円
中学生以下 無料
なお，特別展の場合は変更することがある。

Ishibashi Museum of Art / Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery

Address　1015, Nonaka-machi, Kurume-shi,
Fukuoka 839-0862, Japan
Phone: ＋81 (942) 39-1131
URL　http://www.ishibashi-museum.gr.jp
Hours　April-September 9:30 to 17:30
October-March 9:30 to 17:00
Closed on Mondays, New year holidays
Admission Individual:
Adults ¥500; Students ¥300;
Children under 15 free
Group (20 or more):
Adults ¥400; Students ¥200
Children under 15 free
Different fees will be charged during special exhibitions.

石橋財団職員

常務理事	中山　暁
	富山　秀男
美術品保存管理課長	石井　亨

事務局

事務局長	遠藤　長夫
	押本　仁子
	森田麻利子
	坂野　友也
	石黒　経子
	土屋　益子

ブリヂストン美術館

館長	富山　秀男	学芸課　学芸課長	貝塚　健
副館長	宮崎　克己		中田　裕子
事務部　事務部長	黒田　昌弘		塚田美香子
	中村　邦子		中村　節子
	金森　大輔		福満　葉子
	金子　伸子		
	貝塚　永子		
	石川　久子		
	小原田鶴子		

石橋美術館・石橋美術館別館

館長	喜多村禎勇	学芸課　学芸課長	植野　健造
副館長	田内　正宏		森山　秀子
事務部　事務部長	郷原　耕亮		後藤　純子
	富松　弘美		平間　理香
	原　朋子		

2003年3月31日現在

館報51号(2002年度)

Annual Report of Bridgestone Museum of Art &
Ishibashi Museum of Art No. 51 (2002)

編集・発行

Edited and published by

石橋財団ブリヂストン美術館
〒104-0031　東京都中央区京橋1-10-1

Bridgestone Museum of Art, Ishibashi Foundation
10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan

石橋財団石橋美術館
〒839-0862　福岡県久留米市野中町1015

Ishibashi Museum of Art, Ishibashi Foundation
1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka 839-0862, Japan

印刷
モリモト印刷株式会社

Printed by
Morimoto Printing Co., Ltd.

2003年10月発行